

# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 桐生のあゆみ

### 名領主 石川将監忠房 (桐生と安中に残る生祠)

徳川時代の桐生地方の政治は、次のような3期に区切ることができる。

**第一期** 天領時代 天正18年(1590年)8月より寛文元年(1661年)8月まで — 71年間

**第二期** 館林領時代 寛文元年(1661年)8月より天和2年(1682年)4月まで — 21年間

**策三期** 分給時代 天和2年(1682年)4月より慶応4年(1868年)9月まで — 186年間  
天領は郡代・代官の支配する幕府の直轄領。

館林領時代の館林城主は徳川綱吉で、綱吉が5代將軍職をつぐようになってからは、桐生領は一部は天領、あとは旗本207騎に分給となった。

こうした沢山の領主(旗本)の中で、名領主として石川将監の名前が、ただ一人いまも残されている。

石川将監は寛政9年(1797年)堤村(桐生市堤町)の領主となるや、荒蕪地の開墾を計画し、資財を投じ、家臣大野市之進・佐藤順太夫に命じ、4年の歳月をかけて新地を開いた。そのため入植した農民は、その恩恵に感じ、文化7年(1810年)世に類例の少い生祠三社大明神(領主石川忠房・家臣大野市之進・佐藤順太夫霊)を建立し、徳を

たたえた。この生祠は現在も市内堤町に残っている。ただし現石祠は安政3年(1856年)に再建したものである。

(生祠とは生存中に、本人を尊崇敬慕して神として祀るやしる)

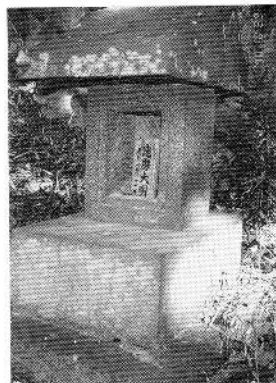
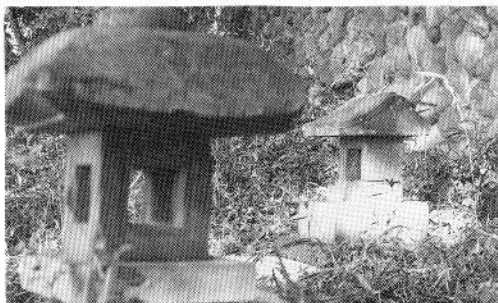
石川将監忠房は、宝暦5年(1755年)旗本伊丹勝興の子として江戸赤坂に生れた。7才の時、叔父石川鍋八郎忠国の養子となり、石川忠房となった。19才で小普請組に入り、二条城在番勤務・大阪在番などを経て、寛政3年御日付役に進んだ。その年松前へ遣日ロシヤ使節ラックスマンが来航。石川忠房は命じられてラックスマンを帰国させる為、に訥諭使(ぎゆし)主席となり、松前でラックスマンと会談説得に成功した。

寛政7年作事奉行、寛政9年勘定奉行となり、山田郡山地村・堤村(現在の梅田と堤町)・矢場川村の内五百石を加増された。翌寛政10年には道中奉行を兼ねる。文化3年江戸西城留守、文化5年小普請支配、最後は江戸大城留守となり天保7年卒去。享年82才。

以上の経歴のように石川将監忠房は幕府の重臣であった。

安中市にも石川忠房の生祠が残っている。これは中山道安中駅が助郷(幕府によって人馬の提供を命ぜられる夫役)が過酷で苦しんでいたのを、

忠房が道中奉行のとき軽減し、村民の苦しみを除いたことによる。文政3年(1820年)、牛頭天王社の境内に生祠を建て忠房を生き神とまつた。更に天保5年には藩主板倉勝明により生祠之碑が、安中城本丸内に立てられた。ともに安中市の指定史跡となっている。



石川忠房公生祠



## ＝ 月次会報告 ＝

## 【7月】大川美術館一年を経て

講師 財団法人 大川美術館

理事長 大川栄二氏



大川美術館は昨年4月20日にオープンした。この美術館は桐生市出身の実業家大川栄二さんが、多年にわたり収集した千数百点のすぐれた美術品を収蔵し、全国でもトップレベルの内容と、美術関係者から高い評価を得ている。

建物も松本莞氏（近代日本洋画史に異彩を放つ画家松本竣介の次男。松本竣介の作品は数多く大川美術館を飾っている）の設計で、大変落ち着いた、あたたかなアットホームな感じで、雷電山の自然のたたずまいとも、よく調和している。

大川美術館は開館以来、個性的であたたかくてレベルの高い、ユニークな美術館として、全国の美術愛好者の間に定評がある。花王石絵の丸田会長は、「桐生がこれから世界に誇れるのは大川美術館の存在だ」とまで言っておられる。開館当初の市民の間にあった雑音は消えたようだが、まだまだ大川美術館に対する一般市民の認識は不足しているのではなかろうか。

開館以来一年間の有料入館者は約2万5千名、市内30%、市外70%だそうである。常設展・企画展・会報や友の会ニュース等の刊行・研修会や講演会等の事業も数多い。今の来館者の数では美術館の経営は容易ではないようであるが、大川美術館ができただけで、どれほど桐生市のイメージアップができたことか。それを考えればもう少し市も市民もお手伝いしなくてはいけないのではなかろうか。大川さんのお話を聞きながら、そう考えていた社員が多かったようである。（小池）

担当理事 藤江・木島

【9月】佐久平文化探訪と  
グルメの旅

9月の月次会は歩く会の担当で、信州佐久平へバス旅行を計画した。

9月9日(日)初秋の爽やかな朝、倶楽部を早朝6時に出発、高崎・軽井沢を経て追分から左折、中山道の小田井宿に行く。小田井は別名「姫の宿（しゅく）」と呼ばれ、往時は宮家や大名の奥方たちの宿泊が多かったとのこと。今でも宿場の面影をしのばせる建物が残る。

9時少し過ぎに佐久市近代美術館へ到着。ここは佐久市出身の油井一二氏から寄贈されたコレクションが主体で、著名な日本画家の作品を中心に、洋画・彫刻・工芸・書等、収蔵品は1,100点をこえる。また吉沢三朗記念館から寄贈された中国陶磁器の逸品も、特別展示室で観ることができる。

次は望月町の茂田井宿を訪ねる。先ず大沢酒造民俗資料館と、しなの山林美術館を見る。大沢酒造では沢山並んだ地酒のきき酒をして、白壁土蔵の並ぶ狭い道を、若山牧水の歌碑の所まで散策。

中食は、再び佐久へ戻って鯉料理で名高い花月で、鯉のフルコース。

花月の近くに重要文化財、国史跡の旧中込学校がある。中込学校は明治8年の開校、現存する洋風建築の小学校では最古のもので、屋根から突き出た太鼓楼とよばれる八角の塔や、窓のステンドグラスが珍しい。

佐久から清里へ向う途中の八千穂村に奥村土牛記念美術館がある。奥村土牛は第2次大戦中から戦後にかけて4年間、この八千穂村に疎開されていたのが縁で、画伯から秘蔵の作品が多数寄贈されて、この美術館ができたとのこと。

最後は白田町の竜岡城へ。五稜郭といえば函館だけと思っていたが、ここも五稜郭である。江戸時代最終の築城でもあり、石垣と土塁に御台所一棟しか残っていないが、国の指定史跡となっている珍しいもの。

帰路は内山峠を経て、下仁田・安中・前橋を通り8時半近く倶楽部に帰着。初秋の好天に恵まれ、浅間や八ヶ岳等信州の山々がくっきりと見え、途中の9キロに及ぶコスモス街道も花盛り、まことに楽しい旅であった。参加者52名。



佐久の旅

〔10月〕桐生市第3次総合計画について



佐久市立近代美術館



講師 桐生市長公室次長 杉戸 快次氏

平成2年4月1日スタートした桐生市第3次総合計画は、平成12年を最終年度とする11年にわたる長期のまちづくりのプランである。

最終年度の人口は15万人（現在12万7千人）、財政規模580億（平成2年度278億）と設定。実施計画は、基本計画に基づく施策を実際に推進するため財政的な裏付けを持たせながら短期間（3年）の具体的事務作業を定める。またローリング方式により、毎年度必要な改訂をして行く。

この総合計画の目指す桐生の未来像は「ハイテクとファッションのまち」である。ハイテクとファッションのまちを創造する特別プロジェクトは

1. ハイタッチデザインパークの整備
2. ロマンチック・クロスプラン21の推進
3. 国際的イベント施設等の整備
4. 桐生地域商業近代化地域計画の推進
5. 高等教育機関等の誘致・新設
6. アーバン・グランドデザインの推進
7. 都市交通網の整備
8. 生涯学習の推進

(担当理事 清水・関口)



茂田井宿



大沢酒蔵



旧中込学校



奥村土牛記念美術館



## 歩く会〈7月例会〉

## 高山植物のお花畑、至仏山(尾瀬)

夏の至仏山は高山植物の宝庫である。7月29日朝5時桐生倶楽部を出発。一行24名は6台のマイカーに分乗して鎌田まで。ここでTAXIに乗り換え鳩待峠へ。登山基点の鳩待山荘を出発したのが8時。曇り空だが時には日も射すし、霧も晴れるという天気。歩き出しは笹の下生えする樹林帯のゆるい登り、徐々に急坂となり小至仏山へ近くなる辺りから待望の高山植物が見られるようになる。ヒオウギアヤメ・シナノキンバイ・ハクサンチドリ・ハクサンフウロ・ジョウシュウアズマギク・チングルマ・ニッコウキスゲ・オゼソウ・タカネナデシコ・コバイケイソウ等、数十種類の花々が咲き競っている。

小至仏山から至仏山への道は累々とした岩の道である。至仏山の森林限界は1800米あたりで、その上は蛇紋岩地となり、それに適応した高山植物だけになるとのこと。

標高2228米の至仏山の山頂へ着いたのが11時、約3時間の登りであった。山頂で尾瀬高原の眺望を楽しみにしていたが、これは残念ながら霧のため殆ど見えず。夏アカネがうるさい程、群れ飛んでいた。ここで中食。11時半下山にかかる。帰路は霧も晴れて来て、途中からは至仏山頂、燧ヶ岳、尾瀬高原の展望も楽しむことができた。鳩待山荘帰着は2時少し過ぎ。一年で一番美しいと云われる至仏山の高山植物を思う存分楽しめた登山であった。



至 仏 山 頂



ワ タ ス ゲ

## 歩く会〈8月〉

歩く会(十周年百回例会)  
記念特別企画初秋の尾瀬沼ハイキングと  
桧枝岐歌舞伎

例年8月は「歩く会」も休会していたが、本年は歩く会が発足してから10年になるので、それを記念しての特別企画をもった。

8月18日(土)桐生倶楽部を午前5時大型バスで出発、足尾・日光・鬼怒川を經由、桧枝岐から沼山峠休憩所へ着いたのが10時。ここで支度を整えて歩き出す。天気は上々。沼山峠まで少しの登り、あとは大江川湿原の木道を、燧(ひうち)ヶ岳を遠望しながら歩く、尾瀬沼畔長蔵小屋着は12時少し前。途中ヤナギラン・サワギキョウ・ヤマトリカブトなどの花が眼を楽しませてくれる。

尾瀬沼から早日に帰路につき、午後3時には桧枝岐「かぎや旅館」に到着。総絵の温泉風呂は疲れを癒し、夕食の膳の名物「裁(た)ちソバ」や「はつとう」を楽しむ。

そろそろ暮れかかる5時半から待望の歌舞伎見物。幕明けは恒例の「寿三番叟」、二幕目は「神霊矢口の渡・八郎物語の段」、次に「玉藻の前旭の袂・道春館の段」。

この歌舞伎舞台の前は広場はなっていて、正面の山腹に鎮守様がある。まさに鎮守神に奉納する歌舞伎の形である。広場にゴザ・ムシロを敷いた観客席は直ぐ満席になり、鎮守様のある山の斜面にも一杯の見物人である。ざっと二千人位はいるであろう。

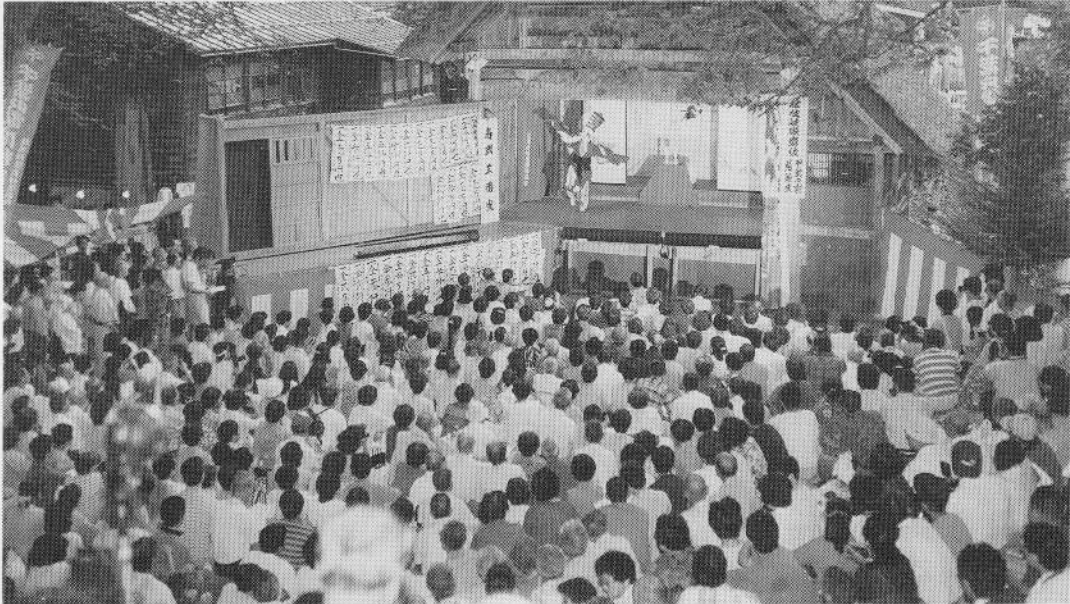
歌舞伎を演ずる一座は「千葉之家花駒座」というが、勿論素人で地元の人達である。しかし古式を忠実に守っての熱演で、途中雨が降り出した為最後まで見物した人が少なくなってしまったのは気の毒であった。舞台や花道の下などに沢山の紙が垂れ下がっている。ご祝儀(はな)の披露である。中に「金老万円也 桐生倶楽部より」と書いた紙も見える。参加者一同、歌舞伎を堪能して8時過ぎに宿に帰る。

翌19日は朝8時半出発、「夏の思い出」の記念碑で記念撮影してから桧枝岐を出発、会津田島町の奥会津地方歴史民俗資料館をゆっくり見学、こ



# 松 枝 岐 歌 舞 伎

(塚越副理事長撮影)

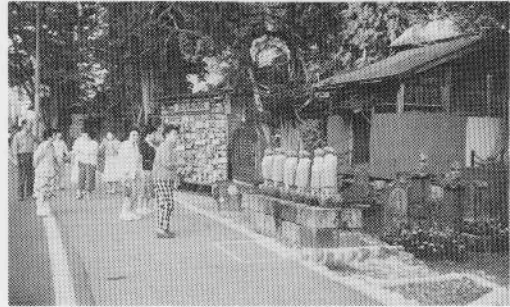


こは明治18年に南会津郡役所として建てられた木造2階建てのバルコニー付きの建物である。内部には、2千点に及ぶ民具が展示してある。近くの梅寿館で中食をとり帰路につく。桐生倶楽部帰着17時。

見るもの聞くもの食べるもの夫々に大変楽しい旅行で、53名の参加者からは歩く会世話人の人達に対し、感謝の言葉が大変多かったようであった。



尾瀬の木道

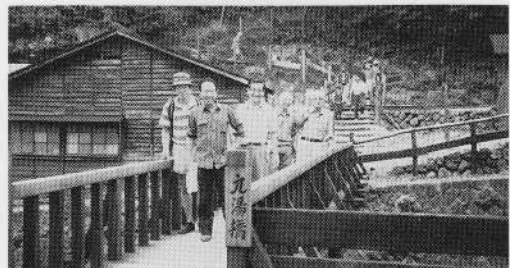


松枝岐の六地藏

## 歩く会《10月》

紅葉的那須茶臼岳・朝日岳

10月の歩く会の例会は、マイクロバスで那須山麓まで、ここから山頂駅までロープウェイを利用。あとは徒歩1時間で噴煙をあげる茶臼岳(1898米)へ。此処から峰の茶屋を経て朝日岳へ登り、山麓駅まで約3時間で降り、近くの湯本温泉で入浴して帰る。紅葉の美しさを満喫した旅であった。



湯本温泉で入浴



# 桐生の文化と桐生倶楽部

## ふるさと学習

### マラソンセミナー

桐生市では桐生市政70周年を記念して、本年4月から来年3月までの間、70回の“ふるさと学習マラソンセミナー”を続けている。その第42回のセミナーのテーマに桐生倶楽部がとり上げられ、10月26日倶楽部会館において小池副理事長が“桐生の文化と桐生倶楽部”と題して約120名の受講者を集めて講演をした。以下はその要旨である。

#### 1. 倶楽部（クラブ）について

クラブは17世紀の初めに英国で生れた。英国独特のバブ（酒場だが日本のバーのイメージとは全然違う）の集いがクラブとなったという。その後クラブ組織が普及して、スポーツを楽しむ目的のカントリークラブなどもできてきた。

#### 2. 英国風社交クラブ

英国に範をとった正統的な社交クラブが明治・大正年間に日本にも数多くできた。その第1号が東京銀座の交詢社であり、桐生倶楽部は交詢社に色々のことを学んで大正7年創立された。このようなクラブは東京・大阪等の大都市にはあるが、桐生のような地方都市（当時はまだ桐生町）にできた例はない。

#### 3. 桐生倶楽部の歴史

##### (1) 懇和会から桐生倶楽部へ

明治33年9月、森宗作（後の宗久）・大沢福太郎・書上文左衛門（11代目）等、当時の町の有力者40名で桐生懇和会が設立された。懇和会は桐生停車場の改築・電話の設置・電力会社の設立等、桐生町発展のため大いに力があつた。この懇和会が母胎になって桐生倶楽部ができた。倶楽部の議事録には次のような記載がある。「大正9年2月14日当会館ニ開会ノ懇和会ニ於テ同会ヲ解散シ一切ヲ当倶楽部ニ引継グコトヲ決議ス」と。

##### (2) 桐生倶楽部と会館の誕生

大正5年社団法人桐生倶楽部設立を申請、大正7年第1回総会（社員数175名）、初代理事長金子竹太郎、副理事長前原悠一郎を選任。会館は総費用約5万1千円で大正8年12月完成。設計者は清水巖技師（講談社野間清治氏の紹介）。

付属洋食料理店「株式会社桐葉軒」は大正9年1月開店（桐生倶楽部とは別経営）

##### (3) 歴代理事長と功労者

初代金子竹太郎、2代目書上文左衛門（12代目）3代目斎藤長平、4代目境野武夫、5代目長沢義雄、6代目前原一治、7代目川村佐助、8代目前原勝樹、9代目平野元吉（現在）の各氏功労者としては森宗作（宗久）、前原悠一郎、前原準一郎、大川英三の各氏。

##### (4) 桐生の客間

最も長く（25年間）理事長をつとめられた斎藤長平氏は、「倶楽部は桐生の茶の間であり客間である」と言われていた。かつては桐生を訪れる知名の士は殆どこの会館の敷居をまたいだわけであり、その名前は倶楽部の芳名録に数多く残されている。

##### (5) 各種事業・会合

産文も公民館も無い時代、倶楽部の事業は対社員だけのものだけでなく、一般市民を対象としたものも多かった。（例えば夏期大学・各種美術展など）

#### 4. 倶楽部の現状と課題

現在の社員数 個人298名、法人31名、計329名。

社員の会費と会館使用料だけで運営して行くのは仲々容易ではないが、桐生倶楽部の存在そのものが桐生の歴史であり文化である。先輩の残されたこの貴重な桐生倶楽部を社員一同懸命に守って行くつもりである。



大正初期の頃、高等工業学校（現在群馬大学）の種痘問題や町立女学校（現在英立女子高校）の創立賛成問題、あるいは桐生お石のPR実施等、桐生の産業・教育・文化といろいろな問題を相違する場所として、桐生の実業家たちが「郷土の発展はやがて自己の発展である」という信念の下に懇和会として設けられたのが桐生倶楽部です。  
郷土愛に燃れた、おしお石紳士の社交場として築き、使われる中で多くの文化人を生み、育ててきました。  
市民のみならず、こんなすばらしい文化の歴史を担った地で文化の発祥の地を見直し、これからの発展に貢献させて行くことではありませんか！

< 講師 小池 >  
小池 久雄 氏  
(現) 桐生倶楽部副理事長  
< 日 時 >  
平成29年10月26日(金)  
午後2時から4時まで  
< 会 場 >  
桐生 倶 楽 部

【主催】桐生市・桐生市文化協会 【後援】桐生市教育委員会

マラソンセミナーのちらし



# 桐生倶楽部句会

## 古川光春さんの御逝去を悼む

小池 久緒

名月に酌む友ありて老の幸

古川光春さんの句である。光春さんは大変趣味の広い方で、油彩・写真・随筆・囲碁・将棋ときりがないほどである。中でも特にご熱心だったのは俳句である。昭和三十三年に医師会の俳句部に入り、ホトトギス系の諸先生の指導をうけ、その投句がホトトギスにも載るようになった。桐生倶楽部の俳句部にも入会、昭和六十二年からは俳句部の担当理事として部員の指導に当たられた。

## 「甲矢乙矢」古川先生を惜しむ

本田 木榮

甲矢乙矢（はやおとや）は浅学な私が故人古川三雄（俳号光春）先生に教えていただいた言葉です。「光陰矢の如し」と申しますが先生が天寿とは言い難い古稀を前にして矢よりも速く昇天されましたことは、まことに惜しいことと残念に思う次第であります。

光春先生は桐生倶楽部俳句会の第二代の宗匠でありました。初代前原勝樹先生の主宰を継承されて当会をして今日あらしめた功績者であります。そのご性格は磊落にして且つ情

光春さんは「人生何が楽しいと言つて美味しい物を食べるのが最高である」が持論で、美味しい物と酒と俳句を愛することは人後に落ちなかつた。  
去る九月二十一日、六十九才でご逝去。  
名月を待たで悲しき旅路かな 久緒

古川光春さんは本名三雄。大正十年岩手県宮古で出生。東北大学付属医学専門部卒業後、東北の病院や診療所勤務。昭和三十七年桐生市にて開業。昭和四十年桐生倶楽部入社。  
昭和六十二年から平成元年まで理事。

緒細やか、又語彙の豊かさで表現の巧みさとは俳人として天与のものでありましようか。桐生医師会句会での活躍もさこそと思われたいものであります。

暗い句は作らない方がよいと仰せられ、いろいろと添削指導を頂きました。今後とも一層の努力精進をお誓いしてその安らかなるご冥福をお祈り申し上げます。

木犀一技手もとに添えよ棺の内 木榮

## 〔七月〕

番小屋は未だ閉まりおり青葡萄  
炎天を映してダムの肌露わ  
風鈴売荷を揺らし行く足はこび  
炎天に聖火絶やさじ爆心地  
天闇（くら）く風鈴の音忙しなく  
幼児にふと髪挿（かざ）したり青葡萄  
風鈴や老ひの幸せ事無くて

## 〔八月〕

見えぬ糸たぐりてひと夜風の盆  
鬼灯や日照りの中に朱の確か  
長病みの父もひと言益支度  
とりたてという枝豆をもちらせる  
天竜を賞でる間もなし大暑船  
女舞胡弓悲しや風の盆  
吉例の枝豆肴に翁かな  
山並みや枝豆採りし畝二つ  
枝豆に早や小さき芽宿しあり

## 〔九月〕

またもとの二人となりし秋の夜  
一と揺れて芋の葉露のまろび落つ  
己が香の中を木犀花散らす  
木犀の金をこぼして今日も雨  
秋の夜の終の湯舟に身を沈む  
金木犀斜陽の中に寝郁と  
檜枝岐歌舞伎の夜に初嵐  
半鐘の似合ふ街並金木犀

## 〔十月〕

朝寒や玻璃戸の虫の動かざる  
奔放に揺れコスモスの動きかな  
駄柑の折られて笠の天仰ぐ  
稲架けて越後平野の大夕陽  
篋の中覗き覗かれ柑狩り  
一輪のコスモス窓辺に子を思ふ  
朝寒や散歩のリズム速くなり

久保田 久保田 久保田 久保田 久保田 久保田 久保田 久保田 久保田 久保田  
森山 森山 森山 森山 森山 森山 森山 森山 森山 森山  
高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木  
本田 本田 本田 本田 本田 本田 本田 本田 本田 本田  
本田 本田 本田 本田 本田 本田 本田 本田 本田 本田  
倉藤 倉藤 倉藤 倉藤 倉藤 倉藤 倉藤 倉藤 倉藤 倉藤  
延命 延命 延命 延命 延命 延命 延命 延命 延命 延命  
小池 小池 小池 小池 小池 小池 小池 小池 小池 小池  
倉林 倉林 倉林 倉林 倉林 倉林 倉林 倉林 倉林 倉林  
小池 小池 小池 小池 小池 小池 小池 小池 小池 小池  
斎藤 斎藤 斎藤 斎藤 斎藤 斎藤 斎藤 斎藤 斎藤 斎藤  
延命 延命 延命 延命 延命 延命 延命 延命 延命 延命



## 秘境桧枝岐の歌舞伎

桐生倶楽部歩く会が発足して間もない昭和56年7月末、東北の名山会津駒ヶ岳へ登ったことがある。前の夜は桧枝岐へ一泊した。

その頃あちこちでよく見掛けた「ディスカバー・ジャパン」の観光ポスターに桧枝岐歌舞伎を材料にしたものがあった。楽屋で幼な児を抱く美しい女形（女形と云っても本当の女優）の写真に、「境内に流れる浄瑠璃が低い。幼な児の寝息が母に伝わる。幕間のひととき」とムード満点の説明文がつく。

素晴らしいポスターだと興味深く見ていたのだが、偶然にも歩く会が一泊した桧枝岐の民宿（河水荘）の若おかみが、そのポスターの女優さんであった。また宿の前の土産店へ寄ったら、歌舞伎のある時は一家総出演（夫婦とも役者となり、子どもは子役で出るという）と言っていた。

その時は歌舞伎をやっていたわけではなく、舞台を見たり話を聞いたりしただけであったが、いつかは必ず歩く会で桧枝岐歌舞伎を観に来たいとその時のメンバーで約束したものである。従って今回の桧枝岐歌舞伎見物は10年来の宿願を果たしたことになる。

桧枝岐歌舞伎は、200年余の伝統を守る農民芸能であり、今でも春秋2回、村の鎮守の祭りに奉納芝居として演じ続けられている。芝居小屋は神社と向い合って中央に広場を残して建っている。けやきのがっしりした柱、正面二重の屋根で萱ぶき三間に奥行一間半の舞台、太夫座、花道もついた立派なもの。現在上演できる出し物は17ほどあるそうである。

(小池)



真中が民宿河水荘のおかみさん

## ◆新入社員紹介◆

### |||| 倶楽部だより ||||

#### ◎8月

- 理事会 (11日)
- 歩く会 (18日)「初秋の尾瀬沼と檜枝岐歌舞伎」
- 歩く会世話人会 (21日)
- 俳句会 (28日)

#### ◎9月

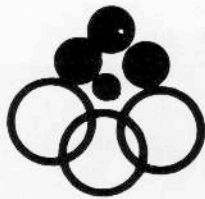
- 歩く会世話人会 (3日)
- 月次会 (9日) 歩く会協力「佐久平文化探訪とグ  
ルメの旅」
- 理事会 (10日)
- 俳句会 (27日)

#### ◎10月

- 臨時理事会 (1日)
- 理事会 (8日)
- 歩く会 (14日)「紅葉の那須茶臼岳、朝日岳」
- 会報委員会 (17日)
- 臨時理事会 (22日)
- 月次会 (22日)「桐生市の第3次総合計画につい  
て」桐生市長公室 杉戸次長
- 歩く会世話人会 (23日)
- 俳句会 (26日)

社団法人 桐生倶楽部会報 第 61 号  
1990年(平成2年)12月発行  
発行人 平野元吉  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツポノ印刷株式会社



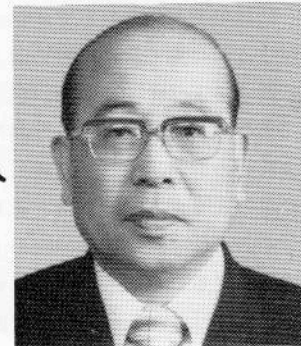


# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 社員の皆様へ

桐生倶楽部 理事長 塚越平人



平成3年1月29日の倶楽部総会で平野前理事長さんの後に推されて理事長に就任致しました。歴史と伝統のある桐生クラブの理事長としては、甚だ浅学非才で、果たして倶楽部員の付託に応え得るか甚だ不安ですが、幸い優秀な理事さんが揃っているのです、皆さんのお支えにより、その任を全うさせていただければと思っております。

この倶楽部をより所として、クラブ会員の活動を活発化するため、この度従来の各部会を確認し乍ら、各々所属する範囲を定め、責任者及びリーダーを決めて活発な活動を行って行きたいと思っておりますので、お気付きの点がありましたらどしどしご意見をお寄せ下さるようお願い致します。

歴史が古いということは、先人の育てて来られた世の中の規範としての倶楽部の精神が挙げられますが、我々後輩はその意を体して理想の実現に努力を傾倒したいと考えております。然し乍ら、それと共に星霜を経た建物もその古さの故に輝かしい歴史の立役者として毅然とした裡にも優雅に建っているわけですが、その骨格は古さの故に早急に修復を要する部分も少しとしません。これら

も補修程度で済むのか、抜本的に考えねばならぬかは診断を慎重にせねば判りませんので、早急の健康診断を行い、不測の事態等が起こらないようにしておくべきと考えます。

幸い、心配されていた湾岸戦争も早期に終わりましたので、桐生の繊維及び機械金属の輸出も再開されるようです。

吉野256地区RCガバナーのお使いになっていた新館もこれから整備し、希望者の利用をお願いして行こうかと思っております。会員諸君はどうぞ大いに来館され、談論風発、又娯楽の場として楽しんでいただくようお願い致します。

## 新役員構成

平成3年1月～4年12月

- 理事長 塚越平人
- 副理事長 小池久雄・飯山清治
- 会計担当理事 関口全之・矢野 昭
- 理事 藤江敏雄・金谷善介・清水信次・野田友治郎・五十嵐健雄・佐藤富三・岸田英作・木島 清・岸 芳正・森 寿作・木村隆夫・山口正夫・赤石清安
- 監事 吉野一郎・北川 洋



## 退任のことば

桐生倶楽部 前理事長

平 野 元 吉



昭和29年9月、理事長境野武夫氏の奨めに依って倶楽部に入社させていただいた。境野氏は当時の桐生織物統制組合の理事長であり、社会党の重鎮であった。

私は倶楽部に入社してその内情を知り驚いた。財政は誠に悪く、可成りの借入金と出入りの商店に対する未払金があった。理事長も運営には非常に苦心され、倶楽部の大衆利用を計り共産党・社会党系の労働組合にも開放した。それが為に労働者風の人々が、多勢会議と称して金具の付いた泥靴で、あの立派な赤い絨緞の上をどかどか出入して忽ち見る影もなき迄にあらされた。又、二階の広間の「リノリウム」も全部張り替えた、建物の壁は孕んで今にも落ちそうであった。理事長はさぞご苦労された事と推察される。

倶楽部の歴史を繙いてみると、歴代の理事長はじめ社員諸氏は皆桐生市の代表的有力者で、皆さん此の倶楽部を愛し、倶楽部を中心に政治・外交・親睦等、桐生市発展に尽力せられた事が良く分る。吾々後輩は何としても此の名誉ある倶楽部を再建せねばならぬと考えた。

昭和31年8月境野理事長は波乱多き生涯を終えられた。倶楽部の再建には非常に苦心せられ、青年部をつくり、自動車部をつくり、大衆にアピールすべく努力せられたが、結局多大の負債を残して境野氏の時代は終わったのである。

後任理事長として桐丘学園校長の長沢義雄先生が就任された。先生は教育者であると同時に実業家としての風格を持ち、桐生倶楽部が今日立派に存在する事は先生の並々ならぬご努力のおかげであるのを忘れることはできない。

私は当時PTA会長をつとめ種々先生からご指導を頂き、子供達も大変お世話になっていた。私は先生に呼ばれて倶楽部の再建について相談を受け、同時に会計理事と行事委員長を命ぜられた。私も群馬縫製の代表者として忙しく、非常に困ったが仕方なくお引受けした。

長沢理事長は倶楽部の現況を見て、当初は此処を売って他の安い土地を求め、地下2階地上5階のビルを建設し貸店舗にするお考えであった。然

し新たに多額の借入れをして事業をする事は非常に危険であり無謀にひとしいと考え、絶対反対をした。結局衆議の結果、現状を維持し大改革を行い会員の増強を計り、借入れ金の返済に重点を置く事とした。尚、他倶楽部を見学して参考にすべく、理事長の御供をして東京交詢社に御伺いして詳細にわたり御指導を頂いた。流石に交詢社は立派であり非常に参考になった。

帰桐後、先ず信用金庫より百万円の資金を借り入れ改革にとりかかった。館内の調度品を買い、内装の修理をはじめ、会費の収入を明確にし庭園の改装に力を入れた。文化面では月次会を毎月開催し社員の懇親を計り、社員の増強に力を入れた。おかげで倶楽部は順調に推移し、現在では三百有余の社員を擁する立派な存在になったのである。

昔は威儀を正した「ボーイ」が玄関に出迎えたり、白足袋に袴でなければ入館できなかった(斎藤長平氏談)極めて格調高き倶楽部も70年の年令を重ね、第二次大戦では貴重品の数々を供出し、その様相は可成り変わったが、然し長沢理事長はじめ歴代の理事長・社員諸氏の御力によって、益々繁栄に向いつつある事は感謝にたえない次第である。私も諸先輩の御指導とご後援によって、36年間お世話になり誠に有難く御礼を申上げる次第である。

尚後任理事長として名声高き塚越平人氏、副理事長として小池久雄氏、飯山清治氏のご就任をみた事は誠に有難く、今後益々倶楽部もご繁栄あるものと信じる次第である。

### 平野前理事長を名誉社員に推薦

桐生倶楽部定款第13条に(名誉社員は学識名望あるもの若しくは本倶楽部の為特に尽力せられたるものより理事会に於て之を推薦する)とあります。1月29日の総会後の新理事会に於て、平野前理事長が倶楽部の為特に尽力されたとして、名誉社員に推薦されました。



# 定時社員総会

平成 2 年度定時社員総会は、1 月 29 日(火)午後 6 時 30 分から、桐生倶楽部 2 階広間において開会され下記の議案を審議、全議案とも原案通り可決、また新役員も下記のように選任された。

出席者 38 名、委任状 181 名

## 議 事

第 1 号 平成 2 年度事業概況報告

(1) 社員総数 329 名 (内 訳 名 譽社員 1 名、個人社員 297 名、法人社員 31 社)

(2) 年度中の入社 14 名、退社 10 名

(3) 行事・集会 総会・月次会・理事会その他 合計 93 回

(4) その他 会報 3 回発行

第 2 号 平成 2 年度決算諸表報告

第 3 号 平成 3 年度事業計画及収支予算案

第 4 号 役員定数増員の件、役員選任の件 定員 15 名を 18 名に増員

役員選任は選考委員会候補者を選び、総会で下記のように決定した。

- 塚越・小池・飯山・関口・
- 矢野・藤江・金谷・清水・
- 野田・五十嵐・佐藤・岸田・
- 木島・岸・森・木村・山口・
- 赤石

監事 吉野・北川

## 当番理事編成表

- (3 年 4 月) 清水・関口
- ( 5 月) 野田・五十嵐
- ( 6 月) 木村・岸
- ( 7 月) 岸田・山口
- ( 8 月) 木島・赤石
- ( 9 月) 藤江・矢野
- (10 月) 金谷・佐藤
- (11 月) 清水・森
- (12 月) 野田・五十嵐
- (4 年 1 月) 関口・岸

## 第 2 号 平成 2 年度収支計算書

(自 平成 2 年 1 月 1 日 至 平成 2 年 12 月 31 日)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
<b>I 収 入 の 部</b>			
会 費	12,342,000	12,180,000	△ 162,000
月 次 会 々 費	80,000	75,000	△ 5,000
会 館 使 用 料	2,200,000	2,076,950	△ 123,050
設 備 使 用 料	600,000	509,200	△ 90,800
電 話 使 用 料	30,000	26,640	△ 3,360
収 入 利 息	40,000	74,016	△ 34,016
雑 収 入	100,000	358,075	△ 258,075
雑 収 入	450,000	420,000	△ 30,000
当 期 収 入 計	15,842,000	15,719,881	△ 122,119
前 期 繰 越 収 支 差 額	2,959,521	2,959,521	0
収 入 合 計	18,801,521	18,679,402	△ 122,119
<b>II 支 出 の 部</b>			
給 料 及 手 当	5,250,000	5,288,400	△ 38,400
特 退 共 済 金	72,000	72,000	0
租 税 公 課	1,500,000	1,592,900	△ 92,900
火 災 保 険 料	300,000	290,550	△ 9,450
通 信 費	750,000	778,992	△ 28,992
修 繕 費	2,000,000	1,344,904	△ 655,096
光 熱 費	1,200,000	1,166,768	△ 33,232
事 業 費	2,700,000	2,551,733	△ 148,267
会 議 費	200,000	183,228	△ 16,772
消 耗 品 費	150,000	177,967	△ 27,967
支 払 利 息	120,000	111,824	△ 8,176
雑 費	600,000	532,470	△ 67,530
備 品 費	800,000	0	△ 800,000
建 物	0	1,600,000	△ 1,600,000
借 入 金 返 済	996,000	996,000	0
当 期 支 出 合 計	16,638,000	16,687,736	△ 49,736
当 期 収 支 差 額	△ 796,000	△ 967,855	△ 171,855
次 期 繰 越 金	2,163,521	1,991,666	△ 171,855

以上の通り相違ありません。

平成 3 年 1 月

## 社団法人 桐 生 倶 楽 部

## 第 3 号 平成 3 年 収 支 予 算

自 平成 3 年 1 月 1 日 至 平成 3 年 12 月 31 日

社団法人 桐 生 倶 楽 部

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 会 費	1,488,000	1. 給 料 及 手 当	5,400,000
	10,728,000	2. 特 退 共 済 金	72,000
	270,000	3. 租 税 公 課	1,700,000
		4. 火 災 保 険 料	330,000
		5. 通 信 費	800,000
		6. 修 繕 費	2,000,000
		7. 光 熱 費	1,200,000
		8. 事 業 費	2,700,000
		9. 会 議 費	200,000
		10. 消 耗 品 費	200,000
		11. 雑 費	600,000
		12. 支 払 利 息	60,000
		13. 備 品 費	800,000
		14. 建 物	—
		15. 借 入 金 返 済	996,000
		16. 予 備 費	500,000
		次 期 繰 越 金	519,666
小 計	12,486,000	合 計	18,077,666
2. 月 次 会 々 費	80,000		
3. 会 館 使 用 料	2,300,000		
4. 設 備 使 用 料	600,000		
5. 電 話 使 用 料	30,000		
6. 収 入 利 息	40,000		
7. 人 会 金	450,000		
8. 雑 収 入	100,000		
前 期 繰 越 金	1,991,666		
合 計	18,077,666		



## 委 員 会 構 成

平成 3 ～ 4 年度

委員会名	担当理事	委員長	副委員長	委 員
行 事	野 田 五十嵐 赤 石	森	山 口	尾沢、川口、岸(稔)、栗原、小堀 高橋(貞)、田島(英)、富永、中里、 蛭間(利)、福島、森口、八木橋、 吉野、堀、坂本、北川(洋)、 平野(武)、半田、阿部(光)、宮地(秀) 池田、片柳、樋口、宮地(由)、牛腸、 蓮、笠原、河内、園田(徳)、岡部(信) 坪井(良)、小林(康)、佐々木(裕)、 田村(徳)(忠)、出口、水越
文化活動	岸 木 村	金谷(善)	藤江(敏)	
会 報	小 池	小 池	木 村	坪野(恵)・吉 成
営 繕	木 島	清 水	佐 藤	宮地(秀)・保 倉
総 務	小 池	飯 山	岸 田	

## 文化活動委員会内趣味の部会

部 会 名	部 会 長	副 部 会 長	担 当 理 事
美 術 部 会	保 倉	須 賀	佐 藤(富)・岸(芳)
懇 話 会	藤 井(龍)	山 鹿	木 島・赤 石
俳 句 部 会	久保田(裕)	本 田	清 水(信)・森(寿)
麻 雀 部 会	八 木 橋	松 枝	藤 江(敏)・岸 田・岸(芳)
囲 碁 部 会	野 田	吉 成	小 池・野 田
ゴ ル フ 部 会	片 柳	森 田	五十嵐(健)・関 口
将 棋 部 会	平 野(平)	野 田	飯 山(清)・野 田
歩 く 会	木 島	藤 井(龍)	小 池・木 島
ビ デ オ 部 会	五十嵐(健)	金 井(利)	金 谷(善)・五十嵐(健)
写 真 部 会	森 口	金 子(福)	木 村(隆)・塚 越(平)
音 楽 鑑 賞 部 会	小 堀	藤 井(龍)	矢 野・山 口(正)・木 島



## ＝ 月次会報告 ＝

## 【11月】 どう変わるかソ連邦

講師 木村俊一氏



本年6月に8日間の日程で、桐生法人会青年部会ソ連邦視察研修団々長として、モスクワ・レンニングラードを訪ねました。一行は10名、ゴルバチョフが登場してから大きく変わりつつあるソ連の実状を、私達自分の目で実際に見たいということから訪ソを計画したわけです。幸い桐生出身で、モスクワ大学を卒業して10年余りモスクワで生活したことのある林哲さんが、今年から日ソ貿易の手助けをする仕事を始められ、月に1～2回は訪ソをしているので、案内人兼通訳として同行していただきました。

モスクワでは予めお願いしてあった工場の視察が、手違いで不可能となり、街の様子を見て廻りました。報道されているように物不足は深刻で、デパートの前には開店の2時間も前から行列が始まります。例のマクドナルドのハンバーガーはモスクワの名物として、地方から来た人達は2～3キロにもおよぶ列に並んで、3～4時間もかけて1ヶ120円位のハンバーガーを買っています。

レンニングラードではソ日協会を訪問、テレビニュースにもなった我々との会議では、土地・建物も提供するから、是非合弁会社や企業提携を進めて欲しいとの話ができました。ソ連の工業力を知るため「ボルシェビチカ」という民営の縫製工場も視察しました。従業員2千人というソ連では中規模の工場でしたが、ミシン類は古いもので、製品はファッション性の余りない実用本位のものでした。

全体の印象は報道・言論は自由で、物は不足でも人々の表情は活々と見えました。

## 奥村 稔の絵

昨年の暮れから2階広間の入口側の壁に明るい柔らかな色調ののどかな景色を描いた日本画が飾られているのにお気づきのことでしょうか。

新里村の風景で春まだ浅く新しい緑は固い芽の中に秘められ、やがて芽生える時の期待と希望に枯れ野のなかにも早春の日差しを感じさせます。

冬のままでの景色と違った雰囲気を持つのは作者のすぐれた感受性によるものでしょう。

氏の作品は以前に階段の踊り場に大きな茶色の山景色が書かれたものが在りましたが、永い間に画面が傷み作者以外に修復出来ない状態になってしまいました。

奥村氏には全く申し訳ないことでした。

でも、そのことを氏に申し上げると快く新しい絵と取替えて下さるとのご返事をいただきました。

本来、このような事は大変な費用の掛かるところですが「桐生倶楽部に飾るなら喜んで」と無料で取り替えて頂き、関係者一同大変に恐縮しました。

そのような謙虚な人格がああ絵の心暖かな内容を生み出すのではないかと感じます。

大間々町の出身で若くして日展に入選し以来連続して入選、変わることはない温和な画風が認められています。 保倉一郎・記

## クリスマス祭 (12月8日)



奥村さんに感謝状贈呈

## 新年互礼会





## 【歩く会】 11月例会

## 晩秋の荒船山縦走

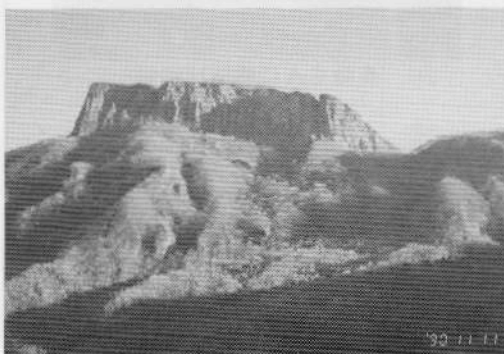
荒船山は、県の南西部下仁田町・南牧村と長野県佐久市との県境にある。標高1,423m、山頂の平坦面は南北1,400m、東西400mのほぼ長方形をなしており、北端は高さ170m、巾600mの絶壁である。山容が群馬県側から見ると、まことに荒海を行く船のように見える。

11月11日7時、マイクロバスで桐生倶楽部を出発、内山峠を9時半に歩き出し、大岩壁の展望台が12時。途中霜柱や氷柱を見て、さすが山の冬は早いのに驚く。紅葉の季節とあってハイカーの多いのにも驚く。京塚山・星尾峠・荒船不動を経て巖孤部落に出て帰途のバスに乗る。帰着6時半。星野峠から下る道で、落葉松（からまつ）の黄色の針のような葉が、風に吹かれてキラキラと散るさまは実に印象的であった。

落葉松の金の針降る佐久の冬



山 頂 に て



荒 船 山 の 全 容

## 【歩く会】 12月例会

## 初冬の古都鎌倉ハイキングとガラス工芸展

平成2年度の「歩く会」最終例会は、美術部・懇話会が協賛してのバス旅行となった。「歩く会」は毎例会人気が高いが、特に今回は申込みが多く残念ながら大型バスの定員をこえた為、途中で受付けをお断りしなければならない始末となった。

12月9日朝5時半倶楽部出発、東京・横浜を経て予定通り9時に鎌倉建長寺到着。ここでバスを降り参拝をすませてから、約2時間の天園ハイキングコースを歩き、瑞泉寺と鎌倉宮まで。鎌倉宮で再びバスに乗車、鶴岡八幡宮に着いて解散。約2時間の自由行動、その間神奈川県立近代美術館別館で各務鏞三（かがみこうぞう）の世界展を観たり、本館の鹿子木孟郎（かのこぎたけしろう）回顧展をのぞいたりする。

各務鏞三（1896～1985年）は多彩な技術をもって、独自のガラス工芸の世界を開拓した人である。別館には各務の75点の作品の他に、桐生の大川美術館でおなじみの松本竣介の素描も10点ほど展示してあった。

3時、再びバスに乗り、竹庭で有名な報国寺、坂東三十三観音霊場の第一番札所の杉本寺へ参詣し帰路についた。夜8時倶楽部帰着。



建長寺裏山からのハイキングコース



神奈川県立近代美術館別館



# 桐生倶楽部句会

## 〔十一月〕

わら開いして名園も冬に入る  
 病葉のままに朽ちゆく落葉かな  
 昨夜(よべ)の雨庭に落葉の彩重ね  
 秩父路や落葉を衣六地藏  
 赤城嶺に烏影もなし冬日暮れ  
 落葉舞ひ我も小走り家路かな  
 箒目の跡に落葉の小舟かな

久保田 森山 本田 小池 延命 森 廣瀬

## 〔十二月〕

枯草の畦に香焚く事故の跡  
 草枯れて畝の高さを見直せり  
 もがり笛熄めば病父の寐息のみ  
 七草も枯れて野面は彩(いろ)ひとつ本  
 旧友(とも)の訃(つ)やしらず昨夜の虎落笛  
 一望の鉄骨林や虎落笛  
 虎落笛ガラス一重の別世界  
 おそくまで花鋪に華やぐ師走の灯  
 枯草の内なる生命見えずとも  
 虎落笛兄の訃報をはこびけり  
 枯草をみな押しなべて風渡る  
 挨拶は会釈で済ます師走かな  
 謹(つつし)掘りや小供も立ちて腰伸ばす  
 もがり笛暴走族の音に消え  
 杣(の)の道地藏の御手に寒椿

清水 廣瀬 久保田 森山 本田 小池 延命 森 廣瀬 吉成 小池 森山 高木 齋藤 宮地 遠藤 倉林 北川 延命

## 〔一月〕

未知の日の重さかかへて初暦  
 初暦掛け誓ひとも覚悟とも  
 福寿草朝よりきこゆ仕込唄  
 白鳥の渡り来る湖初水  
 凍てつきし蛇口に洩れる薄日かな  
 忽然と刻あやまたず福寿草  
 日当りに移す日課や福寿草  
 初暦部屋の割当妻と練り  
 吉事あれ市でもとめし初暦  
 母の撒く打ち水で知る氷点下  
 兄逝きて友また逝きて初暦  
 予定日の書込多し初暦

久保田 森山 本田 小池 廣瀬 齋藤 倉林 吉成 北川 宮地 清水

## 〔二月〕

手入れせし枝の白梅屋敷町  
 梅まつり白と綾なす紅の彩  
 日陰れば別の白さの梅となる  
 早春の草の光りを牛の食む  
 見上げれば墨絵の天守梅明り  
 母在りし味秘めにけり露の薫  
 露の薫こころあたりと屈む母  
 日の当る窓に置き換え梅の鉢  
 梅の香を待ちあぐねたる風運び  
 春駒の太鼓のどかな川場村

久保田 本田 高木 小池 森山 吉成 清水 廣瀬 倉林

### 〔歩く会〕 1月例会

#### 『太平記の里』 初詣と文化探訪

平成3年の「歩く会」の初企画は、NHK大河ドラマ「太平記の里」のセット見学、足利・太田の史蹟を廻り、小俣の「藍愛工房」にも寄せてもらいました。



太平記の里のセット

### 2月例会

#### 川場村『春駒』と沼田文化探訪

2月11日、マイクロバスの定員一杯の29名が参加。川場村門前地区に残る珍しい伝統行事「春駒」を見学、そのあと沼田市内の文化財を探訪しました。



春駒は女装した若者たちが踊る

# ＝新入社員紹介＝

## 倶 楽 部 だ よ り

### 平成 2 年 11 月

- 理事会 (8 日)
- 歩く会 (11日) 「紅葉の荒船山へ」
- 行事委員会 (19日)
- 歩く会世話人会 (20日)
- 月次会 (22日) 「変わりつつあるソ連」  
講師 木村俊一氏
- 囲碁会 (23日) 秋季囲碁大会
- 俳句会 (26日)

### ◎12月

- クリスマス祭 (8日)
- 歩く会 (9日) 「古都鎌倉ハイキングと  
ガラス工芸展」
- 理事会 (14日)
- 俳句会 (15日)

### 平成 3 年 1 月

- 新年互礼会 (4日)
- 理事会 (12日)
- 歩く会 (13日) 「太平記の里」初詣と文化探訪
- 監査会 (14日)
- 臨時理事会 (23日)
- 俳句会 (24日)
- 臨時理事会 (29日)
- 定時社員総会 (29日)

### ◎ 2 月

- 理事会 (7日)
- 歩く会 (11日) 「川場村“春駒”と沼田文化探訪」
- 歩く会世話人会 (19日)
- 俳句会 (26日)

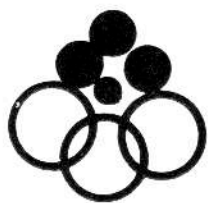
社団法人 桐生倶楽部会報 第 62 号  
 1991年(平成3年)4月発行  
 発行人 平野元吉  
 編集責任者 小池久雄  
 印刷 ツボノ印刷株式会社



# 文化活動委員会(趣味の部会)

平成3~4年度

美術部会		音楽鑑賞部会	
飯五海金川 田十老谷 隆惇利善 風沼善忠 和芳裕久 一進洋武 惠英一繁 健善彰龍 一太一貞 正一英 貞信	雄和八介 昭明久正 一雄郎平 一太一男 司雄一人 郎郎郎夫 一進郎助 夫光	飯五海金川 田十老谷 隆惇利善 風沼善忠 和芳裕久 一進洋武 惠英一繁 健善彰龍 一太一貞 正一英 貞信	飯五海金川 田十老谷 隆惇利善 風沼善忠 和芳裕久 一進洋武 惠英一繁 健善彰龍 一太一貞 正一英 貞信
俳句部会		ビデオ部会	
延北久倉 小高広本 森森吉尾 塚宮遠	命一裕 綾田俊久 康香太 壽敏弘 平秀勝	阿新五 系岩遠 大太 大書金 川木桐 桐久小 小後佐 篠	阿新五 系岩遠 大太 大書金 川木桐 桐久小 小後佐 篠
麻雀部会		写真部会	
飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐	清一省 俊俊石 和幸英 建	阿新五 系岩遠 大太 大書金 川木桐 桐久小 小後佐 篠	阿新五 系岩遠 大太 大書金 川木桐 桐久小 小後佐 篠
囲碁部会		将棋部会	
カ倉倉小 成野広 福武吉 米堀蓮 山	石俊久 正治儀 聡敏芳 信源喜	飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐	飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐
ゴルフ部会		歩会	
朝阿飯飯 五石江 海大金 金川岸 木桐倉 群牛佐 篠下関 閑高竹 坪塚東 京電水	朝阿飯飯 五石江 海大金 金川岸 木桐倉 群牛佐 篠下関 閑高竹 坪塚東 京電水	飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐	飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐
書道部会		棋部会	
飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐	飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐	飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐	飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐
その他		その他	
飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐	飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐	飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐	飯飯石岩 遠岡力 亀川岸 桐



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 桐生のあゆみ

### 桐生染織の元祖 金井繁之丞

桐生に関係ある生祠（生祠とは本人の生存中にその人を尊崇敬慕して神として祀るやしろ）は3つ現存している。会報第59号で紹介した菱の中村彌兵衛の生祠、会報第61号で紹介した堤町の石川将監忠房の生祠、もう一つが足利市粟之谷町の金井繁之丞の生祠である。

桐生は実に多種多様の織物をつくっているのに、桐生織物の特色を商品名で挙げることは難かしいが、先染紋織物（染めた糸をジャカード機で織って柄を表現している織物）が特色と云ってもよいであろう。桐生が西陣と並んで先染紋織物の産地と云えるようになったのは金井繁之丞のおかげである。ただ行政区分で言えば粟之谷は栃木県であり、足利市であるので、金井繁之丞は足利の人になってしまう。

明治以前、粟之谷は桐生の織物圏でもあった。だから繁之丞は自ら「上毛桐生染織元祖」としたのだ。繁之丞は桐生紋屋の鼻祖とされる小坂半兵衛

（西陣で紋織の術を習得、粟之谷に來り更に桐生に住み、桐生を終のすみかとした。）に学び出藍の誉を得た偉才である。

染糸を用い精巧緻密な絵画・肖像・東海道五十三次の景色などを織出し、一針の縫も必要としない織だけで羽織・蚊張・財布を作り、毛織物・蓮糸織などを発明するなど、まさに織物の天才であった。（その作品のいくつかは今に残っている。）

繁之丞は織物だけでなく、模様・星突き・引紋の方法なども工夫したので世人は生存中に機神と尊称した。また晩年は織物講習会を開き、多年の蓄蓄を傾け無料で技術を教えたという。

繁之丞は文政12年（1829）の76才で歿。その墓碑に次のような辞世が刻してある。

極楽へ行って曼陀羅又織らん  
菩薩に蓮の糸をとらせて



## 倶楽部だより

### ◎3月

- 歩く会(10)「早春の座間峠へ」
- 理事会(11日)
- 俳句会(19日)
- 行事委員会(20日)
- 囲碁部会(24日) 春季囲碁大会
- 文化活動委員会(26日)
- 歩く会世話人会(29日)

### ◎4月

- 理事会(9日)
- 写真部会(12日)
- 歩く会(14日)「信仰の稲倉山と小幡の桜」
- 行事委員会(22日)

- 俳句部会(25日) 文化祭協賛俳句会
- 月次会(26日)「写真ももやま話」講師 塚越理事長
- 将棋部会(27日) 文化祭協賛将棋大会
- 囲碁部会(28日) 文化祭協賛囲碁大会

### ◎5月

- 麻雀部会(7日) 文化祭協賛麻雀大会
- 理事会(8日)
- ゴルフ部会(9日) 文化祭協賛ゴルフ大会
- 文化祭(10日～12日)
- ガーデンパーティ(12日)
- 会報委員会(17日)
- 歩く会(19日)「迦葉山と玉原湿原ハイキング」
- 俳句部会(23日)
- 歩く会世話人会(23日)
- 写真部会(26日)「残雪の谷川岳撮影紀行」



### 第17回 桐生倶楽部文化祭

新緑の素晴らしい5月、10日から3日間桐生倶楽部文化祭が開催されました。俳句・将棋・囲碁・麻雀・ゴルフ・歩く会などの協賛行事はこの期間外に行われ、期間中は倶楽部全館を使って、絵画・陶器・俳句色紙・写真・ビデオ・華道等の展示、12日には茶席もしつらえ、120名にも及ぶ社員、家族の参加で賑やかなパーティもありました。あいにくの小雨で庭園へは出られませんでした。ロビーで素晴らしいクラシックの演奏があり、参加者の絶賛を博しました。

音楽はソプラノが社員山崎一順さんの奥様、チェロが「おんくうかん」という音楽企画グループを主宰する太田市在住の尾花英昭さん、ピアノは昨年の倶楽部クリスマス祭にも出演した須永由紀子さんでした。



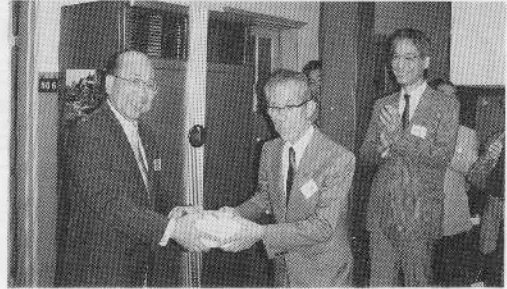
囲碁大会



将棋大会



麻雀大会



パーティーの席上、昨年黄綬褒章を受章された小林松社員に、倶楽部からも銀盃が贈られた。



左からソプラノの山崎さん、ピアノの須永さん、チェロの尾花さん。



社員の作品の飾り付け

#### 文化祭各部大会入賞者

##### 将棋大会

- 優勝 蓮沼 源一
- 準優勝 出口孝二郎
- 第1位 平野平四郎
- 第2位 野田友治郎
- 第3位 平野 元吉

- 準優勝 岸田 英作
- 第3位 八木橋祥价
- 第4位 飯山 清治
- 第5位 蓮沼 源一
- 第10位 笹川 勝正
- BB 白石太市郎

##### 囲碁大会

- 優勝 蓮沼 源一
- 準優勝 広瀬 進
- 第1位 岡田 光弘
- 第2位 高 勝二
- 第3位 野田友治郎

##### ゴルフ大会

- 優勝 武藤 金也
- 準優勝 森田 良徳
- 第3位 園田 徳司
- 第5位 坪野 恵治
- 第7位 阿部 高久
- 第9位 長谷川 正
- 第10位 平野 武三
- BB 金谷 善介

##### 麻雀大会

- 優勝 岸 芳正



# 月次会報告

## 4月 写真よも山話

講師 桐生倶楽部理事長

塚越平人氏



写真 I



写真 II

(1) ライン下り 1980.8. Co-generation※の視察団を編成して、ドイツを視察した。3分の1位のメンバーがドイツは初めてとのことなので、例によって視察最終はライン下りをした。船は大きな新造船であったが、甲板に出て写真を写していると船長がブリッジで手招きをしている。行ってみると船長室へ招じ入れられた。彼はやおらテーブルの引き出しから絵葉書を取り出し、私にくれたが、それを見るとありし日の昭和天皇様のお供をして、コブレンツ迄航海をしたとのこと。その時の写真を絵葉書にしてあったのだ。(写真I) 彼は「この日は私の生涯の最良の日である」と語った、その後船長は船室においてきて、自分の帽子を家内にかぶせ、家内の帽子を自分でかぶり記念写真を撮った。(写真II) 下船の時、彼はブリッジに立って挙手の礼で別れを惜しんだ。

※Co-generation (コージェネレーション) とは、ガスエンジンを使って発電と冷暖房を行い、排気ガスの余熱を回収してお湯を沸かします。(効率80%を超す高性能設備をいいます。)

(2) ローテンブルグの朝 1978.7. ローテンブルグ (ドイツ ロマンティック街道の中程に位する城塞都市で中世の姿をそのまま残している) の町の写真を早起きして撮りにいった。塔から朝日が洩れ、逆光が美しかった。向こうからスタイルのいいメッチェンが歩いて来たのでカメラを構えて待っていたが、彼女はそれに気づき、方向を変え、脇道へ外れてしまった。がっかりしている時、後ろから「ことごと」と音がした。見ると手押車を押した老人が光の中を進んで行く。得たりやとシャッターを切ったのがこの写真である。(写真III)

(3) マッターホルン 1980.8. 登山電車の終着駅にあるホテルへ泊まって朝の風景を撮る準備をしていたら、下の方がにわか騒がしくなったので見ると、映画のロケーションの準備をしていた。女優さんと思われる人に「グーテンモルゲン」と挨拶をして写真を撮らせてもらった。右は付き人で主役の女優の伯母さんとのこと。(写真IV)

(4) ニューオーリンズ 1988.6. ジャズの発祥地、バーボン通りは夜通し賑やかだ。昼下がりになるとミシシッピ河畔で黒人が練習をしていた。頼み込んで河船が後ろに来るまで待って撮った写真(写真V) 3年前のワシントンで世界ガス会議が行われた年のことである。世界ガス会議は3年毎に行われ、この時はレーガン大統領が出席した。今年はベルリンで7月8日から行われるので、家内と参加する予定。



写真 III



写真 IV



写真 V



### 【歩く会】 3月例会

#### 梅田の自然を満喫するハイキング

3月10日、早春の梅田の山をたずねました。座間峠、鍋足沢の頭から鳴神鞍部を気持ちよく歩きました。



### 4月例会

#### 信仰の稲舎山と小幡の桜

稲舎山は甘楽の霊峰です。稲を口に含んで天笠から飛来した豊稲田媛をまつります。1370米の稲舎神社に参拝、帰途は小幡町の桜と武者行列を見て帰りました。(4月14日)



### 倶 楽 部 句 会

道路鏡かげるふ丸くゆらめけり  
 来た道は陽炎の中行く道も  
 陽炎に身を委ねる魔天楼  
 門前も俄花屋となる彼岸  
 独活掘りし母の手しわの土黒し  
 寺の庭人夫憩みて彼岸待つ  
 陽炎の中に杖曳く試歩の人  
 山独活の香気と言ふになじめざる  
 (四月)

蝶二つ川越ゆ時も舞ひもつれ  
 こころなし夢二艶めく春の宵  
 集りし輪は下戸ばかり桜餅  
 音もなく蝶の舞いたる神楽殿  
 初蝶の行方を追ふて試歩伸ばす  
 餌の藍に溶け込む春の暮  
 ほの紅く春包みたり桜餅  
 草を摘む妻に摘み足す孫のあり  
 初つばめ休耕田の土はこぶ  
 幼子の泣く声はるか春の暮  
 松の枝矯めて一服桜餅  
 初蝶とふり向けばはや失せてあり

## 社員のページ

### 斎藤家と桐生倶楽部

小池久雄

斎藤喜平君が亡くなって七七日となる。斎藤君はご尊父斎藤長平氏を敬愛し、氏が歴代理事長の中でも最も長く桐生倶楽部の理事長をされ、戦中戦後の混乱期には身を挺して倶楽部を守り通したことを誇りとしていた。

斎藤長平氏は大正15年9月から昭和25年10月まで24年2ヶ月理事長をつとめられた。喜平君のご令兄神谷英司氏も昭和27年9月から6期12年間理事(最後の2年は常務理事)喜平君は39年9月から3期6年理事。こうして父子3人が長い間役員をつとめられたのは全く珍しい例であるし、斎藤君の倶楽部に対する格別の思い入れも理解できるのである。

斎藤君は倶楽部の趣味の会では囲碁と俳句を楽しみにしていた。俳句は3年前、病に昌されてからであったが、博学多識であり独自の視点をもっていたので、斎藤君ならではの面白い句を作った。選句が終わってからの彼のおしゃべりも、遠慮会釈が無いようにユーモアに溢れ、句会を大いに楽しくしてくれたものである。

昨年12月の句会(もう出席できず投句だけ)が最後だと思うが、次のような句が忘れ難い。

枯草の内なる生命見えずとも

斎藤君の命日は4月9日である。

君逝きて彩失ひし桜かな(久緒)

七七日は雨であった。

喪心の未だに深く五月闇(久緒)

### 退社々員

赤石峰一 斎藤喜平

### 会報の今後の発行・配達について

従来会報は年3回の発行になっておりましたが今回の63号から年6回(4ページ)となり、配達も桐生タイムス社にお願いすることとなりましたのでご諒承下さい。

社団法人 桐生倶楽部会報 第63号

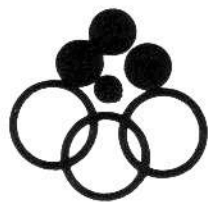
1991年(平成3年)6月発行

発行人 塚越平人

編集責任者 小池久雄

印刷 ツボノ印刷株式会社

高尾清遠小大広本 吉森久 高小広吉久森本  
 木沢水藤池槻瀬田 森成山 保田 池瀬成 保田 森田



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## “桐生の新名所”が誕生 全館ライトアップ



着々と周辺整備の進んでいる当倶楽部の建物ですが、こんどはライトアップ用の施設が完成、桐生の名所がまた一つ誕生しました。

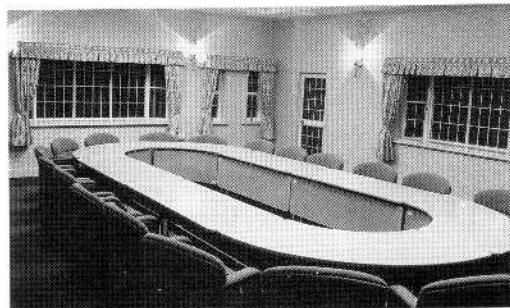
社団法人桐生青年会議所（黒沢誠理事長）が創立35周年の記念事業の一環として活動拠点のイメージアップをねらいに計画をすすめていたものです。

8月1日午後6時30分から関係者例席のうちに点灯式がおこなわれました。二基四灯の投光機にスイッチが入ると、大正ロマンを今に伝える南欧ふうのしょうやかな姿が、真夏の夜空を背景にくっきりと浮かびあがって、道ゆく人も思わず足を止めて見とれておりました。

格調高い建築様式と相まってユニークな社交機関としての存在が注目されている当倶楽部ですが

これを機に多彩な文化活動により一層、弾みがかかるものと期待されます。

## チョッピリ凝ってみました 別館がオープン



貸室の利用がふえるに伴って、施設の手狭まが指摘されていた当倶楽部に、このほど待望の別館が完成、オープンしました。

本館東側に隣接して数年前に建てられたロータリークラブの旧ガバナー事務所を改装したものです。本館ロビーと直結させた部屋の広さは68.54平方メートル（約21坪）。定員は20人ですが補助いすを使用すると40人可能。極上のカーペットに、これまた豪華なチェアと会議用の円卓。上品にコーディネートされた色調がみごとです。

小会議や音楽鑑賞会にご利用ください。禁煙。

- 使用料 ① 半日 1万円 ② 9時～17時 1万5,000円
- ③ 17時以降 1万2,000円

## 倶楽部だより

### ◎6月

歩く会（9日）「荘厳な榛名神社と天狗山」

理事会（14日）

月次会（21日）「中国と米国、その経済事情」 講師 宇野 譲氏

俳句会（27日）

### ◎7月

歩く会世話人会（12日）

理事会（15日）

音楽鑑賞部会（16日）

会報委員会（19日）

月次会（19日）「今日に於ける美術とは」

講師 掛井五郎氏

俳句会（25日）

歩く会（28日）「全山きすげ満開の霧ヶ峰高原」



## 6月月次会報告

## 「米国、中国、その経済事情」



## 宇野 譲氏

ご自身の失敗事例も卒直に披露しながら「日本人の常識は世界の非常識—といわれぬよう異文化への認識をもっと深めることが必要なのは」と切り出した講話の概要はつぎのような

ものでした。

▷…中国での合併事業で痛感したことは、日本人の中国人社会へ融合することの至難さだった。血縁、地縁のしがらみの中で生きている彼らは自分たちの社会以外には容易に心を開かない。一旦信頼関係が生じると事態は別で、まさに刎頸の交りとなるのだが…。君子の交りは淡水の如しで、一期一会といった日本風の思考はなじまない。そうした出会いに人生を賭けることはしないので、生半可な友誼は期待せず、商売と割り切ってつきあうことが肝心でしょう。

10億人もの人口を抱えながら耕作可能の沃野は誠に乏しく、豊かな中国、という通説の誤謬は改めなくてはならない。対中国貿易にあたって考慮すべき要素ではあるまいか。

▷…中国とは異った視点で文化の乖離が目立つのが米国。たとえば経営観。人事・組織重視の日本人と、財務分析に神経をつかう利益至上主義の米国人。いたわりあいの中での相互依存に埋没する日本人と、独立自存の伝統的な精神風土…。この文化のズレが商取引きの場面によく顔をのぞかせる。成約に漕ぎつけ、いざこれからの段階で「こんな筈ではなかったのに…」とホゾを囁む仕儀をしばしば経験しました。日本的な曖昧さがその原因なのだが、練達の通訳を介在させることも絶対に必要。

▷…米国人の傲慢さや仕事本位の冷徹さに出会うとき彼らとつきあうことに危機感を抱くけれどなんとと言っても米国はフィールドが広い。選択肢が多様なだけに成功のチャンスも又大といえよう。今後海外にビジネスを展開するならやはり米国。それには彼らの文化をもっと理解することが肝心。子弟を積極的に海外へ送り出すことをお勧めします。

## 7月月次会報告

## 「今日に於ける芸術とは」



## 掛井五郎氏

今月の講師は、今春4月当地に移住して創作活動を続ける彫刻家の掛井五郎氏。目覚めると梅田の山が目

の前に迫り、桐生川を散歩すると親しい人との出会いがある。なんと美しいまち

なのか、と桐生を絶賛する掛井氏です。19日の講話の要旨。

▷…世界中どこを歩いても美術館、博物館に収まっている美術はむずかしい。しかし現代美術はよくわかる。一般に言われるのは逆。昔の美術は専門の研究者による説明がないとわからないが現代美術には必要ない。丸は丸、赤は赤、なんです。われわれは長い間、内容や哲学がなければならぬとだまされてきた。が、絵でも彫刻でも音楽でも、いい作品というのは見たり聞いたりしているとほかのことを考えさせられるもの。人との出会いも同じで、評価することはできない。

▷…「芸術家は自己主張がしない」というのは間違いで、人から影響をうけ全体を見ようとする観察者なのだ。問題意識をもって近くを凝視すると部分しか見えない。好奇心をもって、片目をつぶったり股のぞきして見えるのは原風景であり、全体を見ていることになるんです。

しかし、今日ほど芸術家にとって不向きな時代はない。非常なスピードで立ち止まることができず、観察することができないからです。でもきれいな花が咲いていたり、すてきな女性がいたら、降りて見ればいい。声をかければいい。おかしなことができない時代には、芸術家は生まれない。

▷…彫刻は息の長い仕事で、青年ではできない。還暦を迎えてこれからという時、新しい環境のなかで死ぬまで仕事をしたいと思っていた。死後の世界はない、と思っているので、この世がパラダイス。生きていところを変えなければならない。喜び、楽しんで、やっていきます。

【歩く会】 5月例会

迦葉山參詣と新緑のブナ原生林

玉原湿原バスハイク

迦葉山弥勒寺(みろくじ)は慈覚大師創建の古刹。真赤な大天狗面でも有名。歩く会の5月例会は、19日の第3日曜日、倶楽部を朝6時バスで出発、先ず迦葉山弥勒寺に8時到着参拝をすませてから鹿俣山に登る。山頂(1,636米)で中食をとり銅金沢分岐から玉原湿原に入る。武尊山系の秘境玉原湿原は水芭蕉の咲く湿原と、ブナの純林地帯で5月は玉原を楽しむ最適の時期だ。美しく輝く緑を満喫したハイキングであった。

予定通り17時倶楽部帰着。



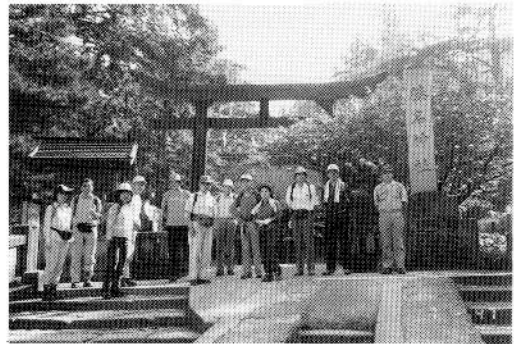
水芭蕉を楽しむ

【歩く会】 6月例会

荘厳な榛名神社と天狗山

6月例会は9日の第2日曜日、自家用車に分乗して午前6時倶楽部出発。榛名神社は榛名山南腹にある用名天皇(585~87年)のころ創建されたと伝えられる延喜式内社。榛名山信仰の霊地で、老杉と奇岩に囲まれた社殿は荘厳なもの。

神社を参拝してから、1,174米の天狗山に登る。ここは江戸時代後期よりの山岳神仰の山、今も真郷町の人々により、細々ながら敬虔な信仰が続いている。登山口から頂上までの間、沢山の神像・石彫の大天狗小天狗・石宮・石灯笼等が続き、往時の盛んな信仰のあとがしのばれた。



榛名神社鳥居前

社員のページ

丸山貞夫作 漢詩数編

題 桐生倶楽部

桐生倶楽部に題す  
韻先

建設星霜七十年  
社員三百礼容虔  
市政発展肝胆砕く  
先輩苦心千古に伝えん

桐生倶楽部文化祭

韻陽

稜稜氣品耐風霜  
七十余年交際場  
立頂点経綸要衝  
今宵祭典坐華堂

(一)

韻東

恰恰流鶯煙雨濛  
南風駘蕩樂無窮  
佳肴会友揚杯処  
風発談論一夢中

(二)

韻灰

葡萄美酒共傾杯  
弦楽美声興自催  
余韻繞梁今も絶えず  
歌姫妖艶笑顔開く

(三)

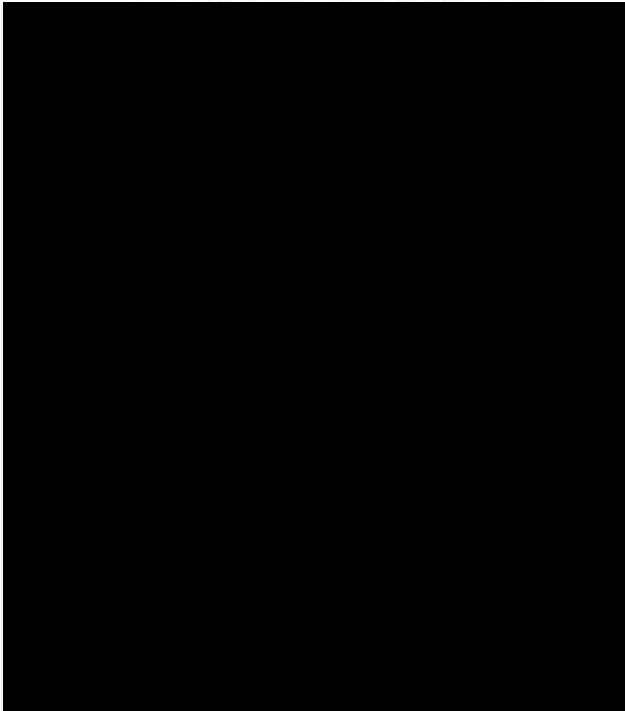
韻青

黄昏新緑雨冥冥  
描画鮮明なり歩停むべし  
愛絵常連人不到  
春心縷々満中庭

※(常連の人)とは前原勝樹先生など



＝ 新 入 社 員 紹 介 ＝



高木香二先生を偲びて

私が前原先生に勧められて当倶楽部の俳句会に入った時は、高木先生は既に会に入られており、毎月句会に出席されておりました。私は医師会の俳句部にも入っていたので今度は高木先生を医師会の方へもお誘いしました。その後先生は事故に遭われ体の調子を崩されてからは両俳句部に毎月投句だけをなさっておられました。お会いする度に今回の投句について何票入ったとか此の句が評判よかつたとか色々お話すると先生はとても喜んで、今度は良いのを作りますよと大変張切って俳句を作っておられました。特に倶楽部の文化祭には率先して達筆の色紙を飾っていただきました。5月迄はロータリーの例会でお会い出来、お話しも出来たのに6月より急に容体が悪化し、遂に帰らぬ人となってしまいました。先生には本町2丁目時代から更に相生町に移られてからも大変お世話様になり誠に感無量です。先生からいただいたロータリーの棒タイは今も大事に使わせていただいております。軽妙な話、つりの話、又色々な面に造詣の深い先生で俳句を通じて先生と話し合う事が出来たのを無上の喜びとし、楽しい懐かしい思い出としてしまっておきたいと思います。最後に先生の最近の名句を掲げて御冥福をお祈りします。

(3月)

試乗車の遠出となりし若葉みち

(4月)

蝶一つ見しより蝶のみちとなる

(5月)

溪川の若葉の色の水を釣る

(辞世の句とおぼしきもの)

池の面に落ちてつばなの旅終る

平成3年7月 桐生倶楽部 俳句部

久保田 裕 一

倶 楽 部 句 会

〔五 月〕

豆飯や寡黙の夫のほめ言葉  
 小粉団(ごま)のゆらりと揺れて猫通る  
 ずっしりと手に色落とす切り牡丹  
 累代の五輪の塔や若葉寺  
 囀りを運ぶ若葉や九十九折り  
 部屋までも明るくなりし若葉かな  
 青桐の葉裏をかえす初夏の風  
 溪川の若葉の色の水を釣る  
 老鶯の若葉の中を移りけり

本 田 大 槻  
 久 保 田  
 小 池  
 廣 瀬  
 森  
 遠 藤  
 高 木  
 尾 沢

〔六 月〕

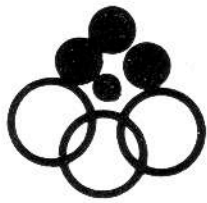
螢火を数へしをれば またひとつ  
 露なりや螢なりやと垣に寄り  
 麦焼きの消えなんとして茜雲  
 それぞれの雨の菖蒲の色しづく  
 見送りの門に佇む螢かな  
 五月雨や上目遣ひの小屋の犬  
 芦の洲の静かに暮るる五月雨  
 夜の更けて梅雨の灯一つ残しあり  
 次々と揺れて風知る花菖蒲  
 五月雨の雫きらめく塔仰ぐ  
 鳴海佳し辻が花よし花菖蒲

本 田 吉 成  
 尾 沢  
 久 保 田  
 遠 藤  
 廣 瀬  
 大 槻  
 小 池  
 高 木  
 森 山

退 社 社 員

飯島 広志 久保田 知巳 栗原 優介  
 小林 満寛 高 木 香二 水谷 浩  
 峯岸 康治

社団法人 桐生倶楽部会報 第64号  
 1991年(平成3年) 8月発行  
 発行人 塚 越 平 人  
 編集責任者 小 池 久 雄  
 印 刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 巨星墮つ

桐生倶楽部 理事長

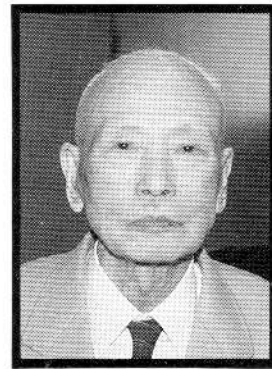
塚越平人

わが生涯の師 前原勝樹先生が遂に逝かれた。  
私は、当日アムステルダムに居て塚越専務の電話でそれを知らされたが、1度ホテル出発時であり、バスに乗り込もうとした時に日本から電話ですとのことで受話器を取るや否や「前原先生に何かあった？」と、思わずこちらから問いかけてしまった。その返事は、今から40分前に亡くなられましたとのことでした。出発前にお見舞いした時、状況があまり良くなかったので或る程度予期していたとはいえ、誠に残念の至りである。同行の案内も少しばし杳然としていたが、「残念でした」とがっかりしている私を慰めてくれた。

私が、北小1年の時に先生は、戸田くに子先生と同時に医学博士号をおとりになり、学校の朝礼にお出でになってお二人で博士号授与の挨拶をなされたのち、「早寝、早起き、腹八分目」と全校生徒と共に唱和されたことが、彷彿と思ひ出された。

その後、サナトリウムを岡公園北側にお建てになって結核診療に専念されたのも先進的なことと思います。爾来60余年、人生のあり方、世の中の仕組等、多方面に亘り、細かいご指導を下された。奥様も太女出身ということで、後輩である私の家内に「おまえそんなことではだめよ。こうしなさい。」と娘同様に指導して下さい、家中でお世話になって参りましたが、我々も含めて桐生市民がお世話になったと言っても過言ではありません。

また、社団法人桐生倶楽部の理事長として、昭和54年1月25日から昭和62年1月29日に及ぶ長い間、倶楽部員をご指導して戴きましたことは、特



故 前原勝樹先生

記すべきことと思います。

その間先生は、桐生医師会の理事、監事を歴任されたほか、桐生市学校保健会長、群馬県学校保健副会長の要職を歴任され、北小学校の学校医として、45年もの長期に亘って児童の健康管理に熱心に取り組み、その他桐生ロータリークラブ会長、地区ガバナーを努められ、その間発行された「ロータリー入門」は斯界のベストセラーとなり、今でもロータリアンの指導書として愛読されて居ります。

更に社会福祉に関心の強い先生は、群馬ユネスコ協会副会長として、国際的な教育・文化活動に心を尽くされました。これらの功により、勲五等双光旭日章が贈られ桐生市からも市政功労者として表彰されました。文筆にも秀でた先生は、「うる覚、私の履歴書、人体名所案内」等の著書を残されましたが、その軽妙洒脱さは今でも語り草の一つとなって居ります。

このように先生の偉業を我々後輩は、範として桐生市発展の礎としなければならぬと思います。残念なことは、もう少し天が先生に寿命をお与え下されたらと、悔やまれてなりません。

先生のご冥福をクラブ会員と共に御祈り致します。



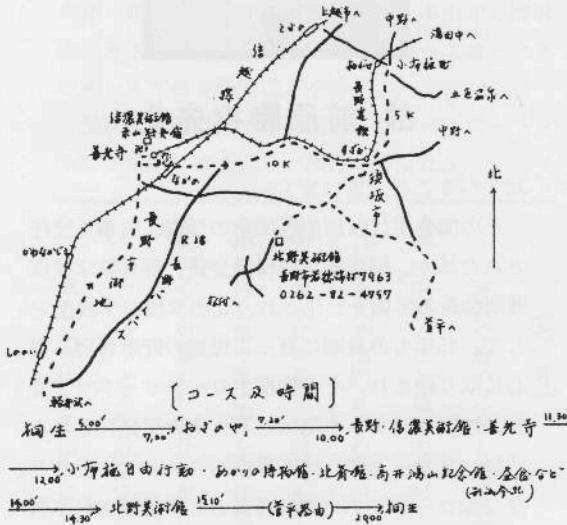
# 月次会報告

## 初秋の信濃路美術館の旅 (歩く会担当)

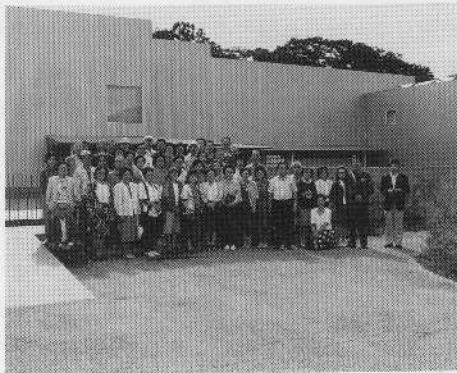
週末にはやってくる台風、前日まで気をもちました。天候もまあまあ雨具なしで出発できホッとしました。美術館の旅は希望者も多く締切前に定員をオーバーする盛況でした。

予定通り5時に桐生倶楽部出発。

図や絵や写真をたくさんのおせましたのでご覧下さい。



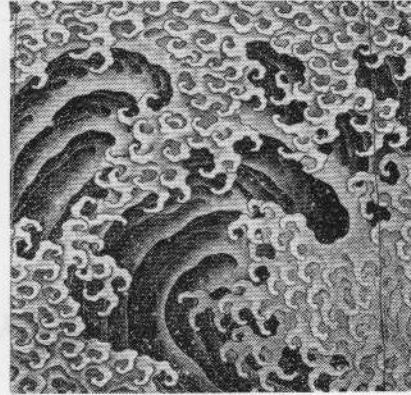
下掲の長野県信濃美術館、東山魁夷館の写真のように長野に着いた時は薄日がさしていました。皆、バスの疲れもみせずニコニコしています。



信濃美術館を見て自由時間、三三五五、長野善光寺様へお参り甘酒など飲み次のコース小布施へ

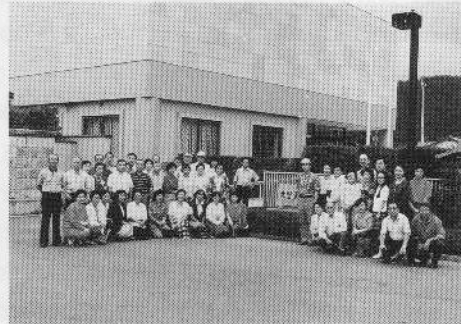
と向いました。

小布施では昼食を入れて2時間の自由行動、先ず栗ご飯などにありついでから北斎館、高井鴻山記念館、あかりの博物館などに散りました。



北斎館上町祭屋台天井

バスに乗り北野美術館へ向う。



北野美術館にて

マルク・シャガール「母と子」

北野美術館は北野建設北野古登氏の個人コレクションで横山大観、上村松園、伊藤深水、川合玉党、竹内栖鳳、が中心で洋画も藤田嗣治、ルノワール、シャガール、ユトリロ、書に佐久間象山、夏目漱石、島崎藤村、外に工芸品、彫刻も蒐集展示されている。

帰途につき予定よりそれ程遅れず9時には帰桐生しました。歩く会の幹事の皆様ご苦労様でした。



社員のページ

1991.9

まるやまさだお

悼前原先生

前原先生を悼む  
韻後

(一) 欲向花言花尽落 花に向い言はんと欲すれば花尽く落つ  
期留鳥訴鳥皆飛 鳥を留めて訴えんと期すれば鳥皆飛ぶ  
如何惆悵終難遣 如何せん惆悵終にやり難きを  
慟哭蕭条涙未晞 慟哭蕭条として涙未だわかあかず

(二) 夫人病弱已何年 夫人病弱已に何年  
芳恤不離借老縁 芳恤離れず借老の縁(惹めむきらう)

避莫非情終没齒 さあれ非情にしてついに歯を没す死ぬ  
秋風蕭颯淚漣漣 秋風蕭颯として涙漣々たり

(三) 白秋飛散耐消魂 白秋飛散し消魂耐ゆ  
消影老翁烟雨昏 老翁影を消し烟雨くらし  
描画生前虚哽咽 生前の画描虚しく哽咽す  
不帰流水遠雷奔 流水帰らず遠雷奔る

梅松居前原勝樹先生昇天

梅松居前原勝樹先生昇天す  
韻前

(一) 煙霧濛々溼暮朝 煙雨濛々溼暮の朝  
門前蟬默自蕭寥 門前の蟬黙して自ずと蕭寥  
温容未消如前日 温容未だ消えず前日の如し  
白髮老医形影揺 白髮の老医形影揺らぐ

(二) 魂魄昇天夜寂寥 魂魄昇天し夜寂寥  
菊花葬送雨蕭々 菊花葬送雨蕭々

雖求呼返九泉遠 呼び返さんと求むと雖も九泉遠し  
煙霧濛々影動揺 煙霧濛々影動揺す

(三) 描花花を描く 仄細  
天地是悠々 天地これ悠々たり  
愴然而涕下 愴然として涕下る  
有生日描花 生きてありし日に花を描く  
是絵君詩唱 是の絵君が詩を唱す

是絵君詩唱

前原勝樹先生之生涯

第一段 成医者 医者となる

生天神社下 天神社の下に生まる  
天性蒲柳人 天性蒲柳の人  
於素封家育 素封家に育つ  
医学道已句 医学の道すでにととのう  
学京都大学 京都大学に学ぶ  
走無医村頗 無医村に走ること頗りなり  
時軍医奉公 時に軍医として奉公す  
不調退軍塵 不調にして軍塵を退く  
帰郷開病院 帰郷して病院を開く  
肺病未為珍 肺病未だ珍となさず  
建結核病棟 結核病棟を建つ  
遂為苦闘身 遂に苦闘の身となる  
病在人間気 病は人間の気なり  
心安身常春 心安ければ身常に春なり

第二段 ユネスコ運動邁進

戦争存人心 戦争は人の心に存す  
平和依相憐 平和は相憐れむに依る  
壮年四四歳 壮年四四歳  
教科文念全 教科科学文化(ユネスコ)の念全し  
参協会創立 協会創立に参す  
西田校長先 西田校長を先とす  
森氏二代目 森氏二代目なり  
何経各四年 何れも各四年を経たり  
前原氏到今 前原氏は今に到る  
三三年間天 三三年間の天  
病院経営共 病院経営共に  
平和志愈堅 平和の志愈堅し  
蒔種之育成 種を蒔き之を育成す  
県内十三辺 県内十三の辺  
成協会設立 協会設立成る

成果は何縁

時全国大会 時に全国大会あり  
三千人相連 三千人相つらねたり  
一躍為先連 一躍先連となる  
令名天下伝 令名天下に伝わる  
第三段 晩年 晩年

為中央理事

又副会長 又副会長となる  
更国内委員 更に国内委員たり  
然共厭虚名 然れども虚名を厭う  
勳五旭日章 勳五旭日章たり  
実績万感盈 実績万感溢る  
常俳句精進 常に俳句に精進す  
油絵有定評 油絵は定評有り  
又随筆妙手 又随筆の妙手たり  
多著書充棚 多くの著書棚に充つ  
各種何名著 各種何れも名著なり  
好評暗自驚 好評暗に自ら驚く  
憶平和運動 平和運動を憶い  
巴里会議行 巴リの会議へ行く  
計国際交流 国際交流を計る  
太平夢亦清 太平の夢亦清し  
体力消耗果 体力消耗の果て  
入院病床七 入院病床に横たう  
高齡八十七 高齡八十七  
遂異境幽明 遂に幽明境を異にす  
茫然自失矣 茫然自失たり  
西風天籟鳴 西風天籟鳴る  
死者長化仙 死者はとこしなえに仙と化す  
存者徒偷生 存する者は徒に生をぬすみ  
去者日以疎 去る者は日に以て疎し  
惆悵永訣情 惆悵として永訣の情たり

倶楽部だより

- ◎8月 月次会(15日) 歩く会担当  
理事会 (8日) 「初秋の信濃路美術館を  
俳句会 (29日) 訪ねて」  
◎9月 会報委員会 (18日)  
歩く会世話人会 (5日) 俳句会 (26日)  
写真部会 (8日) 音楽鑑賞部会 (26日)  
理事会 (11日)

別館ご利用のおすすめ

前号の会報でご案内申上げましたように、本館  
ロビー左手の奥に別館が完成しました。部屋の広  
さは68.54平方メートル(約21坪)、定員は20人です  
が補助椅子を使用すると40人まで可能。極上のカー  
ペットに豪華なチェアと内卓、今までの会館  
の部屋とは一味違うデラックスな部屋です。社員  
の皆様のご利用をお待ちしております。



【歩く会】 7月例会

花の霧ヶ峰・車山と  
親湯温泉・ローランサン美術館の旅



車山のニッコウキスゲの中で

今月の例会もバスを利用しての旅となる。軽井沢・佐久を経て白樺湖を過ぎれば直ぐに車山登山口。全山ニッコウキスゲを中心にシモツケソウ・ヤナギラン・マツムシソウ・ハクサンフウロなどの花・花・花にうずまり実に見事。車山から御射山(みさやま)・八島ヶ原湿原を通してピーナスラインまでの4時間ほどを歩く。

帰路は親湯温泉で汗を流し、マリー・ローランサン美術館に寄る楽しい旅行であった。

前原梅松居宗匠を偲ぶ

桐生倶楽部に俳句の会ができたのは昭和40年ごろであったと思う。当時の理事森口順四郎さんが大変ご熱心であり、小玉孩子先生・岩下吟千先生などの錚々たる俳人が揃っていた。前原勝樹先生はそれまで俳句を作られたことがなかったそうであるが、倶楽部の俳句会には第1回からメンバーに入り、天分と熱心さで間もなく他の方に伍しても遜色の無い句をお作りになるようになった。俳号を梅松居(ばいしょうきよ)とつけられた。

この句会には、時々ホトトギス同人の荒川あつし・岡安迷子先生などを招きご指導をうけていた。昭和47年に句会のリーダーであった森口順四郎理事がお亡くなりになり、倶楽部句会は一時期休会となったが、間もなく前原梅松居先生(前原勝樹副理事長)のお骨折りで句会が復活、先生がご指導をされるようになった。

その桐生倶楽部句会のご出席も5年ほど前までであったと思う。その頃の句をいくつか拾って先生を偲ぶよすがにしたい。

明易し追分宿や馬の声

晩学のルーベにたよる夜長かな  
湯豆腐の煮えすぎぬ間の一談義

前原先生と俳句と云えば忘れてはならないものが奥の細道の研究である。「奥の細道を辿りて」という先生の名著の出版記念会が昭和62年6月にブリオパレスで開催されている。その時の先生の嬉しそうな笑顔がいまでも見えるようである。

＝ 新 入 社 員 紹 介 ＝

倶 楽 部 句 会

〔七 月〕

草むしり仕上手伝うにわか雨	カッカツと炎天眩しミニが行く	くづの葉も打ちひしがれし炎天下	月見草今宵は窓を開け放し	炎天にからくり時計正午告ぐ	炎天や山門までの路白し	中瓶でこと足る夫婦ビールかな	炎天や敵のごとく道普請
---------------	----------------	-----------------	--------------	---------------	-------------	----------------	-------------

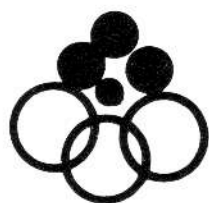
北川	吉成	遠藤	森	小池	尾沢	本田	久保田
----	----	----	---	----	----	----	-----

垣もれて木犀の灯のともりけり	朝顔の日毎に変わる花配置	下駄を履き朝顔越しの会釈かな	七夕や小笹に托す願ひごと	ウインドの彩の秋めく機の街	七夕や淡き願ひの女文字	送り火の灰の白さや茄子の馬	草抜けば秋めく庭の拡がりし
----------------	--------------	----------------	--------------	---------------	-------------	---------------	---------------

金谷	森	広瀬	吉成	遠藤	本田	尾沢	小池	大槻	久保田
----	---	----	----	----	----	----	----	----	-----

〔八 月〕

社団法人 桐生倶楽部会報 第65号  
 1991年(平成3年) 10月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 小池久雄  
 印刷 ツポノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 17

### 桐生織物の販路拡大

桐生織物の進歩発展の過程で大きな役割を果たしたものに、絹買い商の存在がある。

会報53号（彦部家について）で、桐生市の重要文化財として現存する「彦部家仁田山紬注文書」についてふれた。時代はずっと後になるが、次に残る織物取引について確実な文献は書上家文書である。

江戸の間屋大塚屋庄右衛門よりの仕切断簡（貞享元年—1684年）、京都の間屋芳野屋治右衛門よりの仕切書（元禄9年—1696年）である。いずれも書上三郎左衛門宛のものである。

この貞享・元禄のころより、桐生織物の販路は江戸・京都を中心に拡がり、年とともに取引は盛んとなり、明和（1764年）のころには、近畿・東海道・東北・蝦夷にまで及んだ。

絹買い商には、買い送り人（買い継ぎ）と国売り（行商）がある。買い継ぎは、江戸・京都など大都市の間屋から糸代金の前渡しをうけ、注文に応じて製品をととのえ、間屋先に届け、その間の口銭をとる。国売りは、生産者から買い集めた製品を地方に行商して販売利益をとるものである。

買い継ぎ商で著名なのはさきに挙げた桐生新町二丁目の書上三郎左衛門、新町三丁目の佐羽吉右衛門、新町一丁目の長沢新助などがある。長沢新助の取引先は、江戸・上方などで130店におよんだといわれる。

国売りでは、新町六丁目の新居峯章、新居甚兵衛、新宿村木村才兵衛などがいる。中でも今泉村木村三郎兵衛は仙台に出張所を設け、東北方面への販売をしたし、文化年間になると、新町五丁目の吉田源兵衛のように蝦夷・松前の方面へまで絹を売り込んだ。その行商の方法は戸別訪問でなく移動出張店の形式をとったという。

桐生織物の発展は、こうした絹買い商の活躍に負うところが非常に大きい。

※書上三郎左衛門は天正二年（1574年）、佐位郡下植木村から桐生へ移住している。

佐羽吉右衛門は、もと近江商人の出であり、文禄四年（1595年）伊勢多気郡相可村から移住し、桐生新町の富農稲垣家と縁組みして基礎をつくった。薄利多売・共存共栄の商法で江戸方面への販路を開拓し、「関八州田舎分限角力番付け」に小結に格付けされるほどの富豪となった。「桐生のあゆみ」にこれからも佐羽家が度々登場するが、佐羽家の桐生に対する功績はまことに大きいものがある。

（桐生文化史談会発行の「桐生の歴史」参照）



美濃屋庄右衛門から書上文左衛門あての仕切書本文中の書上三郎左衛門宛の仕切書は、現在桐生に残っていない。書上家は文左衛門と三郎左衛門を交互に襲名している。

## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

### ◎10月

- 音楽会（4日） 室内楽「高崎六重奏団」
- 理事会（8日）
- 月次会（19日）懇話会担当「沼須人形芝居」
- 歩く会世話人会（21日）
- 俳句会（22日）

### ◎11月

- 理事会（8日）
- 歩く会（10日）「桐生川の源流の山根本山」

- 会報委員会（11日）
- 月次会（15日）「桐生新町と八坂祭典」
- 講師 桐生市教育委員会 伊藤晋祐氏
- 文化財保護係長
- 歩く会世話人会（22日）
- 俳句会（22日）
- 囲碁会（24日）秋季囲碁大会
- 行事委員会（25日）
- ゴルフ部会（27日）





## 月次会報告

【10月】

### 沼田の無形文化財 沼須人形を鑑賞

10月度の月次会は19日、二階大広間の特設舞台で、沼田市の無形文化財「沼須人形芝居」を鑑賞しました。

沼須人形は、人形をつかって見る日本の代表的な伝統演劇の一つで、幕末から明治中期にかけて沼田一円で盛んに上演された一と記録されているひとり使いの人形劇。その後、継承者の死亡などで衰退、消長を繰り返し、戦後になってから郷土史研究家の萩原進さんの調査でその貴重さが指摘され、文化財指定への弾みとなりました。現在は、沼須部落全戸の人たちの手で実技保存への努力が続けられております。

この日は、あけぼの座の人たち15人が、トラックいっぱいの大道具、小道具とともに訪れ、大広間は即席の人形劇場に早替り。

人形の扱い方の説明があつてから、ご存知、お染、久松の悲恋物語「新版歌祭文野崎村の段」一幕と、紀の国道成寺で有名な安珍、清姫の義太夫「日高川入相桜渡場の段」一幕の二つが上演されました。いずれも桐生公演ははじめてとあつて、観客の皆さん、息を詰めて見つめ、県内に伝わる民族芸能の素晴らしさを堪能しました。

【11月】

### 「桐生新町と八坂神社」

桐生市教育委員会文化財保護係長  
伊藤 晋 祐 氏



11月例会は15日午後6時から市教委文化財保護係長の伊藤晋祐さんをゲストに、市教委が今夏制作した八坂祭典のビデオを鑑賞しながら標題のお話しをお聞きました。参会20人。

ビデオは、6月18日に始まる各町あいさつ回りから御霊うつし、渡御、そして翌年に備えたみこしの点検の様子など祭事の一部始終を52日間にわたって10時間のテープに収録、それを30分に編集しなおした力作です。

伊藤さんは「まつりの性格を民族文化の観点で捉えたが将来は無形文化財指定の方向へ持ってゆきたい。内容は十分とは言えないが、桐生の夏まつりを考えるキッカケになれば幸い」と、話していらっしゃいました。



## 室内楽の夕べ

### —音楽鑑賞部会—

倶楽部に室内楽は良く似合う。10月4日、桐生倶楽部音楽鑑賞部会では、高崎六重奏団を招き室内楽の夕べを催した。社員や家族・友人で聴衆は100名をこえる盛況。高崎六重奏団は群響首席フルート奏者関原博氏を中心に、群響メンバーやフリーの演奏家によって結成され、夫々がソリストでもある質の高い六重奏団である。

主な曲目はモーツァルトのフルート4重奏曲二長調、バッハの管弦楽組曲第2番短調など、演奏も聴き手も素晴らしく、休憩時にはワイン・ジュースのサービスまであり、まことに楽しい秋の一夜であった。

音楽鑑賞部会員の人は、企画から当日の演奏会まで、大変なお骨折りをいただいた。舞台も前日から汗を流して作ったもの。しかし、六重奏団からは大変演奏が楽しい雰囲気だと喜ばれ、社員の皆さんには、感謝され部会員の労苦もむくわれたようであった。

楽団のメンバーは、フルート関原 博、バイオリン佐分利恭子・田尻 順、ピアノ佐野 隆、チェロ桑田 歩、コントラバス岩木春彦である。



高崎六重奏団のメンバー



沢山の聴衆

## 【歩く会】 11月例会

### 残紅の根本山

根本山は、桐生に住んでいるなら年に一度ぐらいは、必ず登りたい山である。歩く会は11月10日、紅葉のまだ残る根本山へ登った。

倶楽部からはメンバーの車に分乗して、三境林道の分岐まで。ここから不死熊橋までは10分ほど歩く。不死熊橋からは、いつもの道でなく十二沢林道へ行き、林道の終った所から狭い山道を辿り、十二山の根本神社に行きつく。十二山の根本神社は通常十二山神社と呼ばれ、桐生市民よりも田沼町の人達の参詣が多いようで、毎秋、田沼より神宮・信者が集り祭事を行っているという。(桐生市民のなじみ深い根本山神社とは別) 此処から根本山頂まで30分の距離。天候にめぐまれ山頂附近からの展望が素晴らしい。帰途はいつもの中尾根を下った。



十二山の林道終点



根本山頂



前日からの舞台づくり



### 倶 楽 部 句 会

10月の句会は、現代俳句協会会員で俳誌「四季」同人、「白」主宰の有富光英先生にご出席いただき、ご指導を願いました。

先生は倶楽部句会の仲間広瀬社員の友人で、「草田男・波郷・秋邨 — 人間探究派」の著書や数々の句集を出しておられます。当日は倶楽部句会にご参加いただいて後、先生から入選20句、特選3句を披露され、適切な批評・助言をいただき出席者一同大変参考になりました。

句会終了後、「味感」で会食。先生も倶楽部句会に好印象を持たれたようで、再度の来桐を約しておられました。

平凡を日々に知足の栗の飯  
石仏の頬に紅さす山紅葉  
踏みかへて又踏みかへて栗を剥ぐ  
口笛やどこまで届く紅葉山  
この山のこの谷だけの紅葉かな  
毬栗や転びて草に隠れけり  
鳥々の遠近わけて霧眼る  
つわぶきの静かに立ちて夕日浴ぶ  
宮司掃く掃の先の栗の毬  
つかの間の秋晴れを行く車椅子  
人影もなき中軽の紅葉かな  
露地裏の久闊の家柿紅葉  
木犀や振り返り見る夜の門  
秋晴の底の木霊を呼び戻す  
毛の国の曼陀羅紅葉つくしかな

#### 桐 生 俱 楽 部 十 月 句 会

本 尾 久 尾 本  
田 沢 保 田 田  
小 廣 倉 大 遠 北 吉 清 金 有 有  
池 瀬 林 榎 藤 川 成 水 谷 富 富

つかの間の秋晴れを行く車椅子  
しゃれた街小布施の店に栗かのこ  
達筆に新栗ありと無人店  
石仏の頬に紅さす山紅葉  
白壁のあくまで白き秋晴や  
つわぶきの静かに立ちて夕日浴ぶ  
この山のこの谷だけの紅葉かな

**特 選 三 句**

鳥々の遠近分けて霧眼る  
短日やライトアップの古館  
山栗人を呼びび人を拒みおり

北 尾 大 小 小 倉 小 廣 廣  
川 沢 榎 池 池 林 池 瀬

床の間を野に置きかへし葛の花  
鉾山(やま)廃れ切羽にたるる葛の花  
歩に合はせ離れず進む川面月  
ふくれたる露ひかりつつ地に落ちぬ  
一株の芋を今宵の月に掘る  
小芋売る店の小川に水車かな  
鹿火屋とは茶店の名なり芋田楽  
芋堀りの老婦の背丈葉に埋もれ  
露草の藍残しける長の雨  
道の無き向ひの山に葛の花  
いつの間に庭のあるじや萩の花  
雨合いに切り芋干してトタン屋根

廣 本 倉 清 遠 吉 小 尾 久 金 北  
瀬 田 林 水 藤 成 池 沢 保 谷 川

### 秋 期 囲 碁 大 会

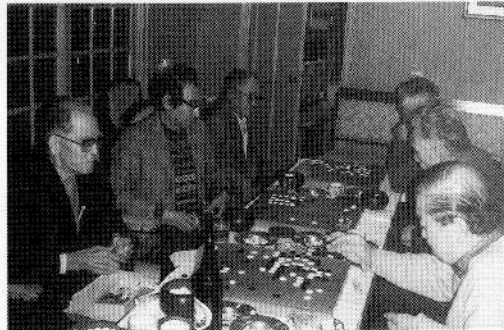
11月24日、桐生倶楽部囲碁部会の秋の集りを6号室にてもちました。

腕自慢の皆さんが久しぶりに好敵手と心ゆくまで烏鷺を戦はし楽しい一日でした。

ちなみに上位成績者は次の通りでした。

1位、広瀬進さん、2位、岡田光弘さん、3位、野田反次郎さん、4位、福永儀一さん、5位、金谷利男さん、6位、鳥勝二さん(以下略)。

(囲碁部会はつとめて毎週土曜日午後1時にクラブ6号室で集っていますので、是非、皆さんお出掛け下さい。)

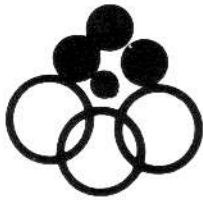


#### 光 英 選 二 十 句 (十 月 句 会 よ り)

キャンパスは紅葉したたる絵巻かな 広瀬  
毬栗や転びて草に隠れけり  
釣糸の風にふわりと紅葉蔭  
平凡を日々に知足の栗の飯 本田  
秋晴れに上棟の幣(ぬき)白き浮き  
湯の川に流るる紅葉手に掬ふ  
コスモスの揺れ残りけり通過駅 久保田  
学園の祭りあちこち秋日和  
秋晴れや校舎の隅の忘れ傘 森  
口笛のどこまで届く紅葉山

#### 桐 生 俱 楽 部 九 月 句 会

社団法人 桐生倶楽部会報 第66号  
1991年(平成3年) 12月発行  
発行人 塚越平人  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 18

### 桐生織物業の発展と文化

最近、河出書房新社から「天保期、少年少女の教養形成過程の研究」という本が出版された。著者は群馬大学教育学部名誉教授であった故高井浩氏である。桐生新町五丁目機屋吉田清助の長女いと女と弟の元次郎の2人が、清助の師で著名な国学者橋守部（江戸在住）に預けられ、教養・躰を学ぶ過程が、膨大な書簡史料を駆使して刻明に書かれている。大変貴重な研究書である。

吉田清助は当時の代表的機業家であったが、同時に代表的文化人であった。桐生がこうした文化人を生み、一般にも文化を発達させるようになったのは、織物業の発展によるものであった。

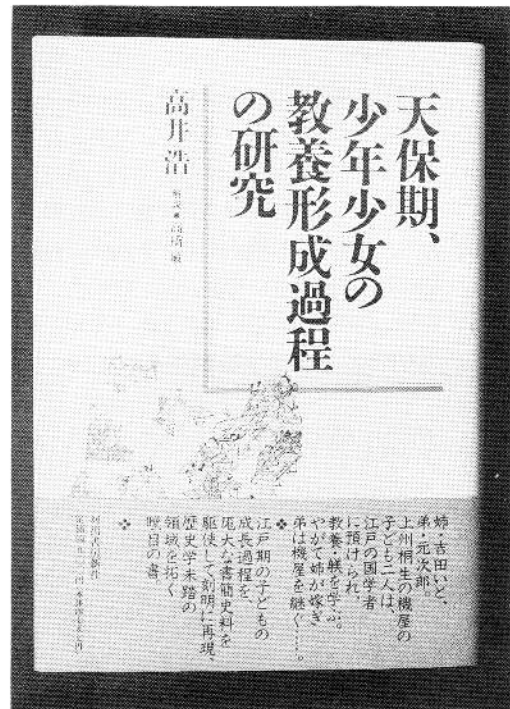
- (1) 経済的ゆとりが文化の受入を促れを促した。
- (2) 江戸をはじめ京都・大阪等の文化都市との交通が頻繁となり、自然に高度の文化が流入、特に江戸は一日半路の行程であり、しかも当時の江戸は文化の爛熟期であった。

その他の要因として、八木昌平先生は、仁侠心に富み、文化追求の意欲に燃えた富豪の貢献をあげ、例として長沢紀郷の西野塾（桐生の寺子屋第一号）の設立、佐羽淡斎の作詩塾の設立、吉田清助の橋守部の研究への支援等を述べておられる。

とも角、桐生の文化は織物業の発展とともに、宝暦・明和の頃から始まり、文化・文政・天保の頃は全盛期であった。当時は買継商・機屋・農民等の旦那階級は、余技として漢詩・和歌・書道・絵画・俳諧・狂歌等の一芸や二芸を心得ないもの

はないとまで言われている。

特に、買継商二世佐羽吉右衛門（号は淡斎・安永元年—文政八年）は著名で、淡斎を中心とする桐生の漢詩界は隆盛を極めた。淡斎は江戸の歌舞伎中村・猿若・市村三座の総元締でもあり、これにより得た莫大な利益をもって、江戸の著名な文雅の士を優遇し、詩酒応酬の門にもたくみに桐生織物の宣伝をしたという。自作の詩を天下の名勝の地に百碑建てることを念願としたが、十一碑で終わった。桐生の近くでは大間々要害山に「十山亭詩碑」が残っている。



## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

### ◎12月

- クリスマス祭（7日）
- 歩く会（8日）「横浜文化探訪」
- 理事会（11日）
- 写真部会（14日）
- 俳句会（19日）

### 平成4年

### ◎1月

- 新年互礼会（4日）

- 歩く会世話人会（10日）
- 歩く会（12日）「初春隅田川七福神めぐり」
- 理事会（13日）
- 会計監査（20日）
- 会報委員会（20日）
- 俳句会（24日）
- 臨時理事会（30日）
- 定時社員総会（30日）



# 月次会報告

【12月】

## クリスマス会

玄関ロビーにクリスマス・ツリーが飾られて、12月7日(土)、一足早いクリスマス会が催されました。

参加者は約90人。家族参加の交歓の場としては納涼会とともに数少ない機会なので、会場の二階大広間は、待ちかねた小さいお客さんも混って弾けるような賑やかさ。

定刻6時。レイを首にかけた塚越、飯山正副理事長があいさつして開会。

書上誠之助社員が聖書朗読すると、聖夜のムードが次第に盛りあがってきました。金谷佐江子さん(金谷善介社員の長男品夫氏夫人・東京音大音楽科)による讃美歌の調べが会場いっばいに流れていよいよ佳境に。一同、厳かに清らかに倶楽部伝統行事の雰囲気うっとりとして浸っていました。

乾杯のあとは、お待ちかねサンタクロースの登場です。今年のサンタ役は清水信次社員。行儀よく一列に並んで、順番に清水サンタさんからの贈りものを頂いてみんなニコリ。

おとうさんの方も、福引の景品を高々と差しあげてご満悦でしたが、どの顔もビールの酔いがまわって「金時の火事見舞い。。ひとりサンタのおじさんだけは、サービス過剰だったのでしょうかぐったり、と煙草をお喫いでした。

それにしましても、年末の超繁忙期。時間をさしくって会場整備に尽力くださった行事委員さんには感謝のことばあるのみです。また、景品その他でご協力いただいた皆様、ありがとうございます。



家族サービスに大車輪

【1月】

## 新年互礼会



乾杯 !!

恒例の新年互礼会が1月4日午後零時半から二階広間で催されました。

記録的な暖冬と好天に恵まれた年明けでしたが穏やかな日和にもまして会場内は和気洋々。おとそ気分を手伝って、席の間を飛びまわって賀詞交換に精出す姿が目立ちました。

森理事の手馴れた司会で進められた互礼会は、小池副理事長が開会の辞。つづいて塚越理事長が年頭所感を述べました。

理事長はその中で、酸性雨被害にふれ、クリーンな環境保護への意識喚起を訴えて共感を呼びました。

来賓の日野茂桐生市長、笹川堯郵政政務次官、日野貞夫県経営者協会会長、それに近藤英一郎全国商工連合会長から、それぞれの立場で期待をこめて新しい年への展望が披露され、遠藤俊一社員の音頭で乾杯、互いに今年度の活躍を誓いあいました。



メリー・Xマス



ああ、くたびれた！



## 【歩く会】 12月例会

## 港・ヨコハマ文化探訪

歩く会世話人代表 木島 清

一月「太平記の里めぐり」に始まった「歩く会例会」も、二月春駒、三月鳴神山、四月稲倉山、五月玉原湿原、六月襟名天狗山、七月霧ヶ峰、九月信濃の美術館めぐり（月次会も兼ねて）、十月は雨で中止、十一月根本山と数々の楽しい思い出をつくり、一年が過ぎて行きました。十二月は恒例によって美術部会にも協賛して頂き、師走の「港ヨコハマバスハイク」は、静かな日和の十二月八日(日)51名の社員・家族がなごやかなうちにも楽しい一日を過ごしました。

一寸気になる天気予報に傘を持って、午前5時半まだ暗い桐生倶楽部前庭はバスを待つ社員・家族で賑やかでした。午前6時定刻にバスは出発して50号を佐野より東北自動車道に入り、快適なバス旅行は8時過ぎ港ヨコハマの名物ベイブリッジに着きました。

静かな朝の横浜港、大きい船がアチコチに泊りランチが走る港の風景は、吾々海のない群馬県人には何とも言えない心に海を感じさせる風景です。巨大な吊橋のベイブリッジをバックに記念撮影、コーヒープレイクと汐の香を味わい、最初の目的地横浜本牧の「三溪園」には定刻9時に到着。これから2時間たっぷり11時まで名園と由緒ある建物、資料館で明治の実業家（生糸貿易）原高太郎（号三溪）の出生からの歴史・コレクションを觀賞致しました。

再びバスに乗り、横浜の山手、閑静なそしてエキゾチックな住宅街の坂道を登り「外人墓地」に着きました。ボランティア活動で「外人墓地を愛する会」（横浜YMCA）が募金をして居ります。



皆百円コインを箱に入れ、門より「外人墓地」の中をコース順路標に従って一列に見学？して歩きました。そして300M高台の道を歩くと「港の見える丘公園」、眼下にひろがる横浜港、山下公園の銀杏並木、大棧橋には、明後日（10日）航海に出る郵船クルーズ船建造の最新超豪華客船「飛鳥」（アスカ）の白い巨体が浮かび、遠く「みなと未来地区」方向にはヨットの帆の型のホテル、夕方行く横浜美術館の大きい建物も望まれ、「みなとの見える丘公園に来て良かったねえ」と皆大喜びで展望を楽しみました。

公園からは坂の道を、マリントワー横の「人形の家」まで歩き、先に駐車してあるバスを確認の後、午後3時まで自由行動です。ファッションタウン「元町」のショッピング、中華街での食事、そして「関帝廟」を見学、みなそれぞれのヨコハマホリデーを楽しみました。

午後3時、一人の遅刻もなくバスは横浜ミナト未来地区に向います。東京都庁より高くなる建築中のビルの横、巨大な大理石建造物は「横浜美術館」です。4時半まで常設展を見学、その豪華にして巨大なフロアーをもつ美術館に、なんとなく21世紀の横浜の文化への心意気を感じさせられる思いでした。

事故もなく、ヨコハマ文化探訪の旅は夜8時の定刻、ライティングに美しく浮き上がる（社）桐生倶楽部前に到着、楽しい一日が終わりました。





### テレカを発売

内外装の改修工事で面目一新の倶楽部ですが、  
こんどはテレホンカードが出来あがり、新倶楽部  
のPRに一役買って好評です。

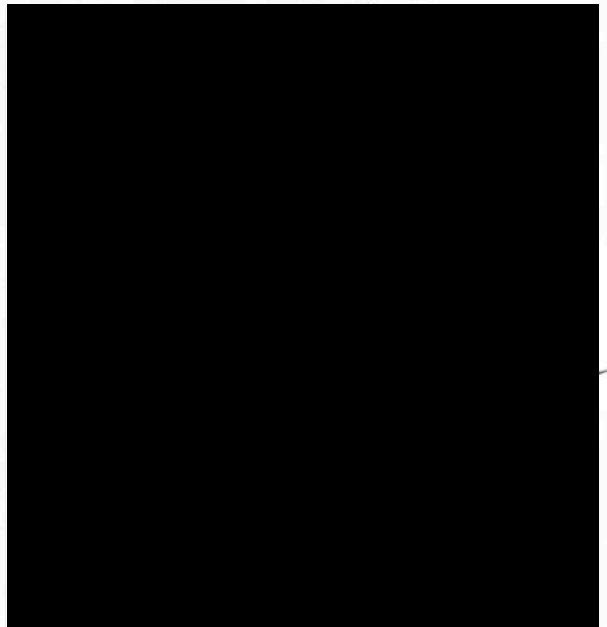
新発売テレカの絵柄は、ライトアップされた全  
館写真と、満月を別々に撮影、合成した塚越理事  
長苦心の傑作＝写真。

50度数、一枚 900円で製作枚数は 300枚。売れ  
ゆき好調、お急ぎにならないと品切れの恐れも。  
扱いは事務局窓口で午前9時～午後5時。



### ◆新入社員紹介◆

(敬称略)



#### 桐生倶楽部 十一月句会

木洩れ陽を拾いて咲ける石蔭の花  
石蔭咲くや恙無き日のつづきわり  
陽に透きて樺大樹の冬めける  
空き屋敷荒庭なれど石蔭の花  
歌舞伎はぬ銀座の街の冬めける  
お宝と子を背に帰る恵比寿講  
雨の中続く敷石石蔭の花  
一輪の黄は石蔭の花句碑に添ふ  
小春日や障子の縄の動きけり  
鯛の目の青く光るや恵比寿講

#### 桐生倶楽部 十二月句会

夕映えの視野尽くるまで枯野かな  
今年も又稲植えぬ田の初氷  
風のあと残す枯野の夜明けかな  
大日輪枯野の果の海に入る  
一枚の葉の凍てつきし初氷  
日の当る赤城へつづく枯野かな  
一筋の道は枯野に果しなく  
走りくる仔犬転びし枯野かな  
運勢を読み返し見る古暦  
繻けば捨てがたきもの古暦  
初氷踏んで音きく童かな  
滝音の籠る余地なし冬の山

倉 吉 清 尾 大 遠 久 広 本 森 小  
林 成 水 沢 槻 藤 保 瀬 田 山 池  
大 尾 遠 広 小 清 本 久 倉  
槻 沢 藤 森 瀬 池 水 田 保 林

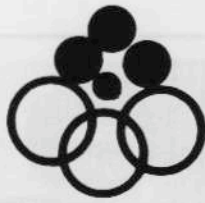
### ◆退社社員◆

(敬称略)

荒 木 幸 男

社団法人 桐生倶楽部会報 第67号  
1992年(平成4年) 2月発行

発行人 塚越平人  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 19

### 高山彦九郎と渡辺華山の来桐

高山彦九郎(1747~93年)は、新田郡細谷村(現太田市)の郷士の家に生れ、熱烈な勤皇の志を抱き、全国を歴遊して大義を説き王政復古の原動力となった人である。

高山彦九郎は、上広沢村の名主丹羽佐七(絹買、俳諧、狂歌の道でも知られた人)とは別戀であり、如来堂村(現相生町1丁目)の名主津久井儀右衛門とも親交があり、度々桐生へ来たようである。

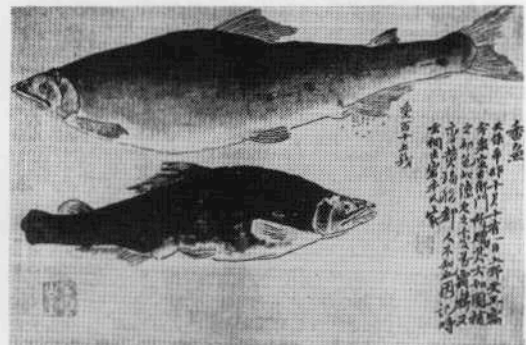
彦九郎29才の夏、安永4年(1775年)、2週間にわたって梅田の忍山鉦泉に來浴、「忍山湯旅の記」を書き残している。原本は皇室所蔵となっている由であるが、単なる入湯日記ではなく、沿道、忍山附近の地理・歴史・神社・仏閣・産物・民俗・土俗等を詳細に記した一篇の風土記であり、郷土史の上でも貴重な文献である。なお彦九郎の次女さと、三男儀助の2人は桐生を墳墓の地としている。

渡辺華山(1793-1841年)は、三河田原藩の家老職をつとめる。蘭学に通じ、高野長英・小関三英らと尚齒会を結成、深く海外の事情を研究し、幕府の海防政策を批判する「慎機論」を著し、蛮社の獄に連座、郷国に蟄居中に自刃した。画家としては谷文晁の門に学び、西洋画法も取り入れ独自の様式を完成した。

華山の妹、茂登(もと)が、桐生の絹買岩本家に嫁したことから、華山と桐生の関係が生じた。岩本家は桐生の豪商であり、華山一家と岩本家との交情は深く、華山來桐以後に華山の母親も桐生へ来て、岩本家に歓迎された記録がある。

華山第一回の来桐は天保2年(1831年)10月12日。藩候より内命を受けていた藩講撰集の資料収集のため武州三ヶ尻を調査する旅の間であった。この時華山が認めた10月11日江戸出発以来、30日までの紀行文が、有名な毛武遊記であり、桐生・大間々・足利・尾島地方の写生絵巻とともに現存している。華山は天保5年10月、天保6年8月にも桐生へ來遊している。

桐生市指定重要文化財「観音院涅槃図」は、華山の甥であり、絵の弟子であった岩本一遷の描いたものであり、観音院の近くに岩本茂登の墓も残っている。



香魚(あゆ)の図、天保2年に華山が桐生の岩本家に來遊した時、渡良瀬川の鮎の大物を写生したものである。

## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

### ◎2月

- 理事会(7日)
- 歩く会(9日)「高尾山ハイキングと武蔵野陵(昭和天皇)参拝」
- 俳句会(21日)
- 歩く会世話人会(24日)
- 懇話会(29日)「安吾引越し記念日」

### ◎3月

- 歩く会(8日)「マンサクの花咲く仙人ヶ岳」
- 理事会(9日)
- 会報委員会(11日)
- 月次会(17日)「釣り四方山話」島崎憲司郎氏
- 囲碁会(20日)春季囲碁大会
- 俳句会(27日)
- 文化活動委員会(30日)
- 歩く会世話人会(31日)



## 新予算は1.951万円

### 1月30日 定時社員総会開催

定時社員総会が1月30日午後6時25分から桐生倶楽部大広間で開かれました。

提出案件は

- ①平成3年度事業概況報告
- ②平成3年度決算諸表報告および会計監査報告
- ③平成4年度事業計画および収支予算案

の以上3件。社員総数322名中、出席33名、委任状168名で会議成立、審議に入って、総額1,951万円内の新予算案ほか全議案を原案通りに可決、承認しました。

成立した新予算の内訳はつぎのとおりです。

**収入の部** ・会費1,214万4,000円・月次会費7万円・会館使用料230万円・設備使用料40万円・電話使用料2万円・収入利息6万5,000円・入会金30万円・雑収入65万円・寄付金150万円・前期繰越金206万3,154円

**支出の部** ・給料手当550万円・特退共済金7万2,000円・租税公課150万円・火災保険30万円・通信費80万円・修繕費200万円・光熱費120万円・事業費330万円・会議費25万円・消耗品費15万円・雑費15万円・支払利息6,220円・備品費50万円・借入金返済162万7,000円・予備費50万円・次期繰越金118万6,934円

## 月次会報告 [3月]

### フライフィッシング あれこれ

講師 島崎憲司郎氏

水ぬるむ3月。釣りシーズンの到来です。当月は独創的かつ精緻なフライ(毛ばり)づくりで世界的に知名の島崎憲司郎さんから、フライフィッシングの楽しさをお聴きしました。

昆虫食性の魚族が好むカゲロウやトビゲラに似せてつくる擬餌ばりは、そのみごとさで業界の最高権威とされる「クード賞」を日本人として初めて受賞したほか米国最大のフライメーカー、アンブカ社とライセンス契約を結ぶなど、島崎さんを指してフライフィッシングは語れない。以下要旨。

※

発祥は英国だが、1940年代に米国へ渡ってから急速に普及したポピュラーなスポーツ。日本のフライ人口は推定50万人。つい2～3年前は3万人だった。その理由として増加する余暇利用と、全球的な自然回帰指向が指摘されよう。



限られた魚族資源と釣人との均衡を保つため、釣った魚を再放流する考えが根底にあり。生態系への配慮が優先される極めてエコロジカルな釣法といえる。

フライの素材は、わたや動物の毛。これらを軸長ばりに巻きつけ着色してつくるのだが、どてらのわたでつくったという伝説的な話も。

フライは軽い。鮭釣り用の大型のでも1グラム以下。マス釣り用のドライフライにいたっては、0.1グラム以下でしかない。その軽い毛ばりを目標の水面にいかにも正確に投げうるか。フライフィッシングのだいご味だ。

フライづくりの基本は、餌の昆虫に似せてつくることだが、限りなくプロトに忠実ということではない。光の屈折で魚の目にどう写るのか。魚の方も「学習」するからやがて見破られてしまう。昆虫学者や工学者と組んだ「毛ばりの情報工学」が今後求められる課題といえる。

渡良瀬川の桐生地区は、かつて巨大なヤマメがフライフィッシングで釣れる名川として全国に知られたが、今は逆。愛好者の不評を買っているのは釣り場を管理する漁業組合の姿勢だ。渡良瀬川はアユを主体に、他は認めないという不公平で時代錯誤な方針を崩そうとしない。

渡良瀬川の潜在的な経済価値を参考までにお示ししたい。フライ愛好者50万人が、年に1度、桐生を訪れ5,000円消費したとすると2億5,000万円。それぞれの家族を4人と想定すると年1度の米桐を仮定するなら1人2,500円落とすと50億円という「皮算用」となる。さらに春夏秋冬、季節ごとに一度づつとなれば極めて200億円という、たいへんな経済効果をもたらす。

いま全国の愛好者間で問われている渡良瀬川管理のあり方は、ひるがえって桐生の文化度が問われているともいえる。



〔懇話会〕

坂口安吾 桐生引越し記念日 (兼 安吾忌)

40年前の2月29日、雪まじりの氷雨が降るなかを安吾が桐生へ引越してきた。安吾の命日は2月17日で、この日が安吾忌であるが、閏年の今年だけは引越して来た記念日に、ということになった。29日(土)、安吾を語る会と桐生倶楽部懇話会の共催で、安吾を偲ぶ集いが倶楽部1号室で開かれ40人程の人が参加をした。安吾は当地在住の作家南川潤が友人であった縁で桐生へ来たわけだが、南川潤は桐生倶楽部の理事であったので、倶楽部へも南川潤に案内されて、時折は顔を見せていたそうである。

席上、奈良彰一氏より坂口安吾の文学碑建設計画(水道山と天満宮の二ヶ所)が発表された。



〔当日は市内だけでなく、県内や東京からの参加者もあって、賑やかな集りであった。〕

〔歩く会〕 1月例会

初春 隅田川七福神めぐり

各地にある七福神めぐりの中でも、特に隅田川七福神の歴史は古い。歩く会の初例会は本年度の無病息災・家内安全・商売繁盛を願って、隅田川七福神めぐりとした。

1月12日(日)、8時17分の東武ロマンスカーで浅草駅へ、ここから歩き出して隅田公園を抜けて三囲神社(恵比寿・大国神)。次に弘福寺(布袋尊)長命寺(弁財天)、向島百花園(福祿寺)、百花園は隅田川七福神発祥の地でもある。白鬚神社(寿老神)、多聞寺(毘沙門天)で終了。帰途は鐘ヶ淵駅から浅草駅まで電車で戻り、ロマンスカーで帰桐。

なお、桐生の豪商であり漢詩人でもあった二世佐羽吉右衛門(淡斎)の「黒田三絶の碑」が白鬚神社に残り、百花園にも淡斎の碑がある。



向島百花園

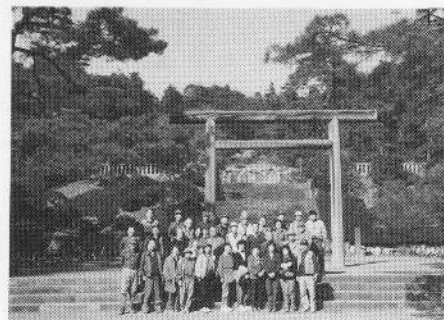
〔歩く会〕 2月例会

高尾山ハイキングと武蔵野陵参拝

2月の例会は9日(日)朝6時、バスで桐俱出発、八王子を經由して高尾山口に到着が9時半、ここからケーブルと徒歩で薬王院・飯繩大権現に参拝して頂上まで。中食をすませてから2時間歩いて下山。帰途は八王子市に所在する武蔵陵墓地を参拝する。武蔵陵墓地の中に、大正天皇の多摩陵、貞明皇后の多摩東陵。昭和天皇の武蔵野陵がある。倶楽部帰着は5時半。

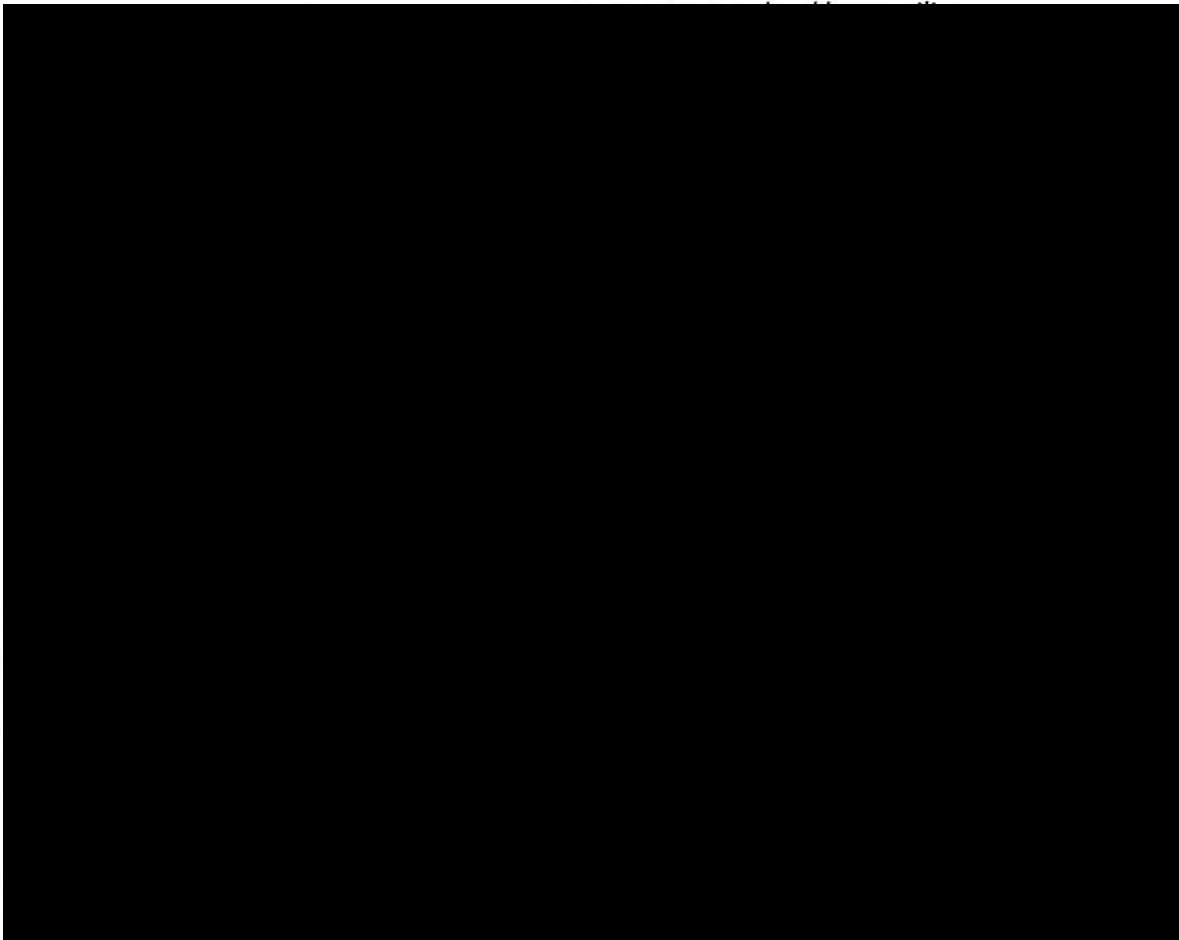


高尾山山門



昭和天皇の武蔵野陵





桐生俱樂部 一月句会

初大師素足の赤き修行僧  
 滴りのつららとなりて止りたる  
 羽子板の女形の艶のある目元  
 再検に行く妻送る今朝の冷え  
 羽子板のきず懐かしき里の家  
 うす墨の空にひしめく小雪かな  
 合格を絵馬に託して初詣  
 湯のたぎる茶室に一枝寒椿  
 年輪を背にそれぞれの初詣  
 御手洗の杓新しや初詣  
 篝火にしぼし影浮く初詣  
 雲垂れて蕊の太さや寒椿

桐生俱樂部 二月句会

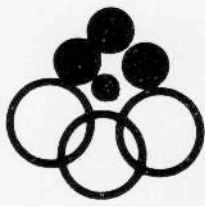
寄宿舎に織子一人や冴返る  
 盆梅を部屋に咲かせて老いにけり  
 木戸開けて出入自由の梅の園  
 下萌えぬ石組崩る城の跡  
 ひと言の追伸のあり梅だより  
 いつの間にもこもかしこも下萌えし  
 二三輪咲き初めし梅園に浮く  
 風花を肩に遊ばせ六地藏  
 日だまりの梅一枝の咲き初めり  
 春浅し酒倉の窓まだ固く  
 梅の香に教えられたる温かさ  
 通夜の燈が揺れて今宵は冴え返る  
 蒼空に幾何模様張る梅の枝

小池 遠藤 久保田 倉林 大槻 吉成 本田 森田 遠藤 森山 大槻 尾水 清川 北川 吉成 廣瀬

小池 遠藤 久保田 倉林 大槻 吉成 本田 森田 遠藤 森山 大槻 尾水 清川 北川 吉成 廣瀬

退社社員 (敬称略)  
 桐生中央信用金庫  
 坂本嘉男

社団法人 桐生俱樂部会報 第68号  
 1992年(平成4年) 4月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 小池久雄  
 印刷 ツポノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 20

### 根本山信仰と井伊大老

根本山は標高 1,199cm、桐生市の最高峰であり、桐生川の流れ出る山である。そして何よりも信仰の山である。梅田町5丁目上藤生の不死熊橋の登山口から、桐生川源流沿いに登る沢コースが、根本神社奥宮への参詣道であった。今でも、丁石・石祠・御神燈・鉄梯子・鉄鎖が残り、根本山信仰の盛んであった昔をしのばせる。

根本山神社は天正元年(1573年)の創建と伝えられるが、その隆盛期は江戸末期で、関東一円はもとより、東北地方から遠くは蝦夷地まで信者を集めたという。

根本信仰が盛んになった理由の一つに、根本山が彦根藩井伊侯の別領にあり、井伊掃部頭が大老職についたことがある。更に、根本の天狗伝説。根本の黒兵衛天狗が、文化年間の江戸麹町失火の時、彦根藩邸を火より救った話(渡辺華山の毛武



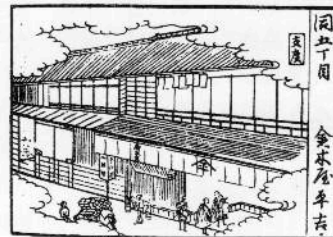
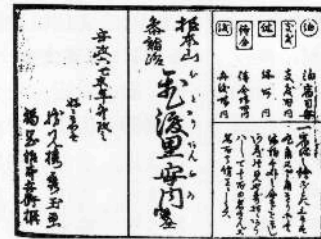
現在の根本山神社

遊記の中にある)などもあり、江戸町民で根本参詣する者が多かったようである。

安政6年には「根本山参詣飛渡里(ひとり)案内」というガイドブックまで出版されている。この中には、江戸から根本山に至る宿場から宿場への里程、宿屋・休所などが絵入りで詳しく記載されている。(桐生の五丁目金木屋平吉などの名前も出ている)

根本山神社の里宮は梅田5丁目にあったが、ダム(梅田湖)建設のため移転し、今は梅田1丁目桐生城跡への入り口にある。小さい社殿だが古い歴史を語る御神燈・狛犬・大絵馬などもある。

根本山頂の奥宮は椴皮葺・唐破風、方一間の精巧な彫刻のある社殿で、鞘堂がつき、可成り傷んではいるものの今も残っている。



飛渡里案内(ひとりあない)

## ＝ 倶楽部 だ よ り ＝

### ◎4月

- 理事会(9日)
- 音楽会(9日)
- 行事委員会(20日)
- 月次会(21日)「知っていますか…足尾ガイア計画」講師 松田俊治先生
- 歩く会世話人会(27日)

### 写真部会(29日)

### ◎5月

- 理事会(7日)
- 写真部会(11日)
- 歩く会世話人会(15日)
- 会報委員会(21日)
- 俳句会(25日)



### 第18回桐生倶楽部文化祭

恒例の文化祭は、4月23日の俳句会にはじまり、5月17日のガーデンパーティーまで、各部会が下記のような行事を開催した。

#### 文化祭協賛行事及催物一覧

俳句会	4月23日 PM7:00~	於 2号室	
囲碁大会	4月26日 AM10:00~	於 6号室	
将棋大会	5月2日 PM4:00~	於 6号室	
ゴルフ大会	5月8日 AM9:30~	於 桐生CC	AM10:00スタート
歩く会	5月10日 AM6:00~	桐生倶楽部集合	五月晴れの上信国境 鼻曲山と霧積温泉
麻雀大会	5月11日 PM6:00~	於 K M	本町3丁目
絵画展	5月15日~5月17日 AM10:00~PM5:00	於 広間	
写真展	5月15日~5月17日 AM10:00~PM5:00	於 広間	
陶器展	5月15日~5月17日 AM10:00~PM5:00	於 広間	
俳句色紙展	5月15日~5月17日 AM10:00~PM5:00	於 広間	
ビデオ観賞会	5月17日 PM1:00~PM4:00	於 ロビー	
ガーデンパーティー	5月17日 PM4:00~	於 庭園	

#### 各種大会入賞者

##### 4/26 囲碁大会

- 優勝 福永 儀一
- 準優勝 野田友治郎
- 第1位 金谷 利男
- 第2位 岡田 光弘
- 第3位 金井 利雄

##### 5/2 将棋大会

- 第1位 木村 俊一
- 第2位 小山 利雄
- 第3位 平野平四郎

##### 5/8 ゴルフ大会

- 傷勝 金井 利雄
- 準優勝 上野 武男
- 第3位 福島 昭吉
- 第5位 森田 良徳
- 第10位 五十嵐健雄

##### 第15位 坪野 恵治

- B・B 吉田 博次
- 当日賞 朝倉 泰
- N P 福島 昭吉
- 〃 金井 利雄
- 〃 北村 貞美
- B V 森田 良徳

##### 5/11 麻雀大会

- 優勝 岩田 俊光
- 準優勝 飯山 清治
- 第3位 金井 利雄
- 第4位 北川 洋
- 第5位 高木 静子
- 第10位 小林 宏至
- 第15位 蓮沼 源一

#### 写真部会入賞者(来会者の人気投票による)

順位	氏名	画題
1.	塚 越 平 人	飛弾高山
2.	小 池 久 雄	みちのくの女
3.	藤 井 龍 人	中之條シシ舞
4.	小 堀 隆	大清水
5.	新 井 友 次	矢切の渡し
6.	五十嵐 健 雄	日光白根
7.	江 原 満	コウシン草
8.	須 賀 武 次	池 塘
9.	尾 沢 弘 一	冬枯れ
10.	後 藤 久 雄	ブナ林



桐俱. メンバーの作品の数々



ガーデンパーティー



ガーデンパーティーアトラクション  
黒沢社員夫人とご友人による  
ピアノ連弾

### 春の褒章・叙勲・大臣表彰

#### 桐生社員から4人の受彰者

桐生倶楽部社員の中で、春の国家褒賞、叙勲の受彰者、および最近の大臣表彰の受彰者は下記の方々です。社員一同心からお祝いを申し上げます。なお、受彰者は秋に予定される受彰者ともども、平成5年1月の桐生倶楽部互礼会の席上、銀盃をお贈りすることになります。

- 藍綬褒章(産業振興功績) 小倉 一郎氏
- 勲四等瑞宝章(更生保護功勞) 田島常次郎氏
- 勲五等瑞宝章(産業振興功勞) 岡田 光弘氏
- 郵政大臣表彰 藤江 敏雄氏



## 写真部会撮影紀行

大清水の水芭蕉を訪ねて



水芭蕉

写真部が再発足して一年が経過しました。

写真を通して、自然と親しみ、社員相互の親睦をはかりたいと活動を始めました。

昨年度は、5月26日、水上谷川岳方面（参加者6名）、9月8日、日光小田代ヶ原（参加者8名）に撮影紀行を行いました。

今年度は4月29日に大清水の水芭蕉へ撮影紀行を行いました。朝6時桐生倶楽部を出発、約2時間で尾瀬沼の登山口、大清水に着きました。前日に道路が開通したばかりで、残雪に混ざって蔭のとうが顔を出して居り、山菜取りも楽しめました。

折りから、やっと登った朝日が純白の水芭蕉を浮べる、せせらぎを照らし始め、時間の経つのも忘れてシャッターを切りました。

昼近くに片品の千木良牧場に参りました。東に残雪の日光白根、西に上州武尊が一眺出来て、水仙やタンポポが咲き乱れる草原にての、お弁当は楽しい思い出の一時となりました。



千木良牧場

帰りに残雪の中に神秘的な藍をたたえる管沼にて撮影し帰路につきました。桐生着午後5時、楽しい一日でした。（参加者男7、女8、計15名）

今年も孀恋のキャベツ畑、物見山と神津牧場等あまり歩かずに自然に親める所を計画して居ります、ご家族で参加をお待ちして居ります。

森口二郎記

## 月次会報告

【4月】

### 知っていますか？ 足尾ガイア計画

講師 群馬大学工学部名誉教授

松田俊治先生



4月の月次会は、昨年桐生市議会に於て反対決議された足尾ガイア計画について、水質問題研究の第一人者である松田俊治先生にお話しをいただいた。今例会は公開例会としたため、社員以外の一般市民や渡良瀬川流域各地からの参加者もあり約120名が聴講した。以下はその要旨。

ガイア足尾計画は大成建設をはじめとする大手建設会社27社が参画した計画で、首都圏の産業廃棄物の処理場を足尾松木沢に作るというもの。松木沢5百ヘクタールに年間千トン、45年で4億5千万トン埋めたとする。これは日本最大規模の内陸処理施設となる。最新の技術と施設で渡良瀬の水を絶対汚染させるようなことはない、と云っているが建設会社の営利を第一に考えた計画であり、現在の技術で絶対安全などということはない。

大学の研究室から出る水処理でさえ、私は3回も失敗している。45年で埋め立てたあとに何が出てくるかわからない。特に足尾は鉍毒百年の歴史を持つ場所で、水汚染の原点であり、桐生市民の生命の水が脅かされることになる。45年後に、我らのジジババは何をやっていたんだと言われないう、慎重に対応しなければならない。

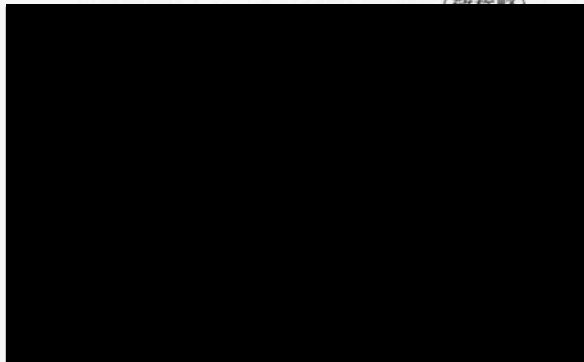
※最近のニュースでは、足尾町長、足尾町議会もガイア足尾計画に反対を表明、建設の許認可権を持つ渡辺文雄栃木県知事も明確に反対を表明したとのことである。

しかし、これで絶対安心はできない。これから厳しくこの計画の推移を見守る必要がある。



◆ 新 入 社 員 紹 介 ◆

(敬称略)



桐生倶楽部室内楽の夕

音楽鑑賞部会では、昨年10月の演奏会で大変好評であった高崎六重奏団の再演を4月9日に行いました。バッハ・ベートーベン・ハイドン等の名曲を聞き、休憩時間は庭の夜桜を見ながらワインをいただくなど、大変楽しい春の夕でした。

傘たたむ手に滴りぬ春の雨  
鳥曇畑仕事も始まりし  
春雨の傘をたたみて相撲茶屋  
一羽翔ちやがて一斉鳥帰る  
春雨や瓦の彩のさまさまに  
春雨や瓦の彩のさまさまに  
たんぽぽの庭に小猫の鈴の音  
たんぽぽのしがみつきたる谷の庵  
たんぽぽに白き乳あり亡母三とせ  
春雨やせせらぐ川の音細し  
聳え立つ杉の梢や鳥帰る

倉 林 久保田 遠藤 本田 小池 森 大瀬 清水 吉成

桐生倶楽部 三月句会

春昼や機織る音の休みなく  
雲母なる川遠くなり花の坂  
水底に陽の影ゆれて蝌蚪群るる  
美術展見残して出る春の昼  
春雷のひびきし棚に達磨かな  
潮滴ちて船浮き始む春の昼  
黒布と見れば蝌蚪なり水の面

小池 尾沢 本田 久保田 大槻 倉林 広瀬

桐生倶楽部 四月句会

【歩く会】 3月例会

マンサクの花咲く仙人岳

早春、雑木林に春を告げる黄色い花、マンサクが咲く仙人岳へ登る。桐俱からハイヤーに分乗して白葉峠を經由して、生満（なま）不動へ。ここから歩き出して仙人岳山頂で中食。前仙人・仙人窟と途中のマンサクの花を楽しみながら下山、浅部局前からバスで戻る。



途中、こんな水車もあった。

【歩く会】 5月例会

新緑の鼻曲山から霧積温泉

5月の例会は文化祭行事の一つとして、群馬と長野の県境の山、鼻曲山に登った。好天にめぐまれ新緑とつつじの美しさに圧倒されるようであった。帰途、霧積温泉でひと風呂浴びる。

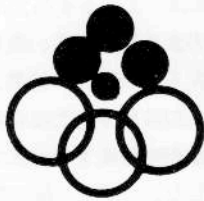


鼻 曲 山 頂



霧 積 温 泉

社団法人 桐生倶楽部会報 第69号  
1992年(平成4年) 6月発行  
発行人 塚越平人  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人  
**桐生倶楽部会報**

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

〔桐生のあゆみ〕

No 21

横浜開港と

生糸輸出禁止運動

嘉永6年(1853年)6月3日、米船4隻の浦賀来航は民心の動揺を起し、世間一般は不景気となった。なかでも桐生は近在機業(特に足利)の発達、天保禁奢令の打撃によって斜陽期にあったため、その不況は厳しいものがあった。

更にその不況に追い討ちをかけるような事件が起った。織物の原料となる生糸の暴騰である。

安政5年(1858年)6月19日、五国通商仮条約の締結により生糸の輸出が許可された結果、生糸の価格は暴騰し、数ヶ月も経ない7月には2倍になってしまった。不況つづきの桐生織物業界にとって、生糸価格の暴騰は深刻な問題であった。

そのため桐生領54ヶ村の中、35ヶ村中の総代が立って生糸輸出禁止の願書を、勘定奉行塚越大蔵少輔に提出し、絹買織屋一同は江戸呉服問屋行事にこの運動の援助を依頼、問屋行事は奉行所に歎願書を提出した。しかしこのような願書は握りつぶされ、その間も糸価は騰りつづけ、ついには3倍の高値となってしまった。

ここに至って、桐生領35ヶ村の総代2名は死を覚悟して幕府の重臣に駕籠訴を執行した。

安政6年11月9日、四つ時(午前10時)、桐生新町組頭古木四郎兵衛は、江戸外桜田松平対馬守門前において大老井伊掃部頭直弼へ、如来堂村津

久井儀右衛門は西御丸下手下馬先において、老中間部下総守に駕籠訴を敢行したのである。

当時駕籠訴は法度(はつと)破りとして重刑に処せられる所であったが、この兩人は一時受縛の憂目をみただけで、そのまま各領主にお預けとなり、その後格別の処分も受けず釈放されたのは幸いであった。しかし生糸輸出禁止は国際条約にかかわることで、幕府としてでき得ることではなかった。

桐生織物数百年の歴史の中に、このような義人がいたことは忘れてはならないことであろう。



古木四郎兵衛 死を決して  
井伊大老に駕籠訴の図  
(田村春莊画)

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎6月

歩く会(7日) 「つつじ、石楠花の前袈裟丸山」

理事会(8日)

月次会(20日) 「桐生のまちと自然」

講師 マイケルブラストウ先生

俳句会(25日)

◎7月

理事会(9日)

歩く会世話人会(13日)

会報委員会(17日)

月次会(22日) 「桐生地方…古代のハイテク」

講師 桐生市教育委員会

伊藤 晋 祐 先生

俳句会(23日)

歩く会(25日) 「お花畑と修験信仰の早池峰山」



## 月次会報告

【6月】

桐生のまちと  
自然

マイケル・プラストウ氏



NHK ラジオジャパンの英語番組を担当しておなじみのマイケル・プラストウさんをお招きしての6月月次会は20日夜、倶楽部2階広間で開かれました。

プラストウさんは、ケンブリッジ大学卒業後、10年ほど前に来日、桐生高校で英語を指導するかたわら群馬大学工学部の非常勤講師をつとめ、地元紙の桐生タイムス紙上に「マイキリュウ」の英文随筆を連載したこともあります。

桐生地方に格別の愛着を抱くマイケルさんは、当時、桐生の自然や日光、足尾、渡良瀬川沿いの山々に深い興味をもって山野を跋涉、その豊富な体験をもとに最近、ハイコースや、土地の歴史風俗を紹介する本を出版しました。

当夜は、まず桐生の自然を箱根、秩父、房総などと比較して「東京に近いところで、こんなに豊かな自然のあるところは他にない。桐生の魅力は自然であり、東京とまったく違うところにこそあるんですよ」と指摘しました。

続けて、地球と環境、環境問題に対する人間の役割りについて触れ「いま地球規模で環境保護の重要性が求められ、叫ばれているのに「狂っているほど、の保守的な政策で、それが無いがしろにされつつある。環境が守られない限り、経済成長そのものに限界がくるだろう。開発が進みすぎると、結果として「生活水準、が墮ちる」と、東京の一局集中を例にあげて自然と開発の調和の緊急

性を訴えました。

また、熱帯林の乱伐がこのまま続くなら、生態系の変化から地球の気候が変わる。干ばつの結果、農業基盤が崩れて大規模な人口移動が起こるだろう。これは大きな戦争につながる危険をはらんでいる」などと話をすすめました。

また、桐生でいま話題となっている菱町のゴルフ場問題、ガイア足尾計画などについても触れました。

「桐生のみなさんが、自然を考えるようになったのはゴルフ場がきっかけ。わたしもゴルフが好きで子供のころからよくやっていたが、ゴルフ場は一方的な破壊です。反対するほうが正しいと思う。ガイア計画はもっと難しい。ふえ続けるゴミだが、どこかに捨てなくてはならないから」

さらに学校教育にまで話をすすめて「21世紀に向けて桐生の自然の大切さが本当にかかるのは子供たちです。ただ、自然の大切さを教えるだけでなく、人間社会から見たもの、そして政治的な問題も一緒に教え、子供たちに全体を見て判断させる能力を養うことがたいせつでしょう」と、学校教育に環境問題をとり入れる必要性を説いておりました。

最後に「人は地球規模のような大きな問題は、自分のものとして、なかなか考えられない。そのためには、身近な問題から考えてゆくことが重要で、自分のまちの環境のだいたいさが分かってはじめて「熱帯林の木を使わない、考えに思っているはず。まず、このまちからスタート！」とまとめました。

【7月】

桐生地方…  
古代のハイテク

桐生市教委文化財保護係長

伊藤晋祐氏

7月月次会は、標題のテーマで22日夜、ひらかれました。講師は桐生市教育委員会の伊藤晋祐文化財保護係長。伊藤さんには、先般も桐生まつりと八坂神社の由来についてお話を伺ったことがあって、今回は2度目。

上小友、熊の沢の両遺跡を中心に、スライドか



出土品をまじえて解説、古代桐生の先端性の一端を語っていただき感銘を深めました。

桐生には22ヵ所もの製鉄遺跡が存在している。関東地方 101ヵ所の製鉄遺跡のうち40ヵ所が本県に集中し、その過半数が桐生市内にあることは特筆に値します。

鉄をつくっていた町、ということは今の言葉でいえばハイテクの町。このことは砂鉄から鉄をつくったり、鍛造したりするのは、むかしは高度な技術だったことを意味するんです。

鉄に関する桐生の遺跡のうち、菱町の白葉峠の下の上小友遺跡は8世紀末から9～10世紀ごろ。同じく菱町の泉竜院の奥の熊の沢遺跡は9～10世紀ごろのものともみられる。鉄づくりが全国的に広がったのは8世紀末から9世紀ごろといわれており、これに合致します。

そのころは、国が鉄を税金として吸いあげ、国が鉄を管理していた。当時の蝦夷政策ともからんで、鉄を武器として使っていた。つまり桐生は、東北の蝦夷戦線用に、武器調達の frontline 基地の役割りを果たしていた、とも考えられます。

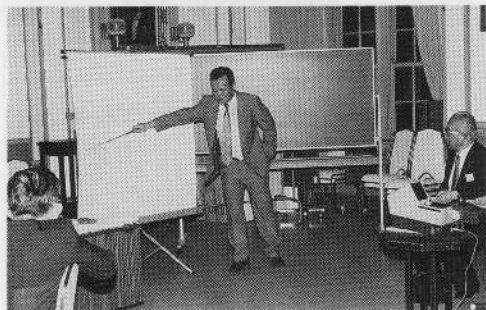
- ①粘土
- ②炭
- ③砂鉄

の製鉄三条件が菱に揃っていたからです。

鉄の町・桐生、の特色は、原料産出から素材、製品まで一貫生産したこと。砂鉄から鉄をつくり、刀、やじりなどの製品にまで仕上げたのです。

縄文時代の耳飾りといい、どれも技術の高さをうかがわせるものです。

こうした古代遺跡から、織物や近代化遺産といった「ハイテク」に連続とつながってきたと申せましょう。



## 〔歩く会〕 6月例会 つつじ・石楠花の前袈裟丸山

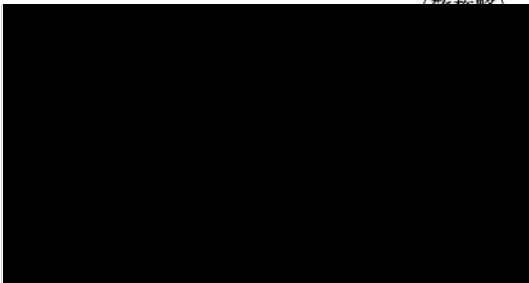
6月7日、午前5時半桐集集合、参加者の自家用車に分乗して、袈裟丸山の登山口まで。サイの河原・小丸山を経て、前袈裟丸山の頂上へひる頃に到着。残念ながら雨に降られましたが、全員完全装備で参加したので、特に支障もなく予定通り歩きました。雨に濡れた石楠花は見事でした。





◇ 新 入 社 員 紹 介 ◇

(敬称略)



永田社員に文部大臣表彰

社員の永田泰之助先生は、このほど学校医としての長年の功績が認められ、文部大臣表彰を受けられました。社員一同心からお祝いを申し上げます。

銀の道初夏の温泉津の海に果つ  
釣り竿の一振り光り溪新樹  
藍染めの匂ひたちこむ薄暑かな  
高圧線彼方に続く麦の秋  
傘影にほのかに紅の牡丹かな  
ばきばきと新樹刈込む老庭師  
すみぞめの僧帰り入る夕牡丹  
朱の橋を渡り新樹の社まで  
十葉の闇奥までは照し得ず

桐生倶楽部

五月句会

倉林 久保田 小池 大槻 森 本田 清水 広瀬 尾沢

友禅の流れや昔鮎を釣る  
夏野にも轍のありて水たまり  
開発という美名あり夏野消ゆ  
さみだれや緋鯉にゆれる白水蓮  
石佛の道岐れ行く夏野かな  
五月雨の音ばかりなり一人酒  
禰宜のふる御幣真白し夏野かな  
息吹きする夏野を刻む万歩計  
照りつけし夏野の草の匂ひけり  
塩焼の鮎ほのがくあお臭く

桐生倶楽部

六月句会

倉林 本田 小池 吉成 久保田 森 清水 広瀬 大槻 北川

「囲碁部会だより」  
初心者もどうぞ!!

「このところ暑いですなあ。」パチリ、「生ビールのおいしい季節ですね。」パチリ、「弱ったなあ。」「弱った魚は眼でわかる。」パチリ、土曜日の午後、桐生倶楽部2号室の風景です。「倶楽部も一服する時手近の棚に各自のボトルでもあつて冷えた水割でも飲めるといいですなあ。」好きな太平楽を言いながら鳥鷲を戦わす会員の面々です。

最近、平均寿命が延びて老後の暮し方について早くからいろいろと考えるようになったようです。

囲碁は楽しみも万点、又精神衛生の点からもボケ防止予防のためにも最良のものの一つらしい。

現在、囲碁部会では毎週土曜日の午後2時頃から2号室で集りを持っています。

大会は年に三回、特に文化祭協賛の大会は大きな持ち回りのトロフィー、賞品つきで成績優秀者は文化祭ガーデンパーティの席上表彰されます。

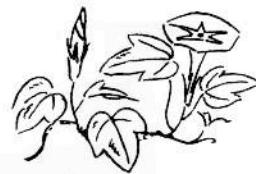
毎週土曜日の午後二時頃から集っている常連メンバーは島勝二さん、岡田光弘さん、野田友治郎さん、福永儀一さん、広瀬進さん、吉成敏郎さん(順不同、腕前の順ではありません) その他にも時々顔を出して下さる会員が何人かおられます。

是非、囲碁部会のメンバーも又その他の会員の方でもおひまの時に顔を出して下さい。

自称、田舎初段位の方大歓迎、初心者の方もどうぞお出掛け下さい。

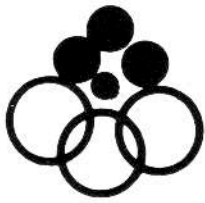
楽しく碁を打ちましょう。

{お問合せは野田(44-5167) 吉成(22-6657)まで}



社団法人 桐生倶楽部会報 第69号  
1992年(平成4年) 8月発行

発行人 塚越平人  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 22

### 松山藩時代の 桐生新町

桐生地方の支配は、天正18年（1595年）より寛文元年（1661年）までの71年間は天領、以後天和2年（1682年）までの21年間は大名領（館林藩）、それ以降は一部天領、残りは旗本の分給領であった。ただし、桐生新町のみ江戸時代後期90年間（安永8年より幕末まで）は、松山藩酒井家の領地であった。

松山藩は山形県の北西部庄内平野の東部にあった。庄内藩14万石の支藩で2万石である。3代藩主酒井忠休が20数年間、幕府の重要な閣僚を勤めた功績で、上州5千石が増加される。その中に桐生新町があったわけである。

松山藩は桐生新町をうまく支配したようである。桐生新町の陣屋には、当時2名の下士を置くのみで、町民は何の制約もなく自由に経済活動ができた。織物業も繁栄した。その代り、松山藩は御用金（平常の年貢外のもの）という形で、新町の豊かな経済力を利用した。

「近世桐生夜話（木本政雄著）」によると、文化3年の江戸大火で酒井候江戸屋敷類焼の時の御用金は、佐羽清右衛門550両、玉上甚左衛門450両をはじめ大口だけでも10人、2千両にのぼる。安

政の地震の時に千5百両、嘉永3年には御勝手向不如意というので5千7百両などである。しかし、総じて桐生新町の人達は、松山藩に対して好意をもっていたようである。

明治維新、廃藩置県の際、新政府側によって御陣屋役人が浄運寺に軟禁された。その時、新町惣百姓から新政府側に差出された嘆願書は、陣屋役人の身辺を案じ、領主を思う領民の真情が溢れ、一読胸の熱くなるものがあつたと聞く。その嘆願の効あつてか、御陣屋役人は許されて、無事に奥州松山へ帰ることができたという。



松山城大手門

（寛政4年再建）

武者行列（毎年5月1日）

## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

### ◎ 8 月

- 歩く会世話人会（3日）
- 理事会（10日）
- 写真部会（24日）
- 俳句会（27日）
- 歩く会世話人会（31日）

### ◎ 9 月

- 理事会（10日）
- 月次会（13日）歩く会担当  
「信州の鎌倉、塩田平初秋の旅」
- 会報委員会（16日）
- 写真部会（24日）
- 俳句会（25日）



## 月次会報告 [9月]

歩く会担当

### 「信濃路の旅」 塚越平人

当日は早朝六時出発とのことで前日五時半にタクシーを予約した。四時半起床、家内自慢?のにぎり飯を持参して桐生倶楽部へ。天候も丁度よい位。到着して驚いたことには五時半というのに大部分集まってバスを待って居られた。皆さんが楽しみにしていた証左をまざまざと見せてもらった感がした。木島さんを初め村田さん、後藤さん、藤井さん等の歩く会のメンバーの周到な準備と呼び掛けが功を奏したわけで、定刻五分前に全員乗車、出発。

一路国道五十号から十八号を経て長野県へ向けて快走。日曜日のこととて車、特にトラックが少なく、予定より早く峠の釜飯で有名なモータープールへ到着、十五分休憩の後、碓氷峠を越えて上田へ。上田の手前、旧宿場の屋並を残す「海野宿」で十五分休憩。集合写真を撮り、続く予定地「生島足島神社」へ向かう。ここも古い歴史を有し、この付近の住民の崇敬的であり、朱を新しく塗り替えた壮麗な社屋。有志数名、屋根葺用の銅板を一枚千円にて寄進して旅の無事を祈る。

続いておしのぎが準備されている「前山寺（真言宗）」で三重塔を拝観した後、丸型のくるみおはぎ二個、ご馳走になる。お腹もすき加減であり、下地のくるみが何とも言えぬ味付けで誠に美味であった。退出する時にパラパラと小雨が落ちて来たがそうたいしたことはなさそう。

砂利道を少し下った所に手造りの美術館（信濃デッサン館）があり、見学に立ち寄った。館長の窪島誠一郎さんから約十分、講話を聞く。明治、大正の若い画家たちは、一生懸命芸術を通じて世に問うたが、若くして結核のため命を落とした人も多く、甚だ残念であったというお話であった。桐生にも時々お見えになる由で再会を約して、窪島氏の著書「わが愛する夭折の画家たち」という小冊子に署名をしていただき、持ち帰る。

美術館を出る頃には雨は上がっていた。小高い所から足下に塩田平が一望の下に見渡せる。曇日の中、バスは昼食場の「龍光院」へ。狭い昔ながらの道を林檎園に沿って進行する。バスが大きい

ので、直角の途は曲がり切れず、前進後退を繰り返して漸く到着、精進料理を賞味する。この際、同行メンバー中の新婚さん二名が紹介された。佐藤好雄君夫人恵利子さん（H3、11月）、前原勝君夫人悦子さん（H4、5月）である。全員祝福の拍手。昼食をゆっくりとってから三三五々バスへ。

これから別所温泉へ参入するわけだが、バスは温泉郷へ入れず手前の駐車場へ。徒歩にて一同先づ「常楽寺」へ。そこから山裾の小径を散策しながら「安楽寺」へ。杉小立におおわれた長い石段を登り終えると造形美を誇る安楽寺が眼前に姿を表す。「絶景かな」と木島氏。集団写真を撮ってから寺に詣で続いて裏山の国宝「八角三重塔」を拝観した。つづら折りの石段を登る参詣人は割合多く、老若男女、善男善女が喘ぎながら登る。登り終わると三重塔である。写真を撮る者に言わせると立派な塔を撮るには周りが狭すぎる。ともあれ何度見てもバランスのとれた優雅な塔は誠に国宝たるに相応しい。

塔を後にして左手に蓮池を見る小径を下り、別所温泉郷を横断して「北向観音」へ参詣。長野の善光寺は南向きで、死後の幸福を授かるというが、北向観音は慈覚大師の造営になり、こちらは生前に安楽が得られるとして庶民の信仰的である。生前死後共に安楽をと欲張りながら駐車場迄温泉街の坂道を下る。

この時分になって薄日が射ってきて、心地好い。道端の牛乳屋の看板が日に入り、牛乳ありますかと店の方に尋ねると、昼寝中だった主人は「直ぐ飲むのかね」と大きな冷蔵庫から冷えた牛乳壺を出して呉れた。ごくごく飲んだら甚だ美味で信濃の味と香りがした。

最後の行程は予定になかった「大法寺の見返りの塔」見学。一度、国道一四三号に出て松本方面（青木峠）へバスを進めること約十分、国宝「見返りの塔」に参る。駐車場より約三百メートル真直ぐの参道は登り坂。登り切った所にある見返りの塔は、その美しさ故に参詣の人々が見返り見返りしながら別れを惜しむ塔。つつましく、しかも美しくたずんでいた。しばしの間、一同別れを惜しみながら退出した後、バスに乗り込み、帰路は鳥井峠を越え長野原を経て午後九時楽しい旅を卒え、無事桐生倶楽部へ到着。次回を約して解散した。





(海野宿にて)



(信濃デッサン館 館長と共に)

## 〔歩く会〕 7月例会 神々の遊ぶ花園 早池峰紀行

桐生から8時間余の長駆とは思えぬバスの旅は、予定通り3時半に早池峰山の登山基地河原坊へ着く。夏の夜は明け易く、仮眠をとる暇もなく白み始める。歩く予定でいた小田越までバスが入り大いに助かる。登山準備をし、霧に覆われた早池峰山と木の大鳥居を背景に記念撮影をして、午前5時5分出発。

針葉樹林下の二列に敷かれた木道から溝状の軽い登りとなり、岩が増すと共に傾斜も増す。木の丈が低くなると間もなく森林限界を抜ける。這松や石南花の低木帯に変わり、遮るものない岩礫地の一合目である。風が強く近くを雲が走り、真夏というのに長袖のシャツをまくれぬ程の涼しさである。いくらか登らぬのに、足元には貧弱ながら早くも早池峰薄雪草が現われ、深山吾妻菊・深山オダマキや南部唐打草と次々に高山植物の種類も数も増してゆく。千両箱と呼ばれる五合目は、名の通り百花繚乱の花園である。次は何の花に逢え

るかとの楽しみに登りの疲れを忘れさせて呉れる。竜ヶ馬場の巨岩巒々の地帯を過ぎ、登路唯一の難所を二本の梯子で登り切れば、一息で山頂からの平尾根の田代平に出る。神々の遊ぶ楽園、早池峰の名ゆかりの、池の名残りの窪地には木道が敷かれ、鮮やかな紅紫色の四葉塩釜が先ず目を奪う。稚児車の純白、鮮黄の黄花駒ノ爪、可憐な青ノ梅桜、大型の小梅ケイ草、色とりどりに群落が移る。強風の霧の中を登って来たのが嘘のように静かで、頭上には群青の青空が広がる。陽も注ぐが2千メートルの山上は爽かである。巨岩の重なる間を縫い、早池峰神社奥宮と一等三角点が隣する山頂へ。まだ7時半少し過ぎ、360度の展望は雲海に埋め尽され、僅かな雲の波状の動きと、上を行く雲の影ばかりで、さながら絶海の孤島に立つ趣きであるが、多くの人の賑わいは、静かな山頂の感慨を許さない。朝食とも昼食ともつかぬ食事をして、8時半山頂を辞す。

下山路は登りよりもっと足場の悪いガレ道だが、岩の間を埋め尽す花は相変ず多い。よく観察すれば珍しい深山曙草や虫取り葎の湿性植物さえ見出せる。一本に続く道は、上り下りの人の列が遥か下まで見える。水音が聞こえコウベゴウリの水場に近づくとよいよ花ともお別れである。まだ続く河原坊のコメツガモリ沢沿いの道は永く感じられ、河原坊には11時到着。振り仰ぐ早池峰山は遂に姿を現わさなかった。(藤井龍人記)

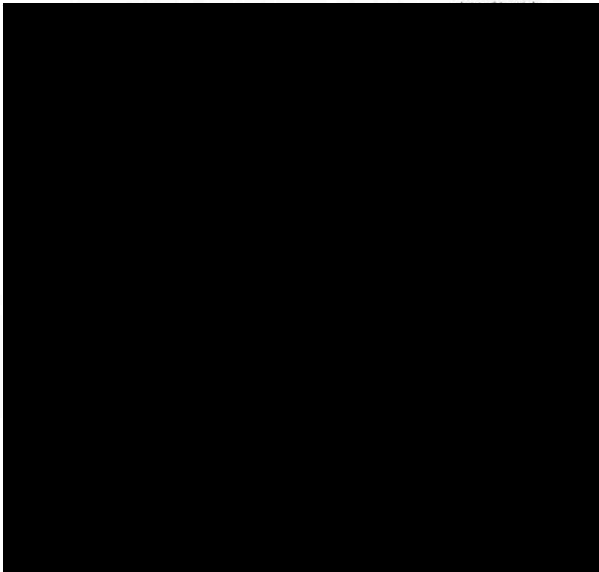


早池峰国定公園にて





◆ 新 入 社 員 紹 介 ◆



メラになります。社員の皆さんも、ほとんど一眼レフカメラをお持ちと思いますが、最近のカメラの形式は『モーター内蔵35mm一眼レフレックス、電子制御フォーカスプレインシャッター、オートフォーカス、カメラ』と云います。これだけでは何を意味しているのか、さっぱり判りませんが、露出はカメラが自動的に明るさを測り、絞りとシャッタースピードをセットし、距離も自動的にセンサーが働いてセットして、被写体にカメラを向けて、シャッターを押すだけで写りますが、機能があまりにも多すぎて、使い方が判らず困っている人がほとんどですので「写真のテクニック及びカメラのメカに強くなる」と云う勉強会を開きました。

8月24日に桐生倶楽部社員のアサヒ堂さんをお願いして、カメラ部の責任者で、シルバーフォートクラブの会員である藤沼氏をお招きして勉強会を行いました。社員の熱心な質問にたいねいに教えていただき、時間の経つのも忘れて、気がついたら9時を大分過ぎていたので、後日を約して、解散しました。此の時に毎月例会を開く事を決めました。(出席者10名)



9月24日はお互いの最近の作品を持ち寄り、雑談をしながら勉強会となりました。有志で10月始めに草津白根山に朝日の写真を撮しに出かける事や、春の文化祭だけではなく、秋にも写真展をやりたい、と云う話も出ました。(出席8名)

第33回桐生地区勤労者美術展の写真の部に桐生倶楽部社員の後藤久夫氏の「ワタスゲ」と私の「めんどり」が入賞した事を御報告致します。

森口記

桐 生 倶 楽 部 七 月 旬 会

梅雨明け鎌研ぐ水の赤き色  
 梅雨の路地一気に猫の馳けぬけし  
 暗がりにあいさつ返す端居かな  
 こだわりの解けぬ宿題端居なる  
 梅雨明けや草に隠れし煉瓦塀  
 暮仇を待つ一時の端居かな  
 梅雨の田を巡る農夫の歩は老いて  
 潮騒の六角堂の端居かな  
 手を合わす喪服の女(ひと)や合歡の花  
 のぼり切りせわしく飛び天虫

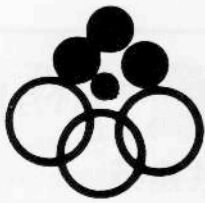
大 槻	吉 成	遠 藤	倉 林	清 水	小 池	本 田	尾 沢	広 瀬	森
久方の稲妻遠く山写し	七夕の天井低き駅舎かな	稲妻に壁のようなる檜穂高	ひぐらしの唳となりし家路かな	蝸の途切れて近し滝の音	稲妻の北に走りて大赤城	稲妻に襟もと眩し踊りの輪	鳥賊釣りの灯暗天の星となり	一筋の道稲妻の照らしけり	蝸の大神木の動かさる
北 川	小 池	本 田	広 瀬	尾 沢	吉 成	倉 林	久 保 田	清 水	遠 藤

桐 生 倶 楽 部 八 月 旬 会

「 写 真 部 会 の 近 況 」

最近の35mmカメラには、使い捨てカメラや、(馬鹿チョン)カメラでも、ほとんど失敗なく、良い写真が出来ますが、記念写真だけではなく、花や風景、人物等を記録に残したり、楽しい思い出を大きく伸ばして眺めたいと思うと、一眼レフカ

社団法人 桐生倶楽部会報 第71号  
 1992年(平成4年) 10月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 小池久雄  
 印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 23

### 桐生織物—幕末から明治へ 輸出羽二重の開発

幕末期における桐生織物業界は、

- (1) 近在の地方(特に足利)の機業発達
- (2) 天保の禁令(高級織物の使用禁止)
- (3) 横浜開港による生糸価格暴騰

上記のような理由で深刻な不況となり、機屋の中には休業して奉公人を解雇し、焰硝(火薬の原料)製造に転業するものさえ出現した。

しかし、この苦難時代に早くも次の発展への萌芽が見ることができる。

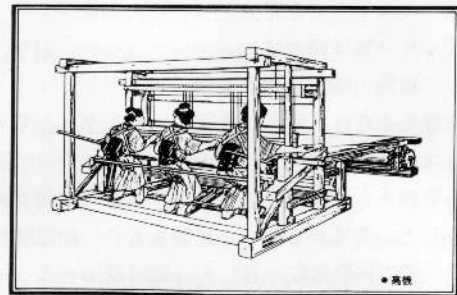
- (1) 西洋染料の使用
- (2) 輸入綿糸の使用
- (3) 織物の輸出

西洋染料は元治元年(1864年)佐羽商店が輸入し、岩下才助・小林芳蔵などが、紅粉・紺粉の2種を自家織物に使用した。これが西洋染料応用のはじまりであるが、以後桐生織物の新商品開発に大きく役立った。

桐生は絹織物の産地であるが、織物の種類によっては多少綿糸も使われていたようである。しかし本格的に使うようになったのは、横浜開港洋糸輸入後である。新居喜左衛門は絹経・綿緯の東御

召(ダッソ御召)を作り、一時隆盛を極めたという。

織物輸出は、横浜開港の年(安政6年)に、すでに始まっている。当初の商品は裏地・ハンカチ・タフタ等であったが、買次商小野里喜左衛門が開発したとされる輸出羽二重(明治15年ごろ)が、欧米に大好評で大量の輸出ができるようになった。明治30年の羽二重の輸出高は953万円、うち桐生の産出額は5割近くをしめた。ただし、桐生からはじまった羽二重は、明治23年ごろから桐生が技術指導をして、福井・石川など新興機業地でも生産できるようになった為、桐生の生産は30年ごろから急減することになる。しかし羽二重で自信をつけた桐生は、以後輸出織物では常に新商品を開発し、産地の中で輸出が大きな比重を占めるようになった。



●日本一大きな明治時代の高機

明治期に入り鎖国がとけ絹織物の輸出を考えていたころ羽二重を3人掛りで織り上げた巨大高機川内村の高草木さん方に収納されていた。

森秀織物参考館“柴”

## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

### ◎10月

- 歩く会世話人会(9日)
- 理事会(12日)
- 俳句会(22日)
- 月次会(26日)「中高齢の食事について」  
講師 常塚昌治氏、小池伸枝氏
- 写真部会(27日)

### ◎11月

- 歩く会(8日)「鳴神山より吾妻山まで縦走」
- 歩く会世話人会(9日)

理事会(10日)

会報委員会(12日)

写真部会(13日)

行事委員会(20日)

月次会(26日)「先進的なまちづくりとは—  
これからの公共建築のあり方」

講師 藤田治伸氏

俳句会(27日)

囲碁部会(29日)秋季囲碁大会



**月次会報告** 【10月】**中高年の食事について**

講師 岸病院管理栄養士  
常塚昌治氏  
岸病院栄養士  
小池伸枝氏

健康と食事の関係は、どなたでも関心の深い問題です。10月の月次会は、「中高年の食事について」をテーマに、岸病院の管理栄養士常塚昌治氏、栄養士小池伸枝氏をお招きして、話をいただきました。奥様ご同伴でと、ご案内を差上げましたが、期待以上に奥様方が多数ご来会下さり、熱心にメモをとりながら聞いておられました。

小池氏からは中高年のための食事目標として

- (1) いろいろ食べて成人病予防（1日30品）
- (2) 日常生活は食事と運動のバランスで
- (3) 減塩で高血圧と胃がん予防
- (4) 脂肪を減らして心臓病予防
- (5) 生野菜、緑黄野菜でがん予防
- (6) 食物繊維で便秘・大腸がんを予防
- (7) カルシウムを充分とって丈夫な骨づくり
- (8) 甘い物は程々に
- (9) 禁煙・節酒で健康長寿

常塚氏からは、80キロカロリーを1点として1日にとる20点の内訳を、4つの食品群に分けて説明、そのあと岸理事（院長）から補足の説明がありました。会場から熱心な質問もあり、前原勝良社員（前原内科医院々長）も、臨時講師となって説明して下さるなど、桐生倶楽部ならではの雰囲気でした。



2人の講師と前原臨時講師

**月次会報告** 【11月】**「これからの公共建築  
のあり方」**

藤田治伸さん



「これからの公共建築はどうあるべきか、11月月次会は、11月26日午後6時から建築家の藤田治伸さんを招いて、先進的まちづくりへの考え方と併せて、ユニークな都市造形論を伺った。

藤田さんは桐生の生まれ。渡米して建築学を専攻後、欧米各地を廻って「集落」を研究。帰国後は東京と横浜に仕事の拠点を置いて活躍中。山梨県に在住。

始めに先進的まちづくりについて「環境と生活があって文化がある」との持論をふまえ「人が敬遠するゴミ処理場や公会堂、身障者施設をつくるのが基本的な要素」と定義づけ「音楽堂や美術館があって文化が向上するという考えは本末転倒。文化のあり方をフィードバックさせないと後世わらわれることになる」と発想の転換を促した。

具体的な都市・公共建築のあり方については「産文会館改築への関心が高いようだが、それは主として機能部分についてのみだ。自然との共生の観点からもっと風景をとり込むべき。今、都市から風景が消えてしまった。産文会館ができる前には赤城山も梅田の町なみも望見できた。風景と景観は別なもの。絵画で言えば重ね描きした奥の部分をたいせつにして欲しい。究極の理想としては地下に潜らせてしまうことだ」と、大胆な考え開陳した。

色、マテリアルをとりきめた上で「もと通りに復元、を復興理念に据えたドイツと対比、日本の戦後復興は「模倣と暴力の所産、だった」と見聞した多くの海外事例を引いて、ランドスケープへの努力を訴えた。

## 秋の叙勲・大臣表彰

### 社員から3名の受章者

桐生倶楽部の中で、秋の叙勲の受章者および最近の大臣表彰を受けた方は下記の方々です。社員一同心からお祝い申し上げます。なお今回の受章者は春の受章者ともども、平成5年1月の桐生倶楽部互礼会の席上、倶楽部から銀盃を贈られます。勲三等旭日中綬章（教育研究功劳）書上誠之助氏 文部大臣表彰（学校医として功劳）永田泰之助氏 厚生大臣表彰（母子保健家族計画事業功劳者）

山口 隆久氏

## オノサト美術館

桐生倶楽部美術部が板橋区立美術館へ「オノサト・トシノブ展」を鑑賞して来てから3年たちます。参加された皆さんには今でも作品の美しさと規模の大きさに驚きと深い感動の記憶が残されておりましょう。

桐生に住んでいたこの画家の作品をこの街で身近に鑑賞出来るように願って、多くの愛好者が彼の美術館設立を試みながら条件を満たすのに難しく今日に到りました。

絵画は最もそれにふさわしい環境に展示されることが美術鑑賞の大切な条件だからです。

なぜでしょうか？…………… それはどの時代のどこの人の作品でも、その作品の成り立ちにふさわしい条件と言うものがあります。

幸いにも、桐生ではオノサト・トシノブの作品に限ってこの条件が最も良く満たされたなかで鑑賞出来るこの美術館が出来ました。

オノサト・トシノブが桐生市のアトリエで制作に没頭しておられたとき私達に話して下さった教えに、「書かれた絵は、その場所とその環境のなかに最も近い条件で見ることが好ましい。出来ればその同じ所が良い」と言う意味のことを繰り返して言っておりました。あのアトリエに行くと今でも書き上がったばかりの状態の画架の上に一点の絵が置かれてあります。室内もそのままに保存されていますが、もし一般公開しても皆さん全部の方々にご満足いくまで充分にご鑑賞いただくようにはまいりません。

オノサト・トシノブ美術館は、そのアトリエと同じ白壁に自然光も利用した適切な照明で作品の展示も清楚で馴染みやすい和やかな雰囲気の場合に

## 塚越理事長がダラス市の名誉市民に

このほど、県経済同友会視察団の副団長として渡米した塚越理事長は、ダラス市のコートレル市長からダラス市の名誉市民の称号をいただいた。ダラス市にはサンデン株式会社（本社は伊勢崎市）の米国工場がある関係で、県の経済界とは親しい関係にあり、先にサンデンの牛久保会長が名誉市民になっている。桐生市民で海外の名誉市民となったのは塚越理事長が初めてである。



理事長とダラス市長

バランス良く配置されて鑑賞者と作者の近親感を保ちながらオノサト・トシノブの思想とイメージの世界に溶け込んで行けるのです。美術館の運営もオノサトさんのご家族3人でなさっており、この美術館の建設もオノサト・トシノブ氏の遺志を継いだご家族の努力によってなされたものです。私達はいつでもこの美術館を利用してオノサト・トシノブの代表的な秀作を鑑賞し楽しめる恵まれた立場を与えられました。この恵みをうけてオノサト・トシノブの美術の世界を覗いて、彼の優れた美意識と現代日本の前衛として努力し切り開いた抽象絵画の展開の一端を知って彼の美術を理解すべく努力して見ましょう。

なぜ彼の作品を独立した美術館の壁面に飾り、他の画家達と別にしなければならなかったかと言うと、彼の精神の目標と感情や情緒の係わる内容が他の芸術家達と異なるところがある為に、一緒に並べると他の絵と対峙した関係や矛盾した誤解を生じたり、誤った比較や色彩の調和を欠きやすい心配があるからです。

一人の作者にだけに最もふさわしい環境をもった贅沢な美術館が欲しいのです。

そうして出来たのがオノサト美術館です。

なんと素晴らしいことでは無いですか？桐生市民として結んだ縁を大切にして、オノサト・トシノブの芸術から沢山の糧を得ようではありませんか。 桐生倶楽部美術部 保倉一郎



〔歩 く 会〕 11月例会

鳴神山から吾妻山への縦走

久しぶりの故郷の山の縦走で、参加者13名は、午前7時タクシーに分乗して倶楽部を出発し、川内の奥の広土橋登山口へ向いました。

刈りはらわれて、すっかり明るくなった広土橋から紅葉の中、素晴らしい天気恵まれて一路鳴神山頂をめざして歩き出しました。サクサクと落ち葉を踏みしめて登る沢ぞいの道は、豊かな自然の中に住む有難さを、実感するに充分なものでした。

鳴神山頂—花台沢の頭—三峰山—大形山—キノコピーク—女吾妻と、いつもの通りいくつものピークをこえて、無事に吾妻山に到達しました。吾妻公園を経て倶楽部まで歩き、午後2時半ごろ縦走を終りました。桐生倶楽部歩く会の原点に帰った一日でした。

足のせて朴の落葉の大きこと

読人不知

(金井記)



桐生倶楽部

九月旬会

曼珠沙華落人村も過疎となり  
曼珠沙華群れる堤の夕明り  
秋刀魚焼き恙無き日の暮れにけり  
たそがれし庭に紅点(さ)す曼珠沙華  
咲くや派手消ゆるや潔し曼珠沙華  
秋刀魚食う兒の真剣な箸捌き  
峡の田の段々上り曼珠沙華  
銀色の水滴りて新秋刀魚  
曼珠沙華夕日の届く畦道に  
焼き網にへばりついたる秋刀魚かな  
曼珠沙華万の鬼哭の如く咲く

本 田 天  
小 池 地  
久 保 田 人  
倉 林  
広 瀬  
吉 成  
尾 沢  
大 槻  
北 川  
有 富

有富光英選十句(九月旬会)

秋の夜の一灯残る書齋かな  
焼秋刀魚先ず腸を食いにけり  
秋刀魚食ふ兒の真剣な箸捌き  
青秋刀魚すだちに腸のほろ苦き  
写真帖はセピア色なり秋の夜  
秋刀魚焼くのみ七輪古びたり  
初秋や明日香の道の緩曲り  
秋刀魚焼き恙無き日の暮れにゆり  
秋の夜は甘口辛口身勝手に  
酒を汲む秋刀魚の脂灯に滅み

本 田  
尾 沢  
吉 成  
本 田  
尾 沢  
尾 沢  
尾 沢  
倉 林  
久 保 田  
倉 林  
廣 瀬

桐生倶楽部

十月旬会

秋の風人皆無口駅そば屋  
秋風に追ひ抜かれゆく車椅子  
晴れ続くガードレールを稲架とせる  
手折りたる野菊一輪削口  
秋風の吹き抜け行けり無人駅  
影揺れて白き障子に秋の風  
分校の木々吹き渡る秋の風  
梵鐘の今朝又近し秋の風  
坂険し一息いれて野菊道  
落葉松の道彩るや金の針

久 保 田  
本 田  
小 池  
尾 沢  
尾 沢  
大 槻  
森  
廣 瀬  
清 水  
吉 成  
倉 林

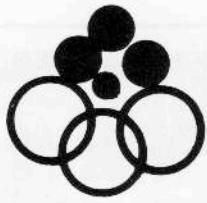
退社社員 (敬称略)

丸 山 貞 夫

(株)桐生名曲堂

社団法人 桐生倶楽部会報 第72号  
1992年(平成4年) 12月発行  
発行人 塚越平人  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社





# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 新春を迎えて

理事長 塚越平人



新年明けましておめでとうございます。社員の皆様には御元気にて越年され、心からお喜び申し上げます。口を開けば景気が悪い、いつになったらよくなるでしょうというのが合言葉のような一年でしたが、今年も仲々難しい年になりそうです。只、不況期間が永かったせいか、回復に向かえば

相当のスピードで上向きになることも予想されますが、それも今年下半期迄かかりそうな気配です。

当倶楽部と致しましては、社員のご協力を得まして、環境整備を図り、快適なたたずまいのもと社員の交流を計れるよう心掛けて居ります。一昨年、二階広間の床張り替えに続いて昨年は、二階広間の椅子テーブルを理事全員の協力のもとに新装し、空調も整備致しました。倶楽部の各委員会も積極的に活動し、大いに活性化して居ります。

今後とも社員諸君のご協力、ご指導を賜り乍ら、交流の実を挙げるよう努力致したいと思っておりますので、よろしく御願ひ致します。

## 平成4年度定時社員総会

1月28日午後6時から平成4年度定時社員総会が、二階大広間で開かれました。

議長に塚越理事長を指名して議事進行。出席208名(委任状172名)で会議成立の報告があつて、

第1号議案 平成4年度事業概況報告

第2号議案 平成4年度決算諸表報告及び会計監査報告

第3号議案 平成5年度事業計画及び収支予算案

第4号議案 任期満了に伴う役員改選の件が上程、審議されたが、いずれも原案通り可決承認されました。

## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

### ◎12月

クリスマス祭(5日)

理事会(8日)

写真部会(11日)

歩く会(13日)「茨城の史蹟と美術の旅」

俳句会(22日)

### 平成5年

### ◎1月

新年互礼会(4日)

歩く会(10日)「新春、桐生七福神めぐり」

理事会(13日)

監査会(18日)

会報委員会(18日)

歩く会世話人会(18日)

臨時理事会(28日)

定時社員総会(28日)

俳句会(29日)



## 新予算の中味

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	12,264,000 <sup>円</sup> (※注)	給料及手当	5,700,000 <sup>円</sup>
		特退共済金	72,000
		租 税 公 課	1,500,000
		火災保険料	300,000
		通 信 費	800,000
		修 繕 費	2,000,000
		光 熱 費	1,200,000
		事 業 費	3,300,000
		会 議 費	350,000
		消 耗 品 費	180,000
		雑 費	600,000
		支 払 利 息	0
		備 品 費	
		建 物	
		借入金返済	1,200,000
		予 備 費	200,000
		次期繰越金	1,220,685
小 計	12,264,000	合 計	18,622,685
月次会々費	80,000		
会館使用料	2,300,000		
設備使用料	400,000		
電話使用料	20,000		
収入利息	40,000		
入 会 金	410,000		
雑 収 入	300,000		
前期繰越金	2,808,685		
合 計	18,622,685	合 計	18,622,685

※注 会費の内訳  
 法人 4,000円×29社×12ヵ月  
 個人①3,000円×297名×12ヵ月  
 ②3,000円×10名×6ヵ月

## 新役員構成

(任期2年 平成5年1月—6年12月)

理 事 長	塚越平人
副 理 事 長	小池久雄、飯山清治
会 計 担 当 理 事	関口全之、矢野昭
理 事	藤江敏雄、金谷善介、清水信次 野田友治郎、五十嵐健雄、佐藤富三 岸田英作、木島清、岸芳正 森寿作、木村隆夫、山口正夫 赤石清安
監 事	吉野一郎、北川洋

## 当番理事編成表

【平成5年】

● 1月	藤江 敏雄、木島 清
● 2月	関口 全之、岸 芳正
● 3月	清水 信次、木村 隆夫
● 4月	岸田 英作、山口 正夫

- 5月 野田友治郎、五十嵐健雄
  - 6月 金谷 善介、矢野 昭
  - 7月 佐藤 富三、森 寿作
  - 8月 赤石 清安、木島 清
  - 9月 藤江 敏雄、関口 全之
  - 10月 岸 芳正、清水 信次
  - 11月 岸田 英作、木村 隆夫
  - 12月 野田友治郎、五十嵐健雄
- 【平成6年】
- 1月 金谷 善介、山口 正夫
  - 2月 矢野 昭、森 寿作
  - 3月 佐藤 富三、赤石 清安

## 平成4年度事業概況

社員総数 327名 (名誉社員1、正社員326)  
 内 訳 法人29社 個人298名

### 行事・集会

新年互礼会1回、文化祭1回、(絵画展、俳句色紙展、陶器展、写真展、ゴルフ大会、麻雀大会、将棋大会、囲碁大会、ビデオ放映)、クリスマス会1回

総会1回、理事会13回、監査会1回、月次会7回、委員会19回、部会64回(俳句12回、歩く会9回、ゴルフ部会1回、麻雀部会1回、将棋部会1回、囲碁部会31回、音楽鑑賞部会1回、写真部会7回、懇話会1回)

その他 会報6回発行

## 平成4年度・室の使用状況

- |       |             |       |            |
|-------|-------------|-------|------------|
| ● 1月  | 56回 1,126名  | ● 2月  | 67回 1,176名 |
| ● 3月  | 65回 1,146名  | ● 4月  | 64回 1,172名 |
| ● 5月  | 59回 1,196名  | ● 6月  | 75回 1,294名 |
| ● 7月  | 77回 1,558名  | ● 8月  | 61回 1,143名 |
| ● 9月  | 77回 1,447名  | ● 10月 | 59回 1,209名 |
| ● 11月 | 81回 1,714名  | ● 12月 | 52回 864名   |
| ● 合計  | 793回15,045名 |       |            |

※ 別館、庭園使用も含む

## VTR「伸びゆく織都」上映

社員総会席上「伸びゆく織都」のVTRが上映されました。本町4丁目加納栄さんが保管していた35ミリフィルムをTBS技術部がビデオに複写したものです。昭和11年の制作で、織物全盛時の市内事業所の様子を伝える貴重な資料として地元紙、桐生タイムスで報道されたことも。

小池副理事長の名解説で約80分、往時を偲んだ。





## 新年互礼会

平成5年の桐生倶楽部互礼会が1月4日零時半から二階広間で催されました。

森理事の司会で進行。塚越理事長が「景気は今が底。ズレはあろうが、上昇の兆しはすでに始めている。期待を抱いてご活躍を。ことしも倶楽部の運営がこの会場のように和気あいあいであってほしい」と、あいさつ。

来賓の日野茂桐生市長、笹川堯代議士、岸田英作桐生商工会議所副会頭、近藤英一郎全国商工会連合会長のみなさんの祝辞があって祝宴に移りました。

乾杯の音頭は日野貞夫県経営者協会会長で杯をあげて(写真)ことしの活躍を誓いあいました。宴席の話題はやはり景気のゆくえに集中、席をめぐって情報交換する姿が目立ちました。

最後は永田泰之助社員の万歳三唱、飯山清治副理事長の閉会あいさつでメめ。

## 歩く会(12月)

### 「茨城の史績と美術の旅」

12月13日午前6時、桐生倶楽部を大型バスで出発、茨城県立美術館(水戸)で「西洋絵画のなかのシェイクスピア展」を鑑賞したほか、徳川光圀が大日本史を編さんした所として有名な西山荘、坂東二十三番札所、佐竹寺などを訪れ一刻、師走の慌しさを忘れて楽しみました。

行程はつぎのようでした。

桐生(6:00)―結城―笠間(9:00)―(10:40)佐竹寺(10:30)―(10:40)西山荘(11:30)―(12:30)那珂湊(13:30)―(14:30)茨城県立美術館(15:30)―(17:00)結城―(19:00)桐生。

## 歩く会(1月)

### 「新春、桐生七福神めぐり」

まちはまだオトソ気分の1月10日、表題のコースを散索しました。およその行程は6.7km、3時間。当日、参加できなかった方も、この行程表を参考に七福神めぐりをおすすめします。

桐生倶楽部―1.6km・25分―①光明寺(弁財天)―0.7km・10分―②妙音寺(寿老人)―0.6km・8分―③法経寺(大黒天)―0.5km・7分―④青蓮寺(福祿寿)―1.6km・25分―⑤鳳仙寺(毘沙門天)―0.8km・12分―⑥西方寺(布袋尊)―オノサトシノブ美術館―0.8km・13分―⑦久昌寺(恵美寿)―2.5km・35分―第1山本(新年会)



佐竹寺で記念撮影



鮮魚センターでショッピング



七福神めぐり、スタート





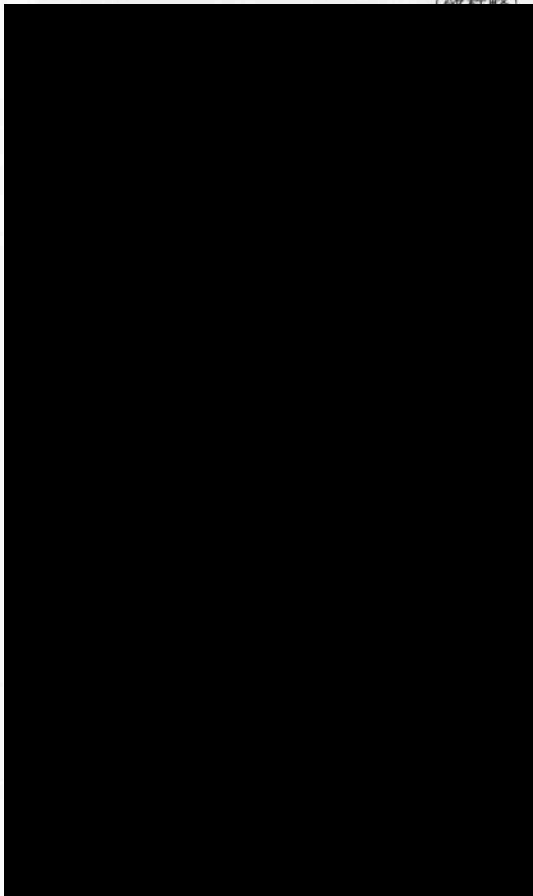
### ❖クリスマス会❖

ことしも12月5日夜、二階大広間を会場に行われお孫さんを連れた社員で賑わいました。(写真)桐生で一番早いクリスマス会のプログラムは、

- ①司会・蛭間利雄社員②開会あいさつ・小池副理事長③塚越理事長あいさつ④クリスマスソング⑤聖書朗読・書上誠之助社員⑥乾杯・金谷理事⑦会食歓談⑧サンタクロース登場⑨余興⑩福引抽せん⑪閉会あいさつ・飯山副理事長。

### |||| 新 入 社 員 ||||

(敬称略)



### 桐生倶楽部句会

(十一月)

銀杏葉を舞はせ縄とぶ童女かな  
 あおによし古都に杖ひく小春かな  
 日の落ちて墨絵となりし山紅葉  
 山茶花の咲きて連山雲もなし  
 山茶花の夕陽にはえる空屋敷  
 時雨るるや松江大橋風もあり  
 山に黄葉谷に紅葉の絵巻なる  
 山茶花のまぶしき齢となりけり

野 廣 倉 清 久 大 小  
 尻 瀬 林 水 保 槻 田 池

(十二月)

塩鮭の削がれて赤き身を晒す  
 あっぱれや三面の鮭のつらがまえ  
 塩鮭や眼に残る海の色  
 塩鮭の物言いたげな下の韻  
 明暗を作りて枯野雲流る  
 数葉は散るを拒みて冬木立  
 塩鮭を焼くすべとなり一人酒  
 留守居番塩鮭ほぐし茶漬かな

北 清 廣 久 尾 小 大 森  
 川 水 瀬 保 沢 池 槻

#### 平成4年度 寄付者芳名(敬称略)

- ・版画1点(3月) 小池久雄
- ・100万円(4月) 桐生瓦斯株式会社
- ・100万円(4月) 両毛ガス事業協同組合
- ・広間机36、椅子108 平成4年度理事18名
- ・シチズンクオーツ 清水信次
- ・ソニートリニトロンカラーテレビKV-29NX1 およびテレビ台 桐生瓦斯株式会社 株式会社アサヒ堂

社団法人 桐生倶楽部会報 第73号  
 1993年(平成5年) 2月発行  
 発行人 塚越平人  
 編集責任者 小池久雄  
 印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 24

### 織物業経営の近代化(1)

#### 成愛社

明治期になると桐生の織物業は、いち早く近代的工場経営法をとり入れる機業が出てくる。そのさきがけとなったのは成愛社と縮緬機業株式会社である。

成愛社は明治13年12月上久方村（現在の梅田1丁目）の青木一族6人によって設立されたものである。中心となった青木熊太郎・青木保蔵の両氏は、当時南京朱子が海外より大量に輸入されていたのを憂い、輸入を抑止するため南京朱子に対抗し得る優秀な品質の絹綿朱子（観光朱子）を生産する目的で、成愛社を設立したのである。

とりあえず営業所及び工場は青木熊太郎・保蔵両氏の住宅を充てた。明治17年、18年には工場を新設、艶出しロール機やボイラー、エンジンその他の附属機械を英国より買入れ、据付け、製品の高級化を図り、更に輸出品として羽二重の製造にも着手し成果を収めた。

同社は経営に当り、「社運と社員は消長盛衰を共にする」を原則とし、一族も全従業員も一体となって修養の必要があるとし、正教会牧師を招き全員キリスト教信者となり、休日には成愛社近くに建設した教会堂に集り、賛美歌を合唱し牧師の

講話を聞いたという。

成愛社は創立に当り、「明治14年2月より、24年1月まで10ヶ年を以て1期と定め、満期に至り引続き営業せんと欲する時は、社員の衆議をもって更に年期を設ける」という社則を定めてあり、この社則に従い明治24年解散、以後は会社の資産を分配し、熊太郎氏と保蔵氏が別れて、夫々単独経営をすることになった。

しかし、この成愛社は以後桐生における工場経営の発達に大きな貢献をしたものとして特筆すべきものである。なお成愛社創立当時の営業所であった青木熊太郎氏の自宅は、現在「桐生織塾」（桐生市の創作工房第1号）となっている。



桐生織塾

## ＝ 倶楽部だより ＝

### ◎2月

写真部（7日）「忍野八海から西沢溪谷」

歩く会（14日）「早春の梅田残馬山探険」

理事会（17日）

歩く会世話人会（25日）

俳句会（26日） 於芭蕉

### ◎3月

文化活動委員会（1日）

理事会（8日）

歩く会（14日）

「春浅き榛名水沢山と榛東耳飾り館」

会報委員会（16日）

囲碁部（21日）春季囲碁大会

俳句会（26日）

月次会（29日）

日本の伝承切紙 講師 藤井龍人氏



### 河原井源次氏、岸田英作氏の大任表彰

桐生倶楽部のお2人の社員が大任表彰を受彰されました。社員一同心からお祝い申し上げます。

河原井源次氏は昨年10月16日、自動車整備事業振興に対するご功績により運輸大臣表彰。岸田英作氏は、昨年10月21日、人権の擁護と人権思想の

普及に多大の貢献をされたことにより、法務大臣表彰。なお岸田氏は多年にわたる人権擁護委員としてのご功績で、昨年12月には法務大臣から感謝状も受けておられます。

### 文化活動委員会 全体会議

3月1日、文化活動委員会（委員長金谷善介、副委員長藤江敏雄）の全体会議が開かれ、新年度の各部会の行事予定と予算が協議された。また恒例の桐生倶楽部文化祭は、5月7日（金）から9日（日）までと決定。

### 委員会構成

平成5-6年度

委員会名	担当理事	委員長	副委員長	委 員
行 事	野 田 五十嵐 赤 石	森	山 口	尾沢、川口、岸(稔) 栗原、小堀、高橋(貞) 田島(英)、富永、中里 蛭間(利)、福島、森口 八木橋、吉野、堀、坂本 北川(洋)、平野(武) 米田、阿部(光)、 宮地(秀)、池田、片柳 樋口、宮地(由)、牛腸 蓮、笠原、河内、 園田(徳)、岡部(信) 坪井(良)、小林(康) 佐々木(裕)、田村(忠) 出口、水越
文化活動	岸 木 村	金谷(善)	藤江(敏)	
会 報	小 池	小 池	木 村	坪野(恵)・吉 成
営 繕	木 島	清 水	佐 藤	宮地(秀)・保 倉
総 務	小 池	飯 山	岸 田	

### 〔写真部会〕

写真部会として初めてのバスツアーを甲斐路に計画。2月7日（日）、桐生倶楽部を早朝5時出発。霊峰富士の白銀の姿を眺める有名な景勝地、忍野八海から、水晶の殿堂と称される氷瀑、つららの連続する西沢渓谷を訪ねました。

担当世話人、森口・金子（福）

### 〔歩く会〕 2月例会

#### 春浅き残馬山と不動峽

2月14日、朝8時、自家用車に分乗して、桐生倶楽部を出発、総勢13名、寒風について元気に予定コースを踏破した。



### 〔歩く会〕 3月例会

#### 榛名水沢山と榛東耳飾り館

3月例会は、14日、マイクロバスで朝8時桐生倶楽部出発。坂東第16番札所水沢寺の背後の1104.4mの水沢山（浅間山）に登り、帰途、昨年11月榛東村にオープンした世界初の耳飾り専門館を見学して帰った。



### 文化活動委員会内趣味の部会

部会名	部 会 長	副部会長	担 当 理 事
美術部会	保 倉	須 賀	佐藤(高)・岸(芳)
懇 話 会	藤 井(龍)	山 鹿	木 島・赤 石
俳 句 部 会	久保田(裕)	本 田	清 水(信)・森(寿)
麻雀部会	八 木 橋	松 枝	藤 江(敏)・岸田・岸(芳)
囲碁部会	野 田	吉 成	小 池・野 田
ゴルフ部会	片 柳	森 田	五十嵐(健)・関 口
将棋部会	平 野(平)	野 田	飯 山(清)・野 田
歩 く 会	木 島	藤井(龍)	小 池・木 島
ビデオ部会	金 井(利)	五十嵐(健)	金 谷(善)・五十嵐(健)
写 真 部 会	森 口	金子(福)	木 村(隆)・塚 越(平)
音楽鑑賞部会	小 堀	藤井(龍)	矢 野・山口(正)・木島



## 月次会報告

### 日本の伝承切紙

講師 藤井 龍人さん

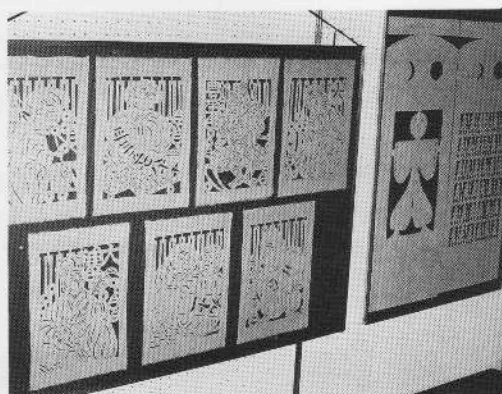
「残したい伝統のともしび」—3月の月次会は3月29日、倶楽部社員で民俗文化に造詣の深い藤井龍人さんに講師をお願いして、伝承切紙のお話をうかがいました。藤井さんは、床の間飾り、幣束（御幣）、人形（ひとがた）などの伝承切紙を収集・復刻されています。今年初めには、郷土資料展示ホールで切紙展を開催。会期が延長されるほど好評を博しました。月次会では実物が多数示され、切り紙の分布、歴史、信仰とのかかわりなどが語られました。約40人が熱心に聴講しました。

#### ▽選ばれた伝統

切紙は、北海道、沖縄を除く全国に広く分布している伝承民俗文化の一つです。生活環境が変化し、床の間や神棚のない家も増え、ふだん切紙を見る機会は少なくなりました。しかし、一つの元型（もとがた）が長く伝わり、明治時代からの七福神の絵柄がそのまま現在も受け継がれている例が東北・気仙地方にみられます。「残っているものは、おおげさな技巧は凝らさず、飽きのこない図柄が多いような気がする。伝統というものは、選ばれたもの、が残っているのだと改めて感じた」と藤井さんはいいます。

#### ▽切紙の分布

藤井さんによると、切紙文化の分布は、東北地方は床の間飾り、神棚飾りが多く、中部地方以西は神楽舞いの時に祢宜（ねぎ）が持って踊ったり、社殿に飾ったりするものが多いそうです。いずれ



#### さまざまな伝承切紙

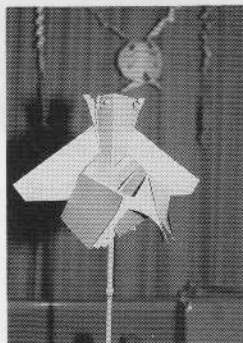
も民俗信仰にかかわりがありそうです。桐生あたりでは、幣束ぐらいしか日にすることはありませんが、小幅の機屋さんの中には、機神様をかたどった人形の一種を正月飾りとしておそなえする風習もあるそうです。

#### ▽切紙の歴史

正倉院御物中に、新年の招福を祈る紙を含め、切紙に近いものがありますが、日本で切られたものかどうかははっきりしません。全国への広がりとして考えられるのは、高野ひじりによる伝搬。弘法大師が中国からもたらし、高野山開山の時に神前などに飾ったものが、全国の真言宗の寺を中心に広まったようです。

#### ▽伝えたい風情

伝承切紙の一種に、新潟・十日町地方に伝わる「もち下絵」があります。正月に飾る鏡もちの下に敷きます。おめでたい図柄が切られ、正月にふさわしい風情があります。「こういうものは、桐生でもまねていいのでは」と藤井さん。「選ばれて残った伝統」に民俗文化の歴史を見据え、文化継承に対する藤井さんの熱い思いが伝わる月次会となりました。



機神様の切紙とデザイン的にも面白い切紙



桐生倶楽部歩く会

茨城の史蹟と美術の旅 吟行句

(平成 4 年12月13日)

会員 久保田広人 (裕一)

水尾引きて陽を碎き行く鴨の陣  
(瓜連町古徳沼にて)

木洩日の西山荘の紅葉踏む  
(西山荘にて)

銀杏黄葉踏みしめて入る札所かな  
年古りし佐竹寺守る大銀杏  
(佐竹寺にて)

磯節もおまけや旅の鮫鱈鍋  
鮫鱈の売れ残りたる不貞寝かな  
(那珂湊にて)

熱氣して美術館出る枯木道  
(茨城県立美術館にて)

凍てし灯を点して沖の泊り船  
受付も一日だけの春著かな  
会釈され春著きし娘に戸惑えり  
滝凍てて落下のさまを残しをり  
機音と住みて久しき福寿草  
ためらひつ子の贈り来し春著着る  
祝事(ほぎご)の近し春著の掛かりりし  
葉牡丹の色艶やかに鉢の数  
春著の子帰り仕度の父の背に  
出張の肌着思案の四温かな

倉林 久保田 尾 沢 本 田 小 池 広 瀬 遠 藤 清 水 大 槻 森

桐生倶楽部 一月句会

薄氷の下に流れや藻の揺るる  
鋸の屋根また消えて犬ふぐり  
薄氷や紙漉く里を訪ね来て  
春の湖光まるびて春浅し  
薄氷の陽を透かしつつ岸離る  
軒灯に立春大吉真さらなり  
早春の梢の揺れて陽の透けし  
道拡のシャベルの先に犬ふぐり  
早春の朝日を待ちし鬼瓦

本 田 小 池 倉 林 広 瀬 久 保 田 尾 沢 大 槻 清 水 森

桐生倶楽部 二月句会 (於 芭蕉)

◇ 新入社員紹介 ◇

(敬称略)



『囲碁部』

春季囲碁大会

3月21日(日)、桜花も待たれる暖かい日に恵れて春季囲碁大会が倶楽部6号室にて催された。

腕におぼえの面々、午前10時集合、丁々発止と鳥驚を戦わせた。

集ったメンバーは(敬称略)岡田光弘、金谷利男、木村博一、野田友治郎、広瀬 進、福永儀一、山上喜一、吉成敏郎、一騎当千の錚々たる面々、夕方迄一人6局から7局をたのしく満喫しました。

ちなみに成績は下記の通り。(敬称略)

- 1位 野田友治郎 (6勝1敗)
- 2位 福永儀一 (5勝1敗)
- 3位 広瀬 進 (3勝3敗) [以下略]

尚、文化祭協賛の囲碁大会は日程決定次第お知らせしますが4月末か5月はじめに開催します。

囲碁部トロフィーをめざして会員皆様大勢のご参加をお待ちしております。(野田、吉成)



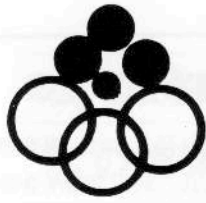
社団法人 桐生倶楽部会報 第74号

1993年(平成5年) 4月発行

発行人 塚 越 平 人

編集責任者 小 池 久 雄

印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 25

### 織物業経営の近代化(2)

#### 日本織物株式会社

成愛社設立より7年後、明治20年に日本織物株式会社が発足された。この年、関西では京都織物株式会社が創立されている。

当時、本町3丁目の佐羽商店は、東京・横浜に支店を置き、更に朝鮮へも進出するなど隆盛を極めている織物買継商であった。偶々東京・桐生・足利の有志の間に、日本織物株式会社創立の動きがあり、佐羽商店は率先して力を尽くした。

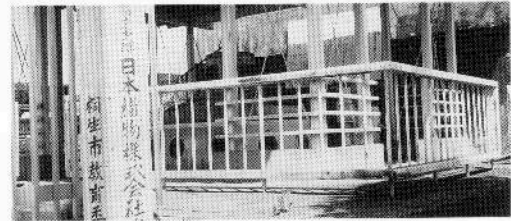
創立の趣旨は、明治以降、大量に輸入されていた南京朱子(経絹緯綿の黒朱子)を国産化し、更には海外に輸出しようとするものであった。役員は取締役社長に佐羽商店主の佐羽吉右衛門、専務取締役は佐羽喜六であった。

明治21年、佐羽喜六は機械類購入と織物業視察のため、工務長山岡次郎技師と共に米国に渡った。その結果、同社の設備も経営も本邦最大規模、最新鋭のものとなった。渡良瀬川より水路を開き水車タービンにより発電を行い、貨物運搬のため桐生駅から引込み線を敷設した。工場ではボイラーによる染色整理を行い、織物は欧米各国の力織機430台を稼働させ、従業員は600人を数えたという。

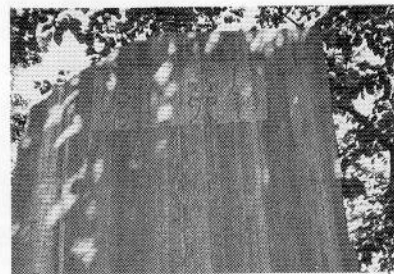
製品は「織姫朱子」という登録商標もとり、極

めてすぐれた品質で、従来の南京朱子を遥かに凌駕し、当初の目的を十分に達することができたのである。しかし数年後、日清戦争後の不景気に遭遇し佐羽商店が倒産、さらに佐羽喜六が清国を視察して帰国する途中、乗った船が難破して死亡するなどの不幸が続いた。そのため会社は東京白木屋関係の人達に譲渡され、明治35年、桐生織物株式会社と変った。(以後、大正4年には東洋織布、昭和9年には富士瓦斯紡績、大戦中は中島飛行機製作所太田工場のため転用され、昭和31年桐生市へ譲渡、産文・市行所等に使われている)

日本織物株式会社は今に至るまで、桐生で最大の近代的織物工場であった。



厚生病院前に残る発電所跡



(産文前織姫神社境内)  
佐羽喜六顕徳碑

## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

### ◎ 4 月

歩く会 (11日) 「御嶽信仰の四ツ又山と黒滝山 不動寺」

理事会 (12日)

写真部会 (14日)

将棋部会 (17日) 文化祭協賛将棋大会

行事委員会 (19日)

俳句会 (26日)

麻雀部会 (26日) 文化祭協賛麻雀大会  
於ケイエム

月次会 (28日) 「私の道楽」講師 鏑木勝時氏

ゴルフ部会 (28日) 文化祭協賛将棋大会

囲碁部会 (29日) 文化祭協賛囲碁大会

### ◎ 5 月

文化祭 (7日～9日)

ガーデンパーティ (9日)

理事会 (11日)

歩く会 (16日) 「新緑の花見ヶ原から赤城黒松山へ」

会報委員会 (19日)

歩く会世話人会 (24日)

俳句会 (27日)

―― 退社社員 ―――

(敬称略)

岡崎 弘



### 第19回桐生倶楽部文化祭

今年も恒例の文化祭が盛大に開かれました。特に5月9日のガーデンパーティーは、ご家族のご参加が多く、大変賑やかでした。またパーティーのアトラクション、広井ひとみさん・狩野真弓さん・関口勉さんによるフラメンコダンスが大変好評でした。

#### 文化祭協賛行事及催物一覧

将棋大会	4月17日 PM 4:00~	於 6 号室
麻雀大会	4月26日 PM 6:00~	於ケイエム
俳句会	4月26日 PM 7:00~	於 2 号室
ゴルフ大会	4月28日 AM 8:00~	於足利CC
囲碁大会	4月29日 AM 10:00~	於 6 号室
絵画展	5月7日~5月9日 AM 10:00~PM 5:00	於広間
写真展	5月7日~5月9日 AM 10:00~PM 5:00	於広間
陶器展	5月7日~5月9日 AM 10:00~PM 5:00	於広間
俳句色紙展	5月7日~5月9日 AM 10:00~PM 5:00	於広間
日本伝承切紙展	5月7日~5月9日 AM 10:00~PM 5:00	於 1 号室
ピアノ観賞会	5月9日 PM 1:00~PM 4:00	於ロビー
ガーデンパーティ	5月9日 PM 4:00~	於庭園
歩く会	5月16日 AM 8:00~	桐生倶楽部集合 黒松山登山

#### 各部大会入賞者

- |            |            |
|------------|------------|
| 将棋部 (4/17) | 囲碁部 (4/29) |
| 1 位 蓮沼 源一  | 優勝 広瀬 進    |
| 2 位 平野平四郎  | 準優勝 蓮沼 源一  |
| 参加賞 小山 利雄  | 1 位 吉成 敏郎  |
| 〃 平野 元吉    | 2 位 福永 儀一  |
| 〃 三田 章     | 3 位 野田友治郎  |
| 〃 野田友治郎    |            |

- |            |              |
|------------|--------------|
| 麻雀部 (4/26) | 写真展人気投票      |
| 優賞 蓮 直孝    | 1.五十嵐健雄 星空1) |
| 準優勝 吉野雅比古  | 2.江原 満 氷 瀑   |
| 3 位 養田 隆   | 3.斎藤 守弘 草紅葉  |
| 5 位 亀田 和夫  | 4.新井 友次 枝 垂  |
| 10 位 蓮沼 源一 | 5.小堀 隆 苗場山   |
|            | 6.後藤 久夫 カタクリ |

- |             |              |
|-------------|--------------|
| ゴルフ部 (4/28) | 7.斎藤 貞良 朝 光  |
| 優勝 坪野 恵治    | 8.川島 忠昭 新 雪  |
| 準優勝 山本 作幸   | 9.尾沢 弘一 並木道  |
| 3 位 森田 良徳   | 10.金井 利雄 秋 色 |
| 4 位 関口 全之   |              |
| 5 位 片柳 倫子   |              |
| 10 位 野口 眞光  |              |
| B・B 片柳 康宏   |              |
| B・M 竹内 晴夫   |              |

### 春の叙勲 塚越理事長が受章

平成 5 年春の叙勲が 4 月 29 日発表され、倶楽部の関係では理事長の塚越平人氏、商工会議所会頭増山作次郎氏が受章されました。

勲四等旭日小綬章 (金融業功労) 増山作次郎氏  
勲四等瑞宝章 (ガス事業功労) 塚越 平人氏

また 5 月 3 日発表の県功労者では、社員の中から県政功労者として亀山憲明氏 (県議会議員) が表彰されました。



社員の作品の数々



特別展示—日本の伝承切紙展 (藤井龍人氏)



あいにくの天候で室内でパーティー開始



フラメンコダンス



## 月次会報告 【4月】

### 私の道楽 講師 鍋木勝時氏

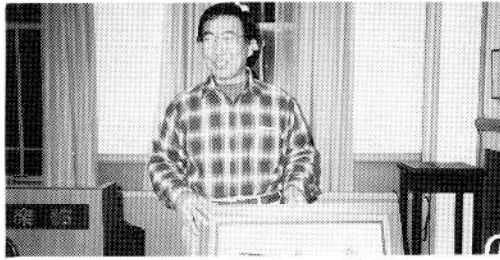
4月の月次会は、大変趣味が豊かであり、それぞれの趣味が道楽の域をこえているという、鍋木勝時氏から楽しいお話をうかがいました。また、下記の文章を寄稿していただきました。

(当番理事 岸田・山口)

私の道楽 鍋木勝時

高校時代はハンドボールや柔道・登山・岩壁登攀、結婚してからは溪流釣に熱中していました。

ある日、母親(母親こそ道楽持ちの最たる人、書道は40才位から始め、今は毎日書道展入選、県展には毎年入賞、和紙のこまこ人形、水墨画等々)、曰く「お前は何をやっても一生懸命やるが、今までの足跡が何もない。お父さんは写真や8ミリ映画の道楽で、子供の小さい時の記録や四季折々の美しさを残しているが、お前も何か残る物を作り



鍋木氏と魚の剝製

なさい」。この言葉が基で魚の剝製作りが始まりました。試行錯誤しながら自分で釣った魚や友人の魚を作りました。

釣り道楽が高じ、どうも自分は商売に向いていない、いっそ剝製作りを職業にしようと意を決し家族に相談したら、妻に「人生は一度しかないのだから、好きな事を頑張ってやって下さい」と言われ、これは本腰を入れなければ一と、県内はもとより、日光中禅寺湖・新潟銀山湖等釣りキチの集まる所を中心に商業圏に入れ、クチコミで全国へと広がり、現在は北海道から九州まで製作依頼が来るようになりました。

心に残る作品は、群馬国体の時、皇太子殿下(現天皇陛下)に献上した7センチのアカザ(ヒゲのある小さい魚)。世界中のシェフが腕を競い合う世界大会で、20匹の魚が水中に泳ぐように配置し、まわりにオードブルを配したものの、これは最優秀賞になりました。その他数多くの作品を手がけ、

やっと自分の物を残せるようになりました。

忙しい、忙しいで仲々釣りも出来なくなり、仕事の合い間にまたまた道楽の虫が騒ぎはじめました。今度はログハウス建設です。幸い息子も、これは道楽ではなく職業として私の下で働いているので、思い切って時間を作り自分で設計し、丸太を手配しました。

もう後にはひけません。昨年6月に基礎工事が終り、約1年かかって2階までの丸太が組み上がりました。1階、2階合わせて200平方メートルほどの大きな家で、出来るとログハウスでは県内でも珍しい大きさとなります。梅雨前に屋根を上げたいと、毎日取り組んでいます。10月頃には完成させたいと思っています。その後の仕事のツケは覚悟しています。

道楽とは、仏教の言葉では道を極める事とか、これからも研究を重ね、魚のハクセイ製作の道を極める様に努力していきたいと思います。

(鍋木氏は末広町のメンズファッションMARUDA Iの店主)

## 〔歩く会〕 5月例会

### 新緑の花見ヶ原から赤城黒松山へ

5月例会は、桐生倶楽部文化祭協賛行事の一つとして、16日(第3日曜日)に実施しました。

朝8時に、自家用車に分乗して桐生倶楽部出発、34k約50分で黒保根村の花見ヶ原森林公園キャンプ場に着きました。このキャンプ場は赤城山の東側山麓、海拔1200mの所にあります。ここから、黒松山へは僅か4k、2時間余です。普通、黒松山は赤城大洞駐車場に車を置き北登山口を登りますが、花見ヶ原キャンプ場からの方が楽なようです。カラマツの新芽が実に見事でした。花見ヶ原キャンプ場は、夏の気温は軽井沢とほぼ同じで、俗化されていない原生林の深緑が美しく、サルやシカ、ヤマメ・イワナなども生息しているとのこと。夏にはキャンプ場で一日楽しみたいものです。





〔歩 く 会〕 4 月例会

御嶽信仰の四ッ又山と  
黒滝山不動寺

4月11日午前6時、自家用車分乗で倶楽部出発、約2時間で登山口(大久保)に到着。四ッ又山頂(899.5米)まで約2時間かかる。四ッ又山は下仁田町と南牧村の境にあり、その名の通り四ッの鋸歯状の頭を持っている。4峰を廻って大久保に降り、次は車で黒滝山不動寺に行く。不動寺は奈良時代行基の作と伝えられる不動明王を安置して建てられ、山岳仏教信仰の霊場であった。江戸時代、延宝3年隠元禅師の流れをくむ潮音和尚が中興して、黄檗宗黒滝派の本山となり、支院末寺 200余を統べて寺運は大変隆盛であった。

明治期以後衰退して今日に至っているが、古びた開山堂・本堂・山門・不動堂などの建物や、所々に散在する奇岩・怪石、それらをおおうように茂り合う古木など、あたりは静寂そのもの。いかにも禅寺らしい落ち着いた雰囲気である。今回は利用しなかったが、予約すれば山寺風普茶料理もいただけるとのことであった。

帰途、小幡の桜を見たりして、天候にも恵まれ楽しい山旅の一日であった。



四ッ又山頂



黒滝山不動寺山門

掌をのべて野仏春塵うけ給ふ  
地に落ちし椿一つの重さかな  
二人居て喋るでもなく春炬燵  
落椿艇長の碑は海に向き  
繕ひを終へし垣根に虫の這ふ  
春塵や李朝の壺に歴史秘め  
病室の窓ごしに舞ふ春の塵  
入れ替り猫の這ひ出る春炬燵  
有ればよし無ければ淋し春炬燵

本 田 小 池 尾 沢 倉 林 大 槻 久 保 田 森 廣 瀬 清 水

嘯や半眼に坐す石仏  
棹させば棹に添ひ来る花筏  
座禅堂出て嘯りの坂下る  
散り敷きし花を乱して仔犬馳け  
雪洞(ぼんぼり)に花の色香の極み見せ  
竹林の深し筍柔かし  
新しき命となりし蛸蚪の群  
嘯やいとど酔けき古戦場

小 池 本 田 倉 林 大 槻 久 保 田 遠 藤 清 水 廣 瀬

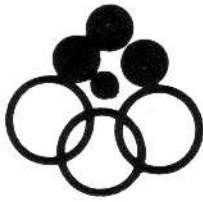
桐生倶楽部 三月旬会

桐生倶楽部 四月旬会

岩沢正作没後50年記念講演会

7月の月次会は特別例会となります。7月25日(日)、1時～4時桐生倶楽部2階で、郷土の大学者岩沢正作没後50年を記念して講演会を開きます。講師は岩沢正作ゆかりの東山健吾先生(成城大学教授)と、岩沢五夫先生(考古学を学ぶ会事務局長)です。社員多数のご参加をお待ちしております。

社団法人 桐生倶楽部会報 第75号  
1993年(平成5年) 6月発行  
発行人 塚越平人  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 26

### 織物業経営の近代化(3)

#### 日本絹燃株式会社

明治35年、時の農商務省が全国6ヶ所の機業地(京都・福井・富山・米沢・足利・桐生)に、それぞれ織物に関する必要な機械を貸下げるようになった。桐生は当時の産地情勢より考えて、先ず原料加工の改良が急務であるとして、燃糸機械(フランス製の燃糸機4千鍾)の貸下げを受け、市内巴町2丁目に模範工場桐生燃糸合資会社(日本絹燃株式会社の前身)が設立された。

創立当時の役員は、業務執行社員前原悠一郎・森山芳平、監査役書上文左衛門・今泉健次郎、顧問金子竹太郎の諸氏。資本金3万円であった。会社は極めて順調に発展を続け、大正6年には米沢燃糸工場を買収、一地方の工場から全国に飛躍しようということで、大正7年資本金300万円の日本絹燃株式会社に改組された。工場敷地は1万4千坪、燃糸鍾数7万2千の日本を代表する燃糸工場となった。その製品は極めて優秀で、欧州・中南米・東南アジア各国に輸出され五つ星(ブランド)の絹燃糸は高い評価を得ていた。

しかし、大戦勃発により工場一切が中島飛行機に譲渡を強要されるなどのことがあり、戦後、会社は復活したものの経営環境が厳しく、前橋の上毛燃糸に併合されるに至った。

日本絹燃の創始者であり、40年間にわたって代表者として活躍された前原悠一郎氏は、桐生倶楽部の功労者で初代の副理事長である。倶楽部の2階には肖像画が飾られているが、庭園には立派な胸像も建っている。これは昭和11年、前原悠一郎氏の功績をたたえて日本絹燃の構内に建設され、後に桐生倶楽部に移されたもの。製作者は当時彫塑界の第一人者であった朝倉文夫である。

前原悠一郎氏の著書「桐生の今昔(昭和33年発行)」は貴重なものである。御子息が前原一治氏であり、桐生の名市長、桐生倶楽部第6代理事長であった。



旧日本絹燃事務所棟  
明治36年の石造建築

### ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

#### ◎ 6 月

歩く会(6日) 「新緑、もう一つの日光散策」  
理事会(8日)  
写真部会(13日)  
月次会(21日) 「きのこよもやまばなし」  
講師 内田正宏先生

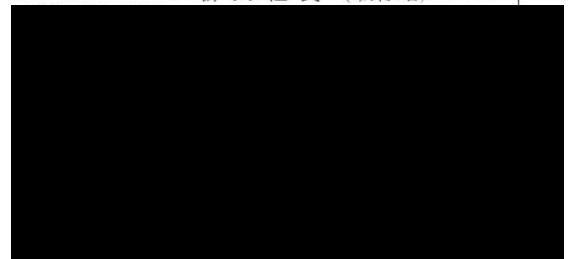
俳句会(25日)  
歩く会世話人会(25日)

#### ◎ 7 月

写真部会(5日)  
理事会(9日)  
会報委員会(15日)  
月次会(25日) 懇話会担当「シルクロードの博物学」講師 東山健吾先生

「三山閣へ集まった人々」講師 岩沢五夫先生  
歩く会(25日) 「梅雨明けの野反湖花の旅」  
俳句会(29日)

新 入 社 員 (敬称略)





## 月次会報告 【6月】

### 天然のきのこ、 本物の味

内 田 正 宏 さん

秋の空といわれるように、秋の天候は気まぐれである。それだけに、雨あがりの秋晴れはすがすがしい。気のおけぬ友人達と出かけるきのこ狩りの楽しみは、何ものにも代え難い。早朝の山々の空気は冷たく、朝日にきらきらと輝く紅葉の美しさをいっそうひき立たせる。木の葉の下に顔を覗かせるきのこ達に出会える期待に、山道を行く心が弾む。しかし、時には気まぐれなきのこ達に、人間達が翻弄され、手ぶらで山を下りることもある。何しろきのこの歴史の方が長い。この地球上では先輩なのである。

よく、カビの生えるような所という言い方をす



る。あまり光の当たらぬ、じめじめとしている所を指す時に使われる。人間の生活にとっては、好ましくない環境であっても、カビにとっては居心地のよい所なのだ。しかし、人々は酒、ビール、醤油、味噌から抗生物質に至るまで、さまざまなカビの恩恵に浴しているのだから、あまり身勝手な言い方は許されない。それというのも、秋の味覚を代表する山の幸きのこは、じつはこのカビの仲間なのである。

トマトやナス、キュウリに季節感を味わえぬ昨

今、人々は天然もののきのこに秋の風味を求める。マツタケの香りやナメコのぬめりを嫌う西欧人には、日本人の秋のきのこに対する思い入れは想像することさえ難しいという。そこに、マツタケご飯があり、マツタケのどびん蒸しがある。

昔からよく、匂いマツタケ味シメジといわれてきた。ところが、マツタケはその香りから誰にも分かるが、味シメジのシメジを正確に知る人は少ない。というのも、八百屋の店頭に並ぶシメジはヒラタケという別のきのこの栽培品で、味シメジのシメジの名を騙るまったくの偽物。天然もののシメジは、マツタケ同様に、生きている樹木とお互に助け合って共存している関係にあるため、今のところ人工栽培が不可能なきのこの仲間なのである。じつは、その天然もののシメジにも二種類あることが分かり、今から35年ほど前にそれぞれホンシメジとセンボンシメジ(別名シャカシメジ)に分けて名付けられて公表された。ホンシメジには地方名がいくつもあり、ダイコク、ウェッコ、カンコ、イシワリ、イボコゴリなどが代表。シャカシメジの名は、センボンシメジの生え始めが、お釈迦様の髪形に似ているところから付けられた別名。したがって、匂いマツタケ味シメジのシメジとは、野生のホンシメジとセンボンシメジのことなのである。

ところが、何と驚いたことに人工栽培できないはずのホンシメジが、八百屋やスーパーに堂々と並んでいる。ブナシメジの栽培品を偽名で登場させたのである。売れさえすれば、というたちの悪い商法と言わざるを得ない。ひと昔前、オヒョウという魚をヒラメと偽って売り出し、社会問題になったことがあった。内容的にはこれと同じだがきのこの方は残念ながらあまり問題にされていない。

ヒラメはいつでも食べられるが、天然もののシメジ、すなわちホンシメジやセンボンシメジは、環境破壊が進み、発生地が激減したため、今や幻のきのこになりつつある。だからといって消費者を別のきのこで騙してもよいという理屈にはならないはずだ。嘘つききのこの販売は日本だけという現状を改め、せめて匂いマツタケ味シメジの正しい意味くらいは後の世まで伝えたいもの。

天然のきのこ、それが本物の味だからである。

## 月次会報告 【7月】

### 岩沢正作展記念講演会

当月月次会は公開形式で、7月25日午後1時から桐生倶楽部二階広間において「岩沢正作展記念講演会」を開催した。

没後50年。学問的領域の広さと、業績の先駆性が、近年再評価されつつある超俗の博物学者、岩沢正作(1876—1944)の偉業に切り口を変えて迫ろうという試みである。講師は正作の遺族、東山健吾さんと、岩沢五夫さん。

東山さんは、成城大学教授で仏教美術研究の権威。正作の孫で「美術史を専攻していた関係で、フィールドは多少異なるが、仏教美術を選んだこと自体に、祖父とのつながりを感じています」と、正作との因縁を話していた。この日は「シルクロードの博物学」と題して約60分、敦煌を調査したとき撮したスライドを使って判り易く仏教美術を解説した。

もう一人の講師、岩沢五夫さんは、正作の三男で、「考古学を学ぶ会」の事務局長をつとめる。学問体系の完成を前に逝った父親の遺した著作の整理、編年作業に取り組んでいる。

この日の演題は「三山閣に集まった人たち」で、肉親でしか知りえなかった正作の人間像、交友関係と、毛野研究会のエピソードなどを披露した。

私設博物館「三山閣」には、正作の学殖を慕う研究者がたえず出入りしていたが、博物館とは名ばかり。「間口二間半の棟割長屋の一室に植物、鉱物、考古学の資料と、大量の書籍が秩序なく堆積しており、さながら大地震に襲われた古物屋の店頭」の趣きだったという。

そうした不自由な研究室に埋もれながら、世俗の毀誉褒貶を超越して研究に打ち込む姿に岩沢さんは今さらながらに畏敬の念を禁じえない、と50年の歳月をこえてもなお研究者としての距離を置いて父親を眺めていた。

#### 岩 沢 正 作 (以下桐生タイムス7.3所載)

岩沢正作は明治9年横浜に生まれ。山野をめぐって大自然からじかに学び、群馬県には明治35年、県立前橋中学校の博物教師として赴任。高崎中学校などを経て、大間々共立普通学校に赴任、大間

々に居を定めた。学生たちには絶大な人気があったが、なにもこだわらない性格が校長らの誤解を招き、教職を辞す。

そして多くの資料を足で収集しながら博物の研究に励み、毛野研究会を組織して機関誌「毛野」を発行。「上毛電鉄沿線案内」「赤城山から庚申山」の著書もある。また博物館建設への夢を抱き「三山閣附属少年博物館」をつくって子どもたちを集めた。

その業績は先駆的で、また群馬の郷土研究の基礎を築いていった。

酒とたばこは常人以上。ノートを持たないときはバットの空き箱にメモし、アルコール中毒にもなった。あごひげを長くたらし、笑うと細く優しい日になって、天真らんまんの人だったという。

墓は大間々町の光栄寺にあり、戒名は「山岳院涉沓四拙居士」。

三女の福田三枝子さんが桐生市宮本町に在住で、昭和54年、父親のぼう大な遺品を群馬県立歴史博物館に寄贈した。

#### 「岩沢正作没後50年記念展」

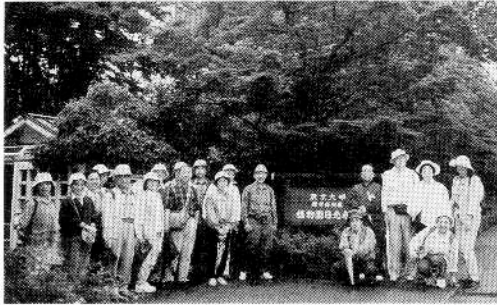
桐生倶楽部懇話会、岩沢正作先生顕正会、群馬考古学研究所、桐生市教育委員会の主催で、8月1日まで市立郷土資料展示ホール(本町5丁目)で開催。忘れつつある魅力ある生涯と画期的な学問業績を縦横に紹介した。



「シルクロードの博物学」を語る東山教授



# 〔歩く会〕 6月例会 新緑・もう一つの日光散策



東大植物園の前で

歩く会6月例会は日光でした。日光と云えば、東照宮や華嚴の滝ということになりますが、こうした所を避けて、ふだん見ることの少ない日光の史跡をめぐるしました。

6月6日午前7時、桐生倶楽部から自家用車で分乗して出発、一行21名。先ず日光で最も古い歴史の残る本宮神社、四本竜寺、開山堂、滝尾神社を歴訪。午後は広大な東大植物園で雨に濡れた高山植物を賞で、日光博物館の見学を最後にして午後5時帰桐しました。

## 写真部 バスツアー

### 高原の乙女“ひめさゆり”を尋ねて

6月13日、福島県熱塩加納村にひめさゆりの群生地を尋ねました。会津盆地を見下ろす丘陵地に可憐な淡いピンクのひめさゆりが満開でした。

梅雨の晴れ間の青空と新緑とピンクの花、時間を忘れてシャッターを押しました。その後、蔵の



(ひめさゆり) 森口 二郎 撮す

町喜多方を見学し、名物のラーメンで昼食を取り

帰路、会津高田の伊佐須美神社のあやめ祭りや、下郷町の古い宿場町大内宿を写し奥会津の自然を満喫して帰りました。桐生着午後8時

(森口記)

### 桐生倶楽部 五月旬会

モノリザといふバラありて風やさし  
頼りなき肌の白さや更衣  
音もなく牡丹崩して夜半の雨  
ひた走る電車の分けし麦の秋  
過疎といふ村に立ちたる祈禱  
鯉幟一つ泳がせ山の村  
派手と言ひ地味と言はれつ更衣  
鯉幟峡谷渡る湯に浸る  
段々の田は顔ほど藤の花  
矢車の音けたたまし夜の風

小池 森 広瀬 大槻 尾沢 久保田 本田 遠藤 倉林 清水

### 桐生倶楽部 六月旬会

動くとも見えぬでで虫失せにけり  
万緑の地球傾け新幹線  
夏草に隠れて峡の瀬音かな  
一望の植田となりし車窓かな  
道程は遠し笈負ふ蝸牛  
行きつけばでで虫角を振り廻し  
畦切れて植田の水の軽き音  
ペン置きしデスクの縁(ふち)に蝸牛  
夏草の嘘せる香りに踏み入りし

小池 倉林 本田 尾沢 広瀬 久保田 森 清水 大槻

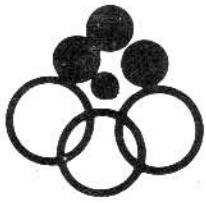
社団法人 桐生倶楽部会報 第76号

1993年(平成5年) 8月発行

発行人 塚越平人

編集責任者 小池久雄

印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町 2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 27

### 織物業経営の近代化(4)

#### 両毛製織株式会社

前号に述べた如く、明治35年、時の農商務省から燃糸機械の貸下げを契機に設立されたのが、日本絹織株式会社であった。さらに5年後の明治40年、今度は農商務省から織物整理機械の貸下げを契機に設立されたのが両毛製織株式会社である。創立時の社長は飯塚春太郎氏、翌年から金子竹太郎氏が社長に就任した。

金子竹太郎氏は、東京工業学校（現在の東京工業大学）を優秀な成績で卒業して帰郷、明治29年から12年間、桐生織物学校の教頭として、織都桐生の指導者の育成につとめた。この間、政府の命により、イタリー・フランス（特にリオン）で絹織物の研究もしている。

両毛製織は染色整理の委託加工から始まったが、間もなく織物工場を増設し、大正7年には資本金200万の大会社に発展した。その後幾多の変遷を経て、今次の大戦のため機械を供出、土地家屋の全部は第二精工舎へ譲渡された。その時の社長は青木専治氏であった。

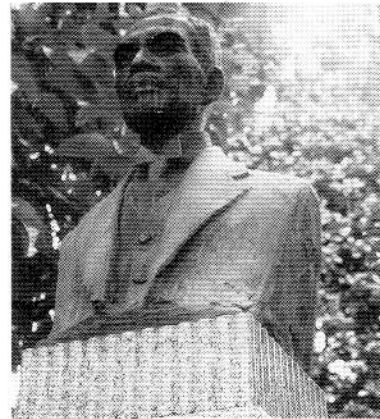
金子竹太郎氏は織物技術に優れ、日本の織物業界においても著名な存在であった。

なお、桐生倶楽部の創立当時の理事長は金子竹太郎氏、副理事長は前原悠一郎氏で、お2人とも倶楽部創立の功労者であり、桐生倶楽部庭園の南側に金子竹太郎氏の胸像、東側に前原悠一郎氏の胸像（朝倉文夫作）がある。

金子竹太郎氏の像



前原悠一郎氏の像



## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

### ◎ 8 月

歩く会世話人会（2日）

理事会（11日）

俳句会（26日）

### ◎ 9 月

写真部会（2日）

理事会（10日）

会報委員会（14日）

写真展（14日～16日）

「有鄰館と掛井五郎の作品を撮る」

月次会（19日）歩く会担当

「初秋の信濃路、八ヶ岳山麓の

美術館めぐり」

俳句会（24日）



## 月次会報告 【9月】

### ハヶ岳山麓の 美術館めぐり

年に一回は、桐生倶楽部の月次会を歩く会が担当する。例年、歩く会のメンバーが充分下調査をして魅力溢れるプランを作るので、社員やその家族にとって人気のまとなっている。

〇 本年は信州ハヶ岳山麓の美術館めぐりである。早朝 5 時半、桐生クラブを大型バスを満席にして出発。最近としては珍らしく好天に恵まれる。

高崎インターから佐久インターまで、関越・上信越自動車道を利用して、清里到着 9 時。これよりハヶ岳道路を通り、甲斐駒ヶ岳を背にしたサントリーウィスキー白州（はくしゅう）蒸溜所へ行く。10 時から工場をゆっくり見学、試飲をしたり博物館を見たり楽しい 1 時間半を過ごす。次に甲州の銘酒「七賢」酒蔵の 150 年の歴史ある重厚な建物をのぞき、いよいよ南アルプスを一望できる白樺林に囲まれた清春芸術村に到着。12 時半。

ここは集合アトリエ「ラ・リュージュ」と清春白樺美術館、ルオー礼拝堂、梅原竜三郎のアトリエなどから構成されている。中心となる清春白樺



サントリーウィスキー博物館前にて



集合アトリエ「ラ・リュージュ」

美術館は、明治から大正にかけて人道主義・理想主義を掲げた文学者のグループが、志賀直哉・武者小路実篤らを中心とし、機関紙「白樺」を発行、更に自分達の美術館を作ろうという夢をもったが、これは果せず、彼等と親交のあった吉井長三が 1983 年に実現したものである。

展示されている主なものは、セザンヌ・ルオーを中心とした西欧絵画と、岸田劉生・梅原龍三郎・中川一政など白樺派ゆかりの作家の作品。

中食は各人自由だったが、殆どの人は芸術村近くの「翁」のそば。ここは東京からそばだけを食べに来る人もいるという、そば通の間で広く知られた名店。

旅行の最後は清里北沢美術館。19 世紀末フランスに咲いたアールヌーヴォーのガラス工芸のコレクション 450 点を収蔵した美術館。諏訪にある北沢美術館の姉妹館である。山麓の静かな森の中に建つこの美術館で幻想を誘うガラスの数々を 1 時間ほど楽しみ帰途についた。

桐生倶楽部帰着午後 7 時 45 分。

### 〔歩く会〕 7 月例会 野反湖畔花の旅

梅雨明け十日は、例年好天にめぐまれる筈ですが、今年の異常気象は 7 月 25 日も残念ながら小雨模様でした。しかし野反湖畔は高山植物が咲き乱れ楽しい旅ができました。

桐俱 5 時半、マイクロバスで出発、一行 22 名。



野  
反  
湖

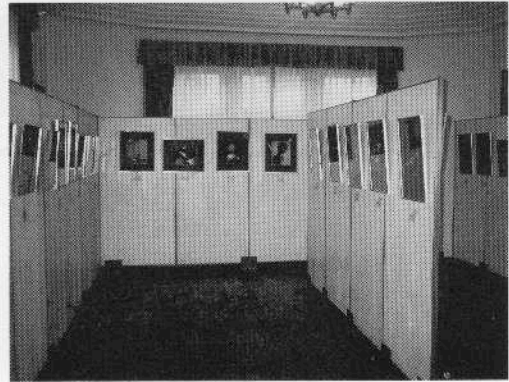


野  
反  
湖  
畔



# 「有隣館と 掛井五郎の作品 を撮る」

桐生倶楽部写真部  
桐生倶楽部1号室



会場 (その2)

桐生市をあげての展覧会、8月29日から50日間にわたって開催された、「有隣館と掛井五郎の仕事」展をテーマに桐生倶楽部写真部（森口二郎部長）の写真展が9月14日から3日間、倶楽部1号室で開催された。

過日、写真部で撮影会をした作品、四ツ切り40数点が展示され彫刻美術品の撮影という難しいジャンルに挑戦した成果を披露した。

会期中の入場者数は150名を超え、15日には掛井五郎先生御夫妻もお見えになり会場に花を添えていただいた。

展示された作品一つ一つに会員が熱心に取り組んだ苦心の跡が見られ個性ある作品で、本来のあのすばらしい彫刻美術品とは又、別の質量感、現実感が表現されていて幻想的な空間を作りだしていた。

来場の掛井先生も大変これらの写真の数々を喜ばれたので、会期終了後、全写真を先生に差し上げました。



会場 (その1)

## 桐生倶楽部七月旬会

遠山に虹かけあがる夕立かな  
機音や夕立暗れによみがえり  
落蟬の裏返りおる木下かな  
向日葵の背丈競いし日々続く  
ひまわりの煙れる雨に所在なく  
蟬鳴くや五百羅漢は五百態  
花着けし胡瓜身ほどの棘をつけ

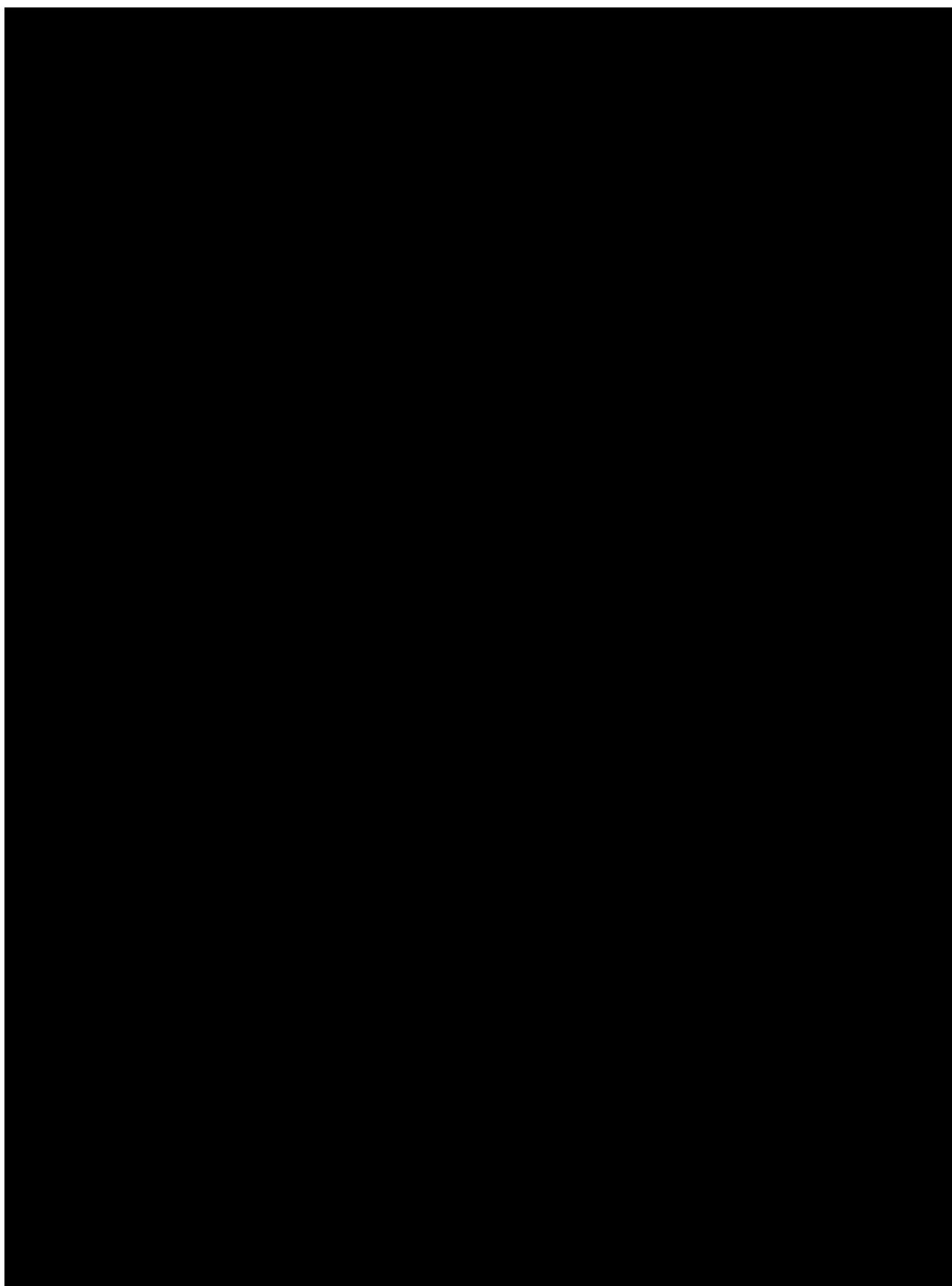
本 田  
廣 瀬  
久 保 田  
森  
大 槻  
小 池  
倉 林

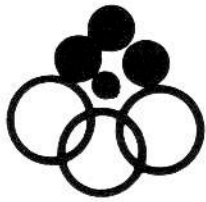
## 桐生倶楽部八月旬会

いくばくの照る日のありて法師蟬  
この姓を継ぐものの無し暮参かな  
筆措きて一人の部屋の遠花火  
一瞬の団扇止めたる大花火  
ソロモンの涯や流燈のみち続く  
墓洗ひ父の享年確めり

大 槻  
小 池  
久 保 田  
本 田  
廣 瀬  
尾 沢







# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 28

### 織物業の近代化(5)

#### ジャカード機の導入

全国の織物産地の中で、桐生ぐらい多種多様な織物を作っている産地はないであろう。だから、桐生の織物は何かと聞かれると困ってしまう。しかし敢て言うなら先染ジャカード織物であろう。先染というのは原糸を先に染めてから製織するもので、白のままの原糸で製織し、織物になってから染める後染と対比される。ジャカード織物とはジャカード機を使用して紋(模様)を出した織物である。お召・帯・ネクタイ等がそうである。

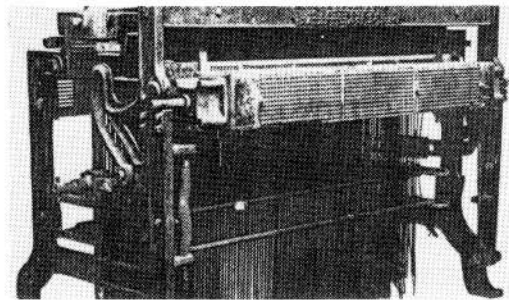
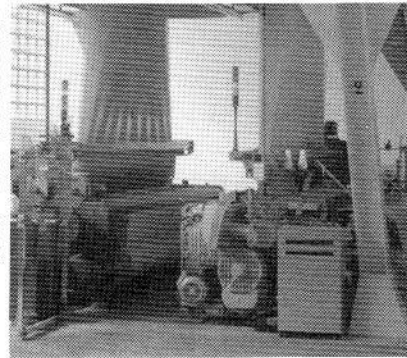
先染ジャカード織物が桐生産地を代表するものであるから、ジャカードの導入は桐生にとって大変大きな意味を持つものであった。桐生織物史によれば、ジャカード機の伝来に2系統ある。一つは、仏国式で明治10年8月上野で開かれた第一回内国勸業博覧会に出品した京都荒木小平の製造したジャカード機を森山芳平等3名が購入したのが最初だという。もう一つは米国式で明治19年佐羽喜六が直輸入し、森山芳平と加藤正一が購入したとある。明治10年代においてジャカード機を使用したのは京都以外では桐生のみである。

さらにジャカード機使用に拍車をかけたのが、明治21年、森山芳平・横山嘉兵衛・藤生佐吉郎の3人が、皇居御造営の時、窓掛用織物の御用命を拜したことである。この仕事のため米国から新た

にジャカード機を輸入し、ために一般の機業家の需要も多くなった。

また横山嘉平は横山式木製ジャカードを考案・普及させたため、明治29年ごろには桐生において半木製ジャカード製造業者が20名にも達したという。ジャカード機は年々改良され、現在は紋紙も使わない電子ジャカードの時代に入りつつある。なお、ジャカード機導入以前の紋織物は、空引(そらひき)機といわれ、1台を2人で受持ち、1人は織機の上で経糸を操作する極めて熟練を要し、かつ非能率的なものであった。

最新の電子ジャカード機  
(織機の上ののっている機械)



森山芳平輸入のジャカード機

## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

### ◎10月

歩く会世話人会(1日)

理事会(7日)

月次会(19日) 私たちの知らない「ドイツ人の生活」講師 寺内維敏氏

ゲスト ぐんま日独協会会長 平形義人氏

俳句会(28日)

歩く会世話人会(28日)

### ◎11月

理事会(8日)

歩く会世話人会(9日)

会報委員会(11日)

歩く会(14日)「草雲描く山と川の街 足利パノラマコースハイキング」

行事委員会(15日)

月次会(22日)「藍は愛によって」講師 大川 仁氏

囲碁会(23日) 秋季囲碁大会

俳句会(26日)



## 月次会報告 【10月】

### 私たちが知らない 「ドイツ人の生活」

講師 寺内 維敏氏



10月月次会は講師に桐生市川内町在住の寺内維敏(だだとし)氏に依頼し、「ドイツ人の生活」についてお話をいただきました。寺内氏は、ドイツで113年の歴史を持つ著名な繊維機械メーカー「ストール社」の極東日本支社に勤務し、セールスエンジニアとして活躍されています。勤務の関係で毎年数回、多い時には10回以上もドイツへ出張されていて、ドイツ人の生活には大変くわしい方です。

寺内氏のお話しに先だって、塚越理事長の友人で、群馬県日独協会の平方会長もわざわざ渋川市からおいでいただき、ご挨拶を賜りました。

#### 「ドイツ人の生活」要旨

ストール社は、ドイツのシュツツガルト近くのロイトリンゲン市にある。ここは人口10万位の小さいが自然の豊かなまちである。

○ドイツの初印象。初めてドイツへ行ったのが23年前、(1)車のスピードの早いこと。(空港を出て一般道路で130km~140km、アウトバーンなら200km以上。

(2)建物の色が茶・黒に統一されている。(これはまだ戦時色が残っていたため)、(3)商店の閉店時間が実にきっちり守られ、土・日の休みも厳格なことなどであった。

#### ○家庭中心の生活

会社の体制・制度もそうになっている。労組も政府の労働管理局も残業をするなど言う。ストール社は、本社の勤務時間は週36時間、金曜半ドン、土・日は休み。しかもなお、週32~34時間にするような要求まで出ている。フレックスタイムも採用され、朝5時に出社して12時に帰る者もいれば、朝9時に出てくる者もいる。

休暇は、1~3ヶ月間位の長期休暇がある。一般の人でも、6月~9月の間に1ヶ月位の休暇がある。冬は1月~2月までの間にグループ別に2

週間ぐらいずつ休む。だから家庭中心の生活となる。

#### ○接待

家庭へ招待するのが最高の接待である。次は高級レストラン(郊外にある)での接待。最低は市内にある普通のレストランでの接待。レストランでの食事は量が多く、時間が長いので苦痛である。しかも料理を残すことを嫌う。

自宅へ招待された場合、絶対忘れてはならないエチケットがある。それは、必ず花束かブーケをもって行き、その家の奥さんに包みをほどいて渡すことである。

招いた方のエチケットとしては、必ず全部の部屋(寝室まで)を見せることである。それは信頼と歓迎の意を表すもの。だからドイツ人を日本人が自宅へ招いた時は同じようにしなければならない。

#### ○家庭でのふだんの食事

豚肉中心。豚肉は皮・骨まで全部食べてしまう。ハム・ソーセージ・チーズは必ず数種類出てくる。

その他、男が家事も手伝うし、こどものしつけもする。一人で飲みに行ったり、ゴルフに行ったりしないとかいう耳の痛い話や、健全で金のかからない余暇の過ごし方、公共のガーデンを希望者に貸して花や果物を作る話、大変行き届いた環境問題に対する考え方や施策は参考にすべきものと思った。

最後に統一ドイツの問題、ベルリンの壁が崩れ統一ができた感激は物すごかった。中産階級がドイツを引張って統一の方向へもって来た。しかし今は、インフレと失業問題で苦しんでいる。統一以前にくらべると生活を切りつめ厳しさに耐えているのが現状である。

## 月次会報告 [11月]

### 「藍は愛によって」

講師 大川 仁氏



大川 仁さん

ジーンズやタペストリーを持ち出すまでもなく私たちの生活の中にすっかり溶けこんだ藍染。

藍の歴史は大変に古く、古代エジプトのミイラを包んだ「マムミー布」にすでに藍が使われていたことはよく知られている。

藍の原産地はインド、中国、アメリカで、わが国へは大陸文化の影響で奈良朝以前に技法が渡来したといわれ、法隆寺や正倉院の収蔵品にそれを見ることができる。

一時、人工藍の出現で衰退した藍も、天竺藍のもつ色の美しさ、堅牢さに加えて、近年、再認識されてきたのが、肌優しい薬草染、としての医学的効用。

11月月次会は、こうした藍のアレコレを、大川仁さんを講師にお招きしてうかがった。大川さんは半世紀にわたって、発酵建てによる天然藍を建てつづけることで、貴重な伝統的工芸技法の保存承継に努めていらっしゃる。当桐生倶楽部の社員でも有り市内に知己が多い。

藍染には天竺藍と人工のそれとがある。色が落ちる、いっしょに洗濯すると色移りする——というのは人工藍の方。天然藍は、時間の経過とともに紺色の鮮明度と安定度が高まりこそすれ、けっして色移りなどしない。

工程としては「すくも」をアルカリ性の水に溶かしてつくった藍液に糸や布を浸して染める。布を液から引き上げると空気中の酸素に反応して、初めは緑色、やがて時間がたつにつれて本来の紺色に発色する。何べんもこうした酸化還元工程をくりかえしながら堅牢な紺色が安定する。

### 大臣表彰、 社員から新たに3氏

桐生倶楽部社員の中から、次の3氏が大臣表彰をおうけになりました。社員一同心からお祝い申し上げます。

清水 信次氏	通産大臣表彰
岸 芳正氏	厚生大臣表彰
佐藤 富三氏	通産大臣表彰

「すくも」は、藍の葉を刻んで積み上げ、専門の「水師」によって繰り返して水をかけることで発酵させる。堆肥づくりの要領だが、藍は水だけで70℃になる。その際、葉を栽培した土壌適否が発酵の成否を左右する。どこでも栽培できるものではない。江戸期、四国・阿波を中心に藍づくりが全盛を極めたのも、吉野川流域の肥沃な地味が栽培に適していたからだ。

全盛を誇った天竺藍だが、明治期に及んでドイツで人造藍が発明され、工業的に製造、輸入されたため、人造品に駆逐された藍は衰退の一途をたどることになる。

藍は、野良着や、カウボーイのジーンズといった労働着として多用された。藍のもつ個々の匂いをガラガラ蛇やマムシが嫌うためという。また、汗をかいてもアセモをつくらなところから肌着としても重用されてきた。

大川さんは、最近、NHKや民放のテレビに出演の機会があり、こうした事例とともに水虫に著効のある実験をしたところ、反響が大きく、びっくりしている。インキン、タムシ、それにアトピー性皮膚炎に効果があるのでは—、という。

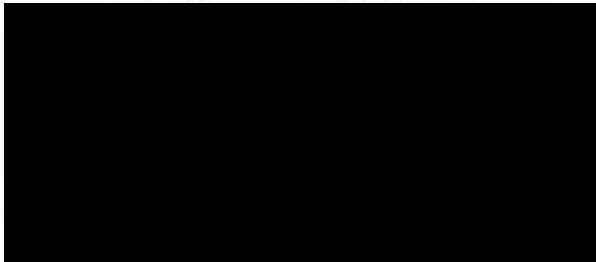
人工藍との識別は極めて難しい。製品ラベルに「正藍」と標示されていても判断しかねるのが、本家、の悩みだという。こうした品質を認めて、デザイナーの山本寛斎さんや、コシノ・ジェンコさんからの問い合わせもしきりという大川さん、今後も頑固に本モノの藍を守りつづけるという。



会場風景



新入社員紹介



〔歩 く 会〕 11月例会

足利スカイラインを歩く

歩く会11月例会は、14日8時桐生駅に13名集合、JRで足利駅へ、駅からタクシー合乗りで行道山登り口まで行く。9時。ここから関東の高野山といわれる浄因寺をめざして歩き出す。

昨夜来の豪雨に洗われた紅葉、黄葉を賞でながら、落葉を踏んで歩く。途中から陽が出て、まるで梅雨時のような蒸し暑さである。汗を拭きつつ浄因寺に着く。境内の菽椿が満開。全く今年の異常気象はいたずらをするものだ。参道に建てられたおびただしい数の石仏、特にねはん台の寐釈迦を中心とした四十九院仏は非常に珍しいものだろうである。

寐釈迦から石尊山・剣ヶ峰・両崖山と関東ふれ合いの山道を登り降りする。両崖山は足利城址である。ここで丁度正午、各々持参の弁当を開く。城址からホワイトパレスへ行き、コーヒーで一休みしてから織姫神社へ、ここが足利ハイキングコースの終点。JR足利駅まで4kmというので、市内を思い思いに散策してJRで帰る。



行道山登り口

桐生倶楽部 九月旬会

さわやかに馬車のひづめの追いつめぬ  
海峽に伸びて乱るる鯛雲  
コスモスの中に浮かびし八ヶ岳  
萩の道国分寺と尼寺遠からず  
祝言は明日といふ娘や秋海棠  
鯛雲動く事なく動きあり  
爽やかな植木鉢の響あり  
草の寺空一面の鯛雲  
さやかに神の大鼓の打ち始む  
山壁を刻む朝日に鯛雲  
さわやかに太田数塚新桐生

久保田 本田 小池 倉林 尾澤 清水 森 大槻 遠藤 広瀬 有富

有富光英選 十句

天 海峽に伸びて乱るる鯛雲  
地 葛藤のほどけたる夜のさやかなり  
人 ポート皆引き上げられて鯛雲  
爽やかにありし浮世の石地藏  
鯛雲動く事なく動きあり  
鯛雲クレインの先はゆつくりと  
さわやかに馬車のひづめの追いつめぬ  
爽やかに白樺林抜けて来ぬ  
萩の道国分寺と尼寺遠からず  
鯛雲湧き出するなり遠浅間

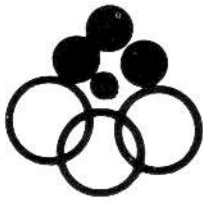
本田 尾澤 久保田 清水 清水 倉林 久保田 小池 倉林 尾澤

桐生倶楽部 十月旬会

子の手より逃げし風船百舌日和  
年毎に稲架減らしゆく過疎の村  
百舌鳴きて見上げし小枝ふるえけり  
どの家も柿実らせて里日和  
窯に火を入れて豆柿もぎにけり  
入り相の柿白壁に凭れあり  
街の灯も船の灯も点き秋日暮る  
百舌鳴くや一瞬大地おさまりぬ  
稲架立てば曲りくねりし畦走る

尾澤 本田 大槻 久保田 小池 広瀬 倉林 清水 森

社団法人 桐生倶楽部会報 第78号  
1993年(平成5年) 12月発行  
発行人 塚越平人  
編集責任者 小池久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社



# 社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 29

### 織物業の近代化(6) 補遺

前号まで織物業の近代化として5回にわたって述べてきた。即ち機業経営の近代化として、成愛社・日本織物株式会社、撚糸業の近代化として日本絹撚株式会社、整理業として向毛製織株式会社、また機織法の近代化としてジャカード機の移入である。しかしまだ書き渡らしたことがあるのを今号で補っておきたいと思う。

#### 1. 機業経営の近代化として縮緬機業会社

明治の初期、群馬県では県下の重要産業に対し企業資金を貸与して、育成をはかった。本会社はこの中の一つで、明治15年川内仁田山に設立された。発起人は川内の星野伝七郎、桐生新町佐羽吉右衛門、小俣村木村半兵衛、安楽土村岩崎丑蔵の4人で資本金1万5千2百円、県から1千5百円の貸与をうけた。生産品は主として輸出品の縮緬類。但しこの会社は諸々の事情があり、2年後の明治17年、安楽土(現在の東5丁目)に移り、岩崎三郎が責任者となり桐生縮緬会社となった。

#### 2. 機織法の近代化の例として、力織機の使用

人力による手織機に対し、動力による力織機の使用は格段の製織能率をあげさせたものである。明治4年新宿の江原貞蔵が力織機を購入、水車を

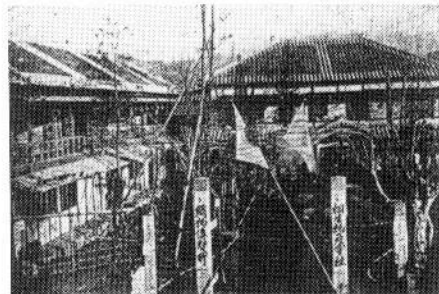
使って動かそうとした記録があるが、実用には遅かった。本格的な力織機の使用は、明治20年日本織物株式会社が半国製を輸入したことにはじまる。明治44年、日本織物株式会社に勤務していた村田兵作は独立してジャカード機の製作、次いで力織機の製造に成功している。

#### 3. 染色法の近代化

桐生に初めて西洋染料の入ったのは元治元年といわれるが、本格的に西洋染料が桐生織物に使われるようになったのは明治15年ごろからで、森山芳平・後藤定吉・小林久太郎・川井貞吉・横山久四郎等の努力による。当時桐生織物に変色褪色するという不評をかっていた。森山芳平達は明治19年織物講習所を設立、西洋染料による染色法を普及させて、桐生織物の不評を一掃するという大きな功績を挙げた。

#### 4. 組織の近代化 — 桐生会社の設立

明治11年、桐生の機屋・買次商が、不正品を取締り桐生織物の声価を高めるため桐生会社を設立した。後、桐生物産会社と改称、練張屋・紺屋・撚糸屋を加え、桐生織物発展の中心機関となった。



桐生物産会社及織物講習所

### ＝ 倶楽部 だ よ り ＝

#### ◎12月

クリスマス祭(4日)  
臨時理事会(6日)  
歩く会(12日)「武蔵野の面影を訪ねる旅」  
理事会(13日)  
俳句会(23日)

#### 平成6年

#### ◎1月

新年互礼会(4日)

歩く会(9日)「新春旧東海道・東海七福神めぐり」  
会報委員会(12日)  
理事会(18日)  
写真部会(20日)  
監査会(24日)  
俳句会(25日)  
歩く会世話人会(25日)  
臨時理事会(28日)  
定時社員総会(28日)





## 〔歩く会〕 12月例会

## 武蔵野の面影を訪ねる旅

今回はバス利用の旅。素晴らしい企画なので、案内状発送して間もなく定員一杯になり締切り、キャンセル待ちが多数出るといふ盛況であった。

12月12日、朝6時半桐俱を大型バスで出発、関越三芳パーキングエリアで下りて先ず平林寺、野火止用水へ。平林寺は埼玉県新座市にある名高い古刹、広大な境内林は武蔵野の面影を色濃く残している。次は井之頭公園、ここには北村西望のアトリエとその作品群がある。昼食は深大寺へ参詣してから参道に軒を連ねる名物深大寺そば店へ。最終は中近東文化センター見学、ここは三笠宮の発意のもと、故出光佐三の協力により15年前に創設された。エジプトや古代オリエント文明などの研究所を兼ねた美術館である。

夕刻6時桐俱帰着。



平林寺



深大寺参道

## 〔歩く会〕 1月例会

## 東海道七福神めぐり

1月例会は恒例の七福神めぐり。本年は旧東海道の沿う東海七福神めぐりとなる。

1月9日(日)、新桐生駅集合、絶好の上天気。参加は四十名という大人数。7時31分発のロマンスカーで浅草へ。浅草から都営地下鉄で京浜急行新馬場駅まで行く。ここから歩き出すが、最初の品川神社(大黒天)は目の前。あとのコースは、

品川神社(大黒天) — 法禅寺(布袋尊) — 一心寺(寿老人) — 荏原神社(恵比寿) — 品川寺(毘沙門天) — 天祖諏訪神社(福祿寿) — 磐井神社(弁財天)

旧東海道の沿って約5キロ2時間の行程。品川はさすがに東海道五十三次の第一番の宿駅であっただけに、由緒ある社寺が多い。また東海七福神めぐりの人達が多く、列を作って歩くようである。

当初の計画では磐井神社近くの京浜急行大森海岸駅で解散の予定であったが、品川寺から自由行動にしてしまい、各自案内図を片手に好きな所を好きなように廻って楽しんだ。



品川神社

## ☆ 歩く会これからの予定 ☆

- 3月 幻の池がある野峰山(梅田)登山
- 4月 JR信越線で信州あんずの里へ
- 5月 新緑の鳴神社登山
- 6月 上越の大展望。三国峠から三国山へ。
- 7月 梅雨明けの会津磐梯山登山



### 叙勲受章者 (敬称略)

(叙勲)

増山作次郎 勲四等旭日小綬章(金融業功労)  
塚越 平人 勲四等瑞宝章(ガス事業功労)

(大臣表彰)

岸田 英作 法務大臣表彰(人権擁護功労)  
河原井源次 運輸大臣表彰(自動車整備事業振興功労)  
岸 芳正 厚生大臣表彰(精神保健功労)  
清水 信次 通産大臣表彰(商工会議所運営功労)  
横山 仁一 通産大臣表彰(商工会議所運営功労)  
佐藤 富三 通産大臣表彰(伝統的工芸品産業功労)

(名誉町民)

近藤英一郎 大間々町名誉町民推挙

ぎのとおりです。

位置 桐生市仲町2丁目243番地、木造平家建床面積58.82㎡、和瓦葺、モルタル、風除け室、事務室、湯沸室、更衣室、前室、トイレ。

### 桐生倶楽部 十一月旬会

熊手持つ手をさし上げて遠会釈  
空堀に山茶花散らす城址かな  
担ぐには余りに軽き熊手かな  
それなりに手締めの小さき熊手買ふ  
無器用に生きて悔なし木の葉髪  
木の葉髪終日雨を見てあたり  
山茶花のこぼれるままの里の家  
灯点りて熊手持つ子は父の背  
山茶花の惜しみなく散る朝の庭  
山茶花のはらりと散りし昼下り

小池 遠藤 倉林 久保田 本田 尾沢 森 広瀬 清水 大槻

### 秋 期 囲 碁 大 会

平成5年11月23日、恒例の囲碁大会が倶楽部6号室で行われました。

日頃、腕に覚えの面々が集まって終日たのしく烏鷲を戦わせました。

因に、当日の成績(上位者)は次の通りです。

- 1位 福永 儀一 2位 野田友治郎  
3位 島 勝二 4位 吉成 敏郎  
5位 山上 喜一 (敬称略)

※ 土曜日午後は部会のメンバーが6号室に集まりますのでお出掛け下さい。

### 桐生倶楽部 十二月旬会

霜の夜を来ての馳走や茶の熱き  
霜よけの笹鳴るばかり村暮るる  
普請場の土新しく霜化粧  
コーヒーの香の滴ちてくる障子かな  
古障子誰が繕ひし花模様  
ひと駅を待たずに暮るる冬日かな  
足早のラッシュに霜の終りけり  
清盛の塚打ち濡らす寒の潮

本田 久保田 尾沢 小池 広瀬 大槻 清水 倉林

### ク リ ス マ ス パ ー テ ィ ー

恒例のクリスマス会が今年も12月4日桐生倶楽部広間で行われました。司会は岡部、高松両社員。塚越、小池正副理事長のあいさつのあと「きよしこの夜」を全員で斉唱、森社員が聖書朗読「もろびとこぞりて」斉唱とプログラムを進め、待望のサンタクロースのプレゼントで会場が沸きました。今年のコンサートはソプラノ斉藤祐江さん、伴奏長島まさ子さんと雰囲気盛りあげました。

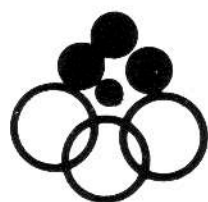
### J C 事 務 局 棟 地 鎮 祭

桐生倶楽部駐車場の南西隅に建設される桐生青年会議所事務局の地鎮祭が、昨年12月15日、関係者列席の下、厳粛に行われました。主な仕様はつ

### 退 社 社 員 (敬称略)

桐生ハイヤーセンター(株) 横塚 秀男  
松井 輝一郎 平野 安一

社団法人 桐生倶楽部会報 第79号  
1994年(平成6年) 2月発行  
発行人 塚越 平人  
編集責任者 小池 久雄  
印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人

## 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 〔桐生のあゆみ〕

No. 30

## 染色教育機関

(桐生織物学校)

桐生における染織関係の教育は、明治9年に長野三郎が新町5丁目(本町5丁目)に染織講習所を開いたのが始まりという。これは約1年間で終わり、次は明治19年の織物講習所(桐生のあゆみNo29参照)になる。この講習所が発展し、明治29年文部大臣の認可を得、町立桐生織物学校となった。これが当地方中等学校の嚆矢である。校舎は当初、織物組合の一部を借用し、後に現在の「市立青年の家(旧女子高)」の所に新築移転した。

織物学校は明治33年、町立から県立に移管され、大正2年3月廃校に至るまで県下はもちろん、日本国内において有数の工業学校として日本の織物業、特に桐生織物業の発達に多大の貢献をした。

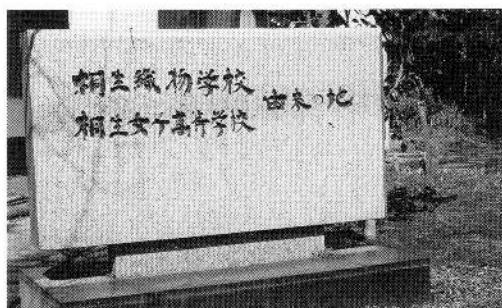
初代校長は鶴田久蔵であったが1年余で辞任され、次の校長が井岡大造である。井岡校長は乞われて東京から桐生に赴任、満13年8ヶ月間校長を勤めた。人格高潔にして博学多識、先生の没後、薫陶を受けた子弟の会や関係者が先生の徳を慕い、その功績を表彰する碑を桐生ヶ岡公園に建てている。明治43年3月井岡校長の後を継いだのが東京高等工業学校(後の東京工大)教授高力直寛である。高力直寛は山形県の人であるが、明治15年、

桐生に來り森山芳平工場の客員となり、染色機織法の研究をした。そのすぐれた織物に関する技術が認められ、東京高等工業に招聘され教授となっていたが、桐生織物学校々長として再び來桐したわけである。

織物学校は校長のみならず、金子竹太郎教頭をはじめ、前原悠一郎、下山又次郎、岩下竜太郎等東京蔵前高工出身の英才が教諭に揃っていた。

織物学校は桐生市へ高等染織学校(群大工芸部の前身)を設置することになり、県立伊勢崎工業学校へ併合され大正2年閉校となったが、17年間の同校の存在があってこそ昭和初期の桐生織物の黄金時代があるのである。

明治も末近く、桐生の将来のため高等教育機関を設置すべしという声が高力直寛をはじめ町民有志の間からおきた。その声町を挙げての運動となり県を動かし、大正8年桐生高等染織学校の開校となったのである。



「青年の家」構内にある  
桐生織物学校の記念碑

## ＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

## ◎ 2 月

- 理事会 (9日)
- 俳句会 (19日)
- 文化活動委員会 (25日)
- 歩く会世話人会 (28日)

## ◎ 3 月

- 理事会 (9日)
- 歩く会 (13日)「双円峰“野峰”登山」

## 写真部 (19日～20日)

- 「太平洋の日の出とあんこう鍋」
- 囲碁部 (20日) 春季囲碁大会
- 月次会 (22日)「桐生市の人口問題」  
講師 桐生市総務部情報管理課  
課長 園田 功氏

## 俳句会 (28日)

- 歩く会世話人会 (28日)



## 月次会報告

【3月】

〔歩く会〕

3月例会

## 人口問題の現状

講師 桐生市総務部情報管理課

課長 園田 功氏 他

久しぶりの月次会は、多くの市民の関心を集めている桐生市の人口問題について、統計の専門的立場から現状を卒直に話していただいた。講師は園田課長と金井、荒川の3氏。

講演の要旨は、先ず日本の人口構成がピラミッド型から、ひょうたんのように第一次ベビーブーム、第二次ベビーブームによるふくらみを持った逆ピラミッド型になりつつある。これは少産少死のためである。桐生も同様であるが、特徴としては

- (1) 昭和51年の総人口 135,721人をピークに平成6年の 125,202人まで減少の一途を辿っている。
- (2) 平成6年の人口は、女性が64,615人、男性が60,587人で、常に女性の数が男性より多い。
- (3) 高齢化率が高い。65才以上の割合が16.5%であり、両毛5都市（桐生・太田・館林・足利・佐野）の中で最も高齢化している。

当日の講演は統計的な説明だけであったが、人口問題については、一昨年市議会・産業界及び市民の代表者により組織された「人口問題懇談会」と市職員によって組織された「人口問題研究会」に於て一年間議論を重ねた結果、昨年3月に「人口問題報告書」が発表された。それによると、人口減の原因として、可住地面積が少い、産業の低迷、交通体系が不十分などが指摘されていた。

(当番理事 佐藤・赤石)



月次会 3月22日

桐生からよく見える双円峰  
“野峰” 登山

歩く会三月例会は、梅田（実際は栃木県田沼町）の野峰山へ登った。3月13日8時、桐生倶楽部集合、一行14人、自家用車に分乗して梅田の県立青少年野外活動センターに向う。センターの近くに駐車して8時半スタート。今回は特別に野峰にくりわしい市の小林青少年課長さんにご案内をしていただく。

曇空ながら風が無く暖かい杉林の中を約1時間歩いて県境（群馬と栃木の境）の碑の所で小休止。ここから急坂となり残雪が見られるようになる。途中、梅田・尾尾・日光の山々の遠望を楽しみながら歩く。10時半「まぼろしの池」に到着。まぼろしと言われるのは、つい最近まで山頂近くに池がある。いや池はないと二説あったため。確かに池はあったが氷に閉ざされ更に雪におおわれていた。

11時10分、野峰山頂（1,009.9米）到着。中食をとって12時帰路につく。帰路は途中から小林課長の推薦する往路と異なる大岩が連なる険しい道。岩茸もとれるというが、成程とうなずける絶壁もある。しかし一同無事に下山。予定より早く2時半桐生倶楽部帰着。（当番 小堀・金井）



「幻の池」は雪と氷に閉ざされていた。



野峰山頂



## 写真部会バスツアー

### 太平洋の日の出とあんこう鍋

写真部会（森口部長）では、自然と味覚を尋ねて早春の勿来（なこそ）、いわき、小名浜方面に一泊二日のバスツアーを計画した。

3月19日朝8時、一行十名マイクロバスで桐生倶楽部出発水戸に向う。途中笠間市にできた出雲大社常陸分社を参拝。水戸から常盤自動車道に入り、北茨城インターで降りて野口雨情記念館、近くの雨情生家を見る。雨情は「赤い靴」「七つの子」「青い眼の人形」などの童謡、「波浮の港」「船頭小唄」「上州小唄」などの新民謡の詩人として、北原白秋・西条八十と共に三巨匠と云われる人だが、特に庶民的で郷土色豊かな作品が多い。記念館には大変豊富な資料が集まっていた。生家は古くは水戸徳川家藩主の御休息所で「観海亭」と呼称され、「磯原御殿」とも云われた名家。今に残る生家もその昔を偲ばせる立派なもの。

次に五浦（いづら）海岸の天心遺跡公園に行く。ここは岡倉天心が日本美術院を移し、横山大観・菱田春草・木村武山などと共に芸術活動に励んだところ。今は有名な六角堂・天心荘、大きな「亜細亜は一つなり」の碑、天心の墓などが残っているのみ。

ここから5キロほど北上すると勿来（なこそ）の関跡である。5世紀に「白河の関」「念珠ヶ関」とともに作られた「奥州三古関」の一つである。源義家が後三年の役のため奥州へ下る折、「吹く風をなこそこの関と思へども道もせに散る山桜かな」と詠んだことで有名。今は源義家の大きな銅像、文学歴史館などがある。ここから四倉海岸の民宿へ直行の予定だったが、まだ日が高いというので、いわき市立石炭・化石館へ寄る。ここの模擬抗道には、実際に使われた木樫が多数生まれ、古い時代から現代までの採炭状況の移り変りが再現されていて面白かった。

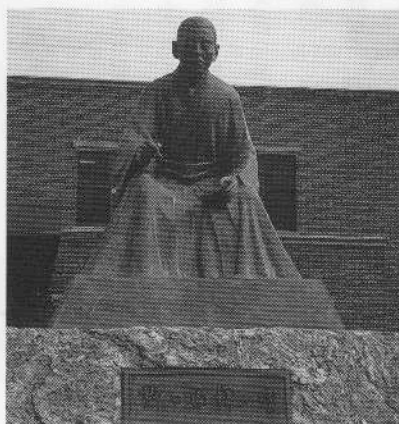
5時民宿好洋荘到着。夜はやや季節はずれだが大変おいしいあんこう鍋をつつきながら歓談。

翌20日は、朝5時半起床、6時には撮影の目的地、波立（はだち）海岸へ到着して一同カメラをセットして日の出を待つ。だが残念ながら曇天太陽は見えない。これだけは何ともならない。9時

好洋荘出発。途中海岸の景色を撮りながら有名な塩屋崎灯台へ。塩屋崎の断崖上に建つこの灯台は、「喜びも悲しみも幾年月」の歌の舞台である。また最近では美空ひばりの「みだれ髪」の歌が流れる遺影が作られ、訪れる人が多くなったとのこと。

更に10キロほど南下して小名浜港に出る。ここで土産の魚を買い、昼食もすませ、いわき勿来インターから常盤自動車道で帰路につく。午後6時予定された時間に倶楽部到着。

天候に恵まれなかったのは残念であったが、見る所が多く、食べものもおいしく、そして何よりも車中、旅館での歓談が楽しく、収穫の多い旅行であった。



野口雨情の像と記念館  
資料館になっていて、  
記念館の二階は北茨城市歴史民俗



野口雨情の生家

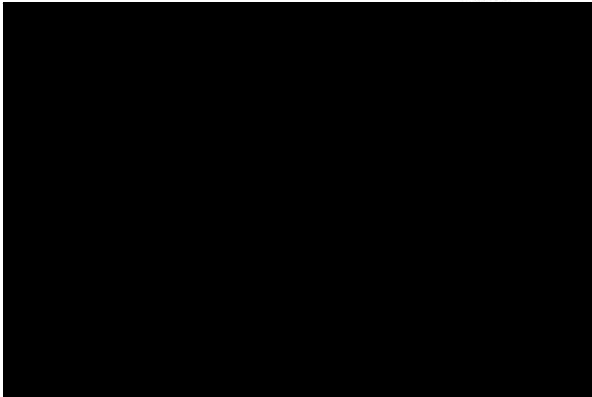


天心の六角堂

ここで天心はよく思索にふけたという



### ◆ 新 入 社 員 紹 介 ◆



温室の窓開け放つ四温晴れ  
 実の数を競ふでもなし菽柑子  
 菽柑子奥の院へは百余段  
 水音を消して生れし滝水柱  
 踏石のかけに実を持つ菽柑子  
 菽柑子一茎挿せる古徳利  
 丈の順並べて朝の軒水柱  
 旅終へて雨になりけり四温の夜  
 登校の子等数へ行く水柱かな

本 田 倉 林 小 池 久 保 田 清 水 尾 沢 広 瀬 大 槻 塚 越

#### 桐生倶楽部 一月句会

野を焼きし匂ひまとひて帰りきし  
 春立つや祈願の絵馬の重なりて  
 野の焼ける音の次第に遠ざかる  
 川なりに炎の曲りける野焼きかな  
 野焼跡とところどころに石の顔  
 遠灯りちらちら雪のちらちらと  
 かき祭り牡蠣の供養に始まりぬ  
 大雪や親しき人の喪の続く  
 握り飯片手に野焼く老農夫  
 遥けき田黒絨緞は野火の跡

本 田 久 保 田 大 槻 尾 沢 森 遠 藤 倉 林 小 池 清 水 広 瀬

#### 桐生倶楽部 二月句会

### 春 季 囲 碁 大 会

3月20日10時より、桐生倶楽部春季囲碁大会が開かれ、8名が参加した。成績は下記の通り。

優 勝	福 永 儀 一
準優勝	広 瀬 進
第3位	山 上 喜 一
第4位	野 田 友 治 郎
第5位	金 谷 利 男

### 文化活動委員会の会議

2月25日、文化活動委員会（委員長金谷善介、副委員長藤江敏雄）が開催され、文化活動委員会内の各部会の予算配分が行なわれ、今後の事業予定につき、各部長から報告があった。

予算配分は下記の通り。

美術部会	3万円	懸話会	4万円
俳句部会	2万円	麻雀部会	2万円
囲碁部会	5万円	ゴルフ部会	4万円
将棋部会	3万円	歩く会	10万円
		(特)	10万円
ビデオ部会	2万円	写真部会	2万円
音楽鑑賞部会	2万円		
予備費	3万円	合計	53万円

なお、部会として新しく「クラブ21委員会」が、近く発足の予定なので、部会が正式に発足すれば予算が配分されることとなる。

恒例の桐生倶楽部文化祭は、5月13日(金)、14日(土)、15日(日)、ガーデンパーティーは15日4時からと決定した。

### 写真部バスツアーの写真



波立海岸



潮屋崎灯台と海猫の群れ



小名浜港

社団法人 桐生倶楽部会報 第80号

1994年(平成6年) 4月発行

発行人 塚越平人

編集責任者 小池久雄

印刷 ツボノ印刷株式会社